EXILIM【エクシリム】

J Z

液晶デジタルカメラ

EX-Z1050

取扱説明書
(保証書付き)

ごあいさつ

このたびはカシオ製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

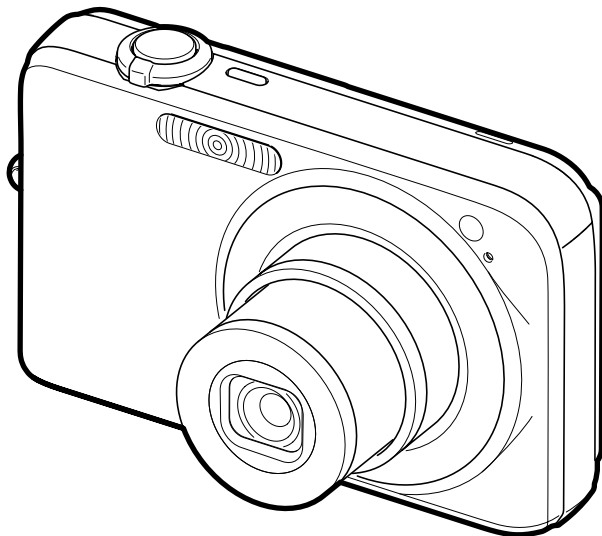
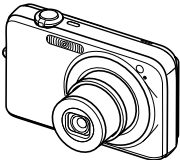
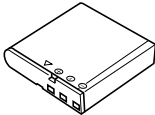
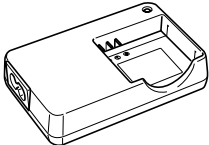
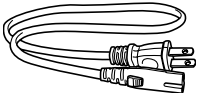
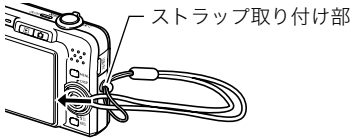
- 本機をご使用になる前に、必ず別冊の「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- 本書はお読みになった後も、大切に保管してください。
- 本製品に関する情報は、カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイト（http://dc.casio.jp/）またはカシオホームページ（http://casio.jp/）でご覧になることができます。

すぐに使いたいかたは ここをご覧ください 9ページ

K847FCM1PKC

そろっていますか

箱を開けたら、以下のものがすべてそろっているか確認してください。そろっていないときは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

目次

静止画を撮影する 39

動画を撮影する 56

撮りたいシーンを選んで撮影する(ベストショット) 58

よりよい撮影のための設定　69

静止画や動画を再生する　88

撮影した画像を編集する 97

音声を活用する 110

撮ったものを整理する 113

消去する 118

付録 155

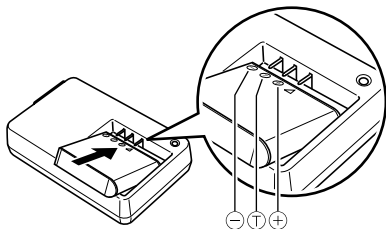
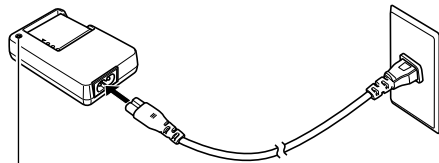
すぐに使いたいかたはここをご覧ください

箱を開けたら

電池を充電する

（詳しくは→23ページ）

■ 充電器を使って充電する

1. 電池を充電器にセットする

2. 充電器を家庭用コンセントに接続する

【CHARGE】ランプ
赤点灯：充電中
消灯　：充電完了

- 約2時間30分でフル充電されます。

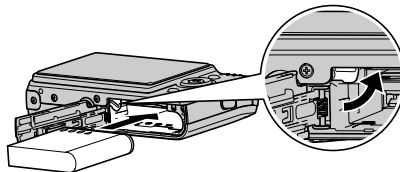
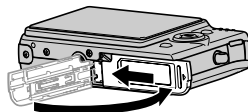
■ 電池を入れる

1. 電池カバーを開ける

軽く押しながら矢印の方向にスライドしてカバーを開ける

2. 電池を入れる

3. 電池カバーを閉める

最初に電源を入れたら　メッセージの言語を選び、日付と時刻を合わせる

（詳しくは→122、124ページ）

お買い上げ後、初めて電源を入れたときに必要な操作です。

- 日本で使う場合の操作例です。
- 表示言語や日時を間違って設定した場合、設定し直すことができます（122、124ページ）。

1. 【ON/OFF】を押して電源を入れる

2. 【▲】【▼】【◀】【▶】を押して"日本語"を選び、【SET】を押す

3. 【▲】【▼】【◀】【▶】を押して日本のエリアを選び、【SET】を押す

4. 【▲】【▼】を押して"Tokyo"を選び、【SET】を押す

5. 【▲】【▼】を押して"切"を選び、【SET】を押す

これで、サマータイムにはなりません。

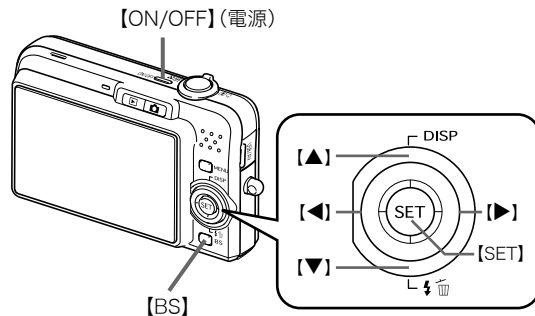
6. 【▲】【▼】を押して日付の表示スタイルを選び、【SET】を押す

例）2007年12月19日

"年／月／日"　→　"07/12/19"と表示
"日／月／年"　→　"19/12/07"と表示
"月／日／年"　→　"12/19/07"と表示

7. 日付と時刻を合わせる

【◀】【▶】で年、月、日、時、分を選び、【▲】【▼】で数字を合わせます。
12時間／24時間表示を切り替えるには、【BS】を押します。

8. 【SET】を押す

【ON/OFF】を押していったん電源を切り、次に進んでください。

メモリーカードを準備する

■ メモリーカードを入れる

本機で撮影した画像はメモリーに保存されます。

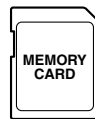
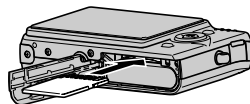
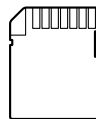
参考

- 高画質の静止画、大きなサイズの静止画を何枚も撮影したり、長時間の動画を撮影したいときは、市販のメモリーカードをお使いください。
- メモリーカードがなくても、カメラに内蔵のメモリーを使って撮影できます。次の「静止画を撮影する」(13ページ)に進んでください。
- メモリーカードは当社で動作確認されたメモリーカードをおすすめします。動作確認を行ったメモリーカードについては、カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイト(http://dc.casio.jp/)をご覧いただくか、本書巻末記載の「カシオお客様相談室」にお問い合わせください。
- メモリーカードに保存できる枚数については173ページをご覧ください。

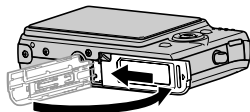
(詳しくは→30ページ)

1. 電池カバーを開ける

軽く押しながら矢印の方向にスライドしてカバーを開ける

2. メモリーカードを入れる

表面　裏面

メモリーカードの裏面を上(液晶モニター側)にして、カチッと音がするまでしっかり押し込む

3. 電池カバーを閉める

■ メモリーカードをフォーマットする

メモリーカードを最初にカメラに入れたときは、カメラで使えるようにするために、「フォーマット」という作業をします。

重要

- すでに静止画などが保存されているメモリーカードをフォーマットすると、その内容がすべて消去されます。
  フォーマットは普段行う必要はありませんが、画像の記録速度が遅くなったなどの異常が見られる場合にフォーマットしてください。
- メモリーカードは、必ずカメラを使って以下の手順でフォーマットしてください。

1. 【ON/OFF】を押して電源を入れる

2. 【MENU】を押す

3. 【◀】【▶】を押して"設定"タブを選ぶ

4. 【▼】を何回か押して"フォーマット"を選び、【▶】を押す

5. 【▲】を押して"フォーマット"を選び、【SET】を押す

- フォーマットをやめるときは、"キャンセル"を選んで【SET】を押します。
- "処理中です　しばらくお待ちください"の表示が消えるまでお待ちください。

静止画を撮影する

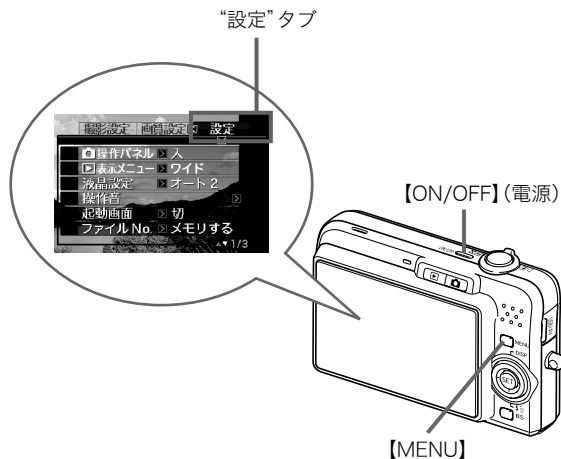
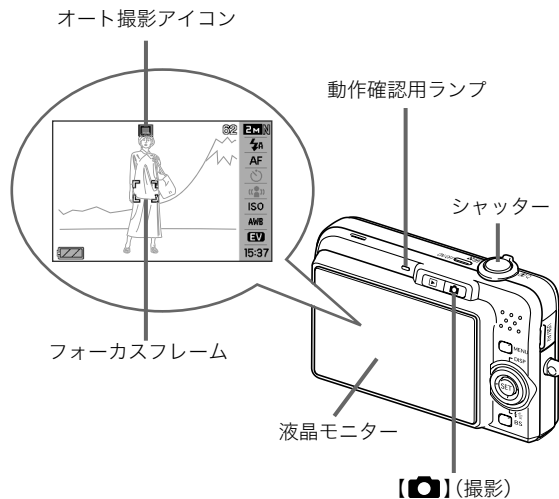
オート撮影アイコン

動作確認用ランプ

シャッター

フォーカスフレーム

液晶モニター

【📷】（撮影）

1. **【📷】（撮影）を押して電源を入れる**

撮影モードになり、液晶モニターに“▭”（オート撮影アイコン）が表示されます。

（詳しくは→39ページ）

2. **ピントを合わせる**

①カメラを被写体に向けます。

②カメラが動かないように気をつけながらシャッターを半押しします。

ピントが合うと“ピピッ”と音がして、動作確認用ランプとフォーカスフレームが緑になります。

3. **カメラを固定したままシャッターを最後まで押し込む**

撮影した静止画は約1秒表示されたあとメモリーに保存され、次の撮影ができる状態になります。

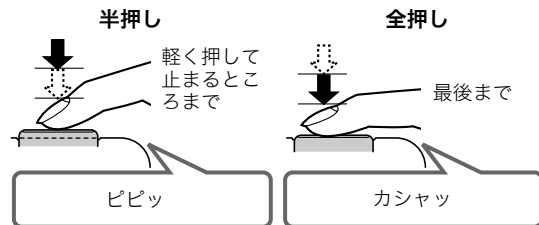
静止画の画像サイズと画質について

このカメラでは、いろいろな画像サイズや画質を選んで撮影できます。選んだ画像サイズや画質によって、撮影できる静止画の枚数は異なります。

- プリンターで印刷する、メールに添付する、またはホームページに載せるなど、特定の目的のために撮影するときは、必要に応じて画像サイズや画質、プリントサイズを変更してください。

詳しくは→42、43、173ページ

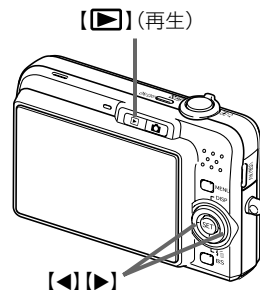
シャッターの半押しって？

シャッターを軽く押すと、いったん止まるポイントがあります。そのポイントで、それ以上シャッターを押さないでいる状態を「半押し」といいます。カメラは、シャッターを半押しすると、カメラを向けている被写体に対して自動的に露出やピントを合わせます。
どのくらいの力で押し込むと半押しになるかを覚えるのが、きれいな静止画を撮影するコツです。

■ シャッターを半押しせずに一気に押し込んだときは

クイックシャッター（73ページ）が働き、シャッターチャンスを逃さず撮影できます。

- クイックシャッターが働くと、通常のオートフォーカスよりはるかに高速でピントを合わせるので、動きの速い被写体を撮影するときに便利です。ただし、正確にピントが合わない場合があります。
- 多少時間がかかっても正確にピントを合わせたい場合は、シャッターを半押ししてピントを合わせたあと撮影してください。

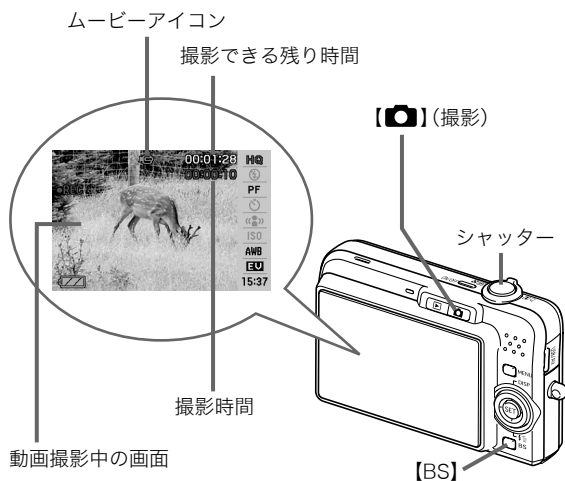
撮影した静止画を見る

（詳しくは→88ページ）

1. **【▶】（再生）を押す**

再生モードになります。
何枚か撮影してあるときは、【◀】【▶】を押して、前後の画像を見ることができます。

■ 撮影モードに戻るには

【📷】（撮影）を押します。

動画を撮影する

1. 【●】(撮影)を押す

撮影モードになります。

2. 【BS】(BEST SHOT)を押す

(詳しくは→56ページ)

3. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“ ムービー”のシーンを選び、【SET】を押す

液晶モニターに“ ”(ムービーアイコン)が表示されます。

4. シャッターを押して動画の撮影を開始する

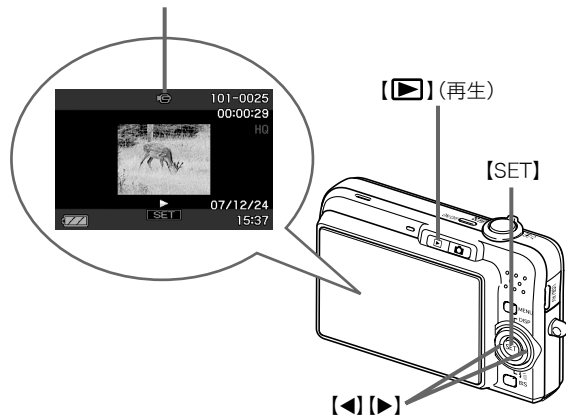
- 音声も記録されます。

5. もう一度シャッターを押して撮影を終了する

動画の画質について

このカメラでは、動画の画質を3種類の中から選べます(高品位、標準、長時間)。カメラの性能を最大に活かしてきれいな動画を撮るには、高品位に設定してお使いください。
画質は、再生したときの画像のきめ細かさや滑らかさ、美しさを示す目安です。画質を落としても長時間の撮影をしたい、メモリーの残り容量が少ない、といったときに“標準”や“長時間”に切り替えてください。

詳しくは→56、173ページ

撮影した動画を見る

（詳しくは→89ページ）

1. **【▶】(再生)を押す**

再生モードになります。

2. **【◀】【▶】を押して、再生したい動画を選ぶ**

動画の場合、動画の最初の画面が表示されます。

3. **【SET】を押して再生を始める**

最後まで再生されると、手順2の状態に戻ります。

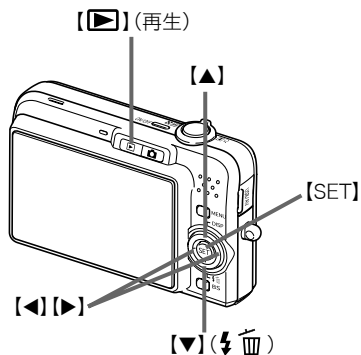
- 動画再生中に、音量を調整する、コマ送りする、などいろいろな操作ができます。→90ページ

■ 撮影モードに戻るには

【📷】(撮影)を押します。

撮影した画像を消去する

撮影した画像は次々にメモリーに保存され、メモリーの残りの容量が少なくなっていきます。必要な画像は、パソコンに取り込んだりプリンターで印刷したあとメモリーから消し、次の撮影のためにメモリーの残り容量を増やしてください。

(詳しくは→118ページ)

1. 【▶】(再生)を押す

2. 【▼】(⚡ 🗑)を押す

3. 【◀】【▶】を押して、消去したい静止画、動画を選ぶ

4. 【▲】を押して"消去"を選ぶ

- 消去を中止するときは"キャンセル"を選びます。

5. 【SET】を押す

選んだ静止画、動画が消去されます。

- さらに消去を続けるには、手順3から繰り返します。
- 消去の作業を終えるときは、【MENU】を押します。

はじめに

特長

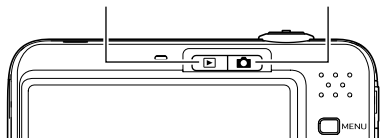
■ カメラ内蔵のサンプル画像を選ぶだけで、きれいに撮れるベストショット機能

「夜景と人物を写します」「花を写します」など、撮りたいシーンを選ぶだけで、最適な設定で撮影されます。独立した【BS】ボタンで操作性が格段に向上しています。

例：人物をきれいに撮りたいとき

■ 希望のモードで電源オン

見たいときは【▶】で再生モードに

撮りたいときは【📷】で撮影モードに

■ 撮影に便利な機能いろいろ

- シャッター速度の高速化により、手ブレ・被写体ブレを軽減（61ページ）
- フラッシュを使わなくても暗くなることを防ぐ高感度撮影（62ページ）
- シャッターチャンスを逃さず撮影可能なクイックシャッター機能（73ページ）
- 動画撮影（Motion JPEG準拠）が可能（56ページ）

■ プリント機能も充実

- 日付印刷や印刷枚数の指定が簡単にできるDPOF機能（130ページ）
- 画像データ上に日付が焼き込めるタイムスタンプ機能（82ページ）
- PictBridge、USB DIRECT-PRINTに対応。この規格のプリンターがあればパソコンがなくても自宅でプリント可能（128ページ）

あらかじめご承知ください

■ 液晶パネルについて

液晶モニターに使用されている液晶パネルは、高精度な技術で作られており、有効画素は99.99%以上です。点灯しない画素や常時点灯する画素が存在することがありますが、液晶パネルの特性で、故障ではありません。

■ 著作権について

個人で楽しむ場合などのほかは、画像／動画フォーマットファイル、音声／音楽フォーマットファイルを権利者に無断で複製することは著作権法や国際条約で固く禁じられています。また、これらのファイルを有償・無償に関わらず権利者に無断でネット上で記載したり、第三者に配付したりすることも著作権法や国際条約で固く禁止されています。万一、本機が著作権法上の違法行為に使用された場合、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書にしたがって正しい取り扱いをしてください。

本文中の以下の用語は、それぞれ各社の登録商標または商標です。なお、本文中には、™マーク、®マークを明記していません。

- SDHCロゴは商標です。
- Microsoft、Windows、Internet Explorer、Windows Media、Windows Vista、およびDirectXは、米国およびその他の国におけるMicrosoft Corporationの登録商標または商標です。
- Macintosh、Mac OS、QuickTime、およびiPhotoは、Apple Inc.の商標です。
- MultiMediaCardは、独Infineon Technologies AG社の商標であり、MMCA（MultiMediaCard Association）にライセンスされています。
- MMC*plus*はMultiMediaCard Associationの商標です。
- HOTALBUMおよびHOT ALBUMロゴは、コニカミノルタフォトイメージング（株）の登録商標または商標であり、ホットアルバムコム（株）にライセンスされています。
- EXILIM、Photo Loader、およびPhoto Transportは、カシオ計算機（株）の登録商標または商標です。
- Photo Loader with HOT ALBUMは、HOT ALBUMとPhoto Loaderをベースに開発された、カシオ計算機（株）およびホットアルバムコム（株）の著作物であり、著作権およびその他の権利は、これらに帰属します。
- その他の社名および商品名は、それぞれ各社の登録商標または商標です。

本製品に付属するソフトウェアを、無断で営業目的で複製（コピー）したり、頒布したり、ネットワークに転載したりすることを禁止します。

- 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤りなど、お気付きのことがありましたらご連絡ください。
- 本書の一部または全部を無断で複写することは禁止されています。また、個人としてご利用になるほかは、著作権法上、当社に無断では使用できません。
- 万一、本機使用や故障により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。
- 万一、Photo Loader with HOT ALBUM、Photo Transport使用により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。
- 故障、修理、その他の理由に起因するメモリー内容の消失による、損害および逸失利益等につきまして、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。
- 取扱説明書に記載している画面やイラストは、実際の製品と異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

使用上のご注意

■ 撮影前はためし撮りを

- 必ず事前にためし撮りをして、カメラに画像が正常に記録されていることを確認してください。

■ データエラーのご注意

- 本機は精密な電子部品で構成されており、以下のお取り扱いをすると内部のデータが破壊される恐れがあります。
  - カメラの動作中に電池やメモリーカードを抜いた
  - 電源を切ったときに動作確認用ランプが緑色に点滅している状態で電池やメモリーカードを抜いた
  - 通信中にUSBケーブルがはずれた
  - 消耗した電池を使用し続けた
  - その他の異常操作

このような場合、画面にメッセージが表示される場合があります（170ページ）。メッセージに対応した処置をしてください。

■ 使用環境について

- 使用できる温度の範囲は、0℃～40℃です。
- 次のような場所には置かないでください。
  - 直射日光の当たる場所、湿気やホコリの多い場所
  - 冷暖房装置の近くなど極端に温度、湿度が変化する場所
  - 日中の車内、振動の多い場所

■ 結露について

- 真冬に寒い屋外から暖房してある室内に移動するなど、急激に温度差の大きい場所へ移動すると、本機の内部や外部に水滴が付く（結露）ことがあります。結露は故障の原因になりますので、ご注意ください。結露を防ぐには、温度差の大きな場所の間を移動する前に、本機をビニール袋で密封しておき、移動後に本機を周囲の温度に充分慣らしてから取り出して、電池カバーを開けたまま数時間放置してください。

■ 電源について

- 必ず当社の専用リチウムイオン充電池（NP-40）をお使いください。他の電池は使用できません。
- 本機には時計専用の電池は入っていません。電池で電源が供給されていないと、約2日で日時がリセットされますので、その場合は再度設定してください（122ページ）。

■ レンズについて

- レンズ面は強くこすったりしないでください。レンズ面に傷が付いたり、故障の原因となります。
- レンズの特性（歪曲収差）により、撮影した画像の直線が歪む（曲がる）場合がありますが、故障ではありません。

■ カメラのお手入れについて

- レンズ面が指紋やゴミなどで汚れていると、カメラ本体の性能が十分に発揮できませんので、レンズ面には触れないでください。レンズ面の汚れは、ブロアー等でゴミやホコリを軽く吹き払ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。
- フラッシュ面が指紋やゴミなどで汚れていると、カメラ本体の性能が十分に発揮できませんので、フラッシュ面には触れないでください。フラッシュ面の汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。
- 本機が汚れた場合は、乾いた柔らかい布で拭いてください。

■ 撮影画像の確認について

- 本機での通常の再生表示は縮小画像のため、撮影した画像の詳細を確認することができません。本機では画像を拡大して表示させる機能がありますので、大切な写真等を撮影されたときは、撮影された画像を拡大表示して、画像の確認をしていただくことをおすすめいたします（94ページ）。

■ 充電式電池の取り扱いについて

- リサイクルのお願い

不要になった電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。

<最寄りのリサイクル協力店へ>
詳細は、有限責任中間法人JBRCのホームページをご参照ください。
- ホームページ　http://www.jbrc.com/

- 使用済み充電式電池の取り扱い注意事項
  - プラス端子、マイナス端子をテープ等で絶縁してください。
  - 被覆をはがさないでください。
  - 分解しないでください。

■ メモリーカードやカメラ本体を廃棄／譲渡するときのご注意

本機の「フォーマット」や「削除」機能では、メモリーカード内のファイル管理情報だけが変更され、データそのものが変更されないことがあります。メモリーカード内のデータは、お客様の責任において管理してください。たとえば以下のような手法をおすすめします。

- 廃棄の際は、メモリーカード本体を物理的に破壊するか、市販のデータ消去専用ソフトなどを使用してメモリーカード内のデータを完全に消去する。
- 譲渡の際は、市販のデータ消去専用ソフトなどを使用してメモリーカード内のデータを完全に消去する。

また、内蔵メモリーのデータは「フォーマット」機能（126ページ）で完全に消去してからカメラ本体を廃棄・譲渡することをおすすめします。

■ その他の注意

- 使用中、本機は若干熱を持ちますが、故障ではありません。

撮影前の準備をする

充電式電池を充電する

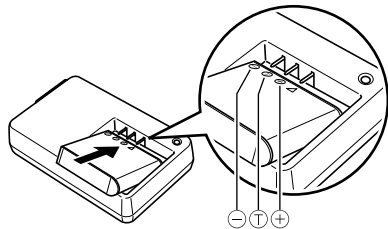
本機は、当社の専用リチウムイオン充電池（NP-40）を電源として使用します。

重要

- NP-40以外の電池は使用できません。

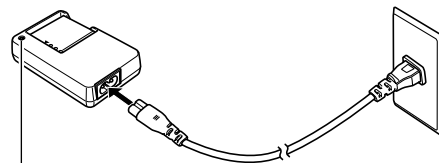
お買い上げ直後は、電池はフル充電されていません。「電池を充電する」にしたがって充電してください。

電池を充電する

1. 電池と充電器の極性を合わせ、電池を充電器にセットする

- 電池と充電器の極性を合わせて入れてください。向きが違っていると充電できません。

2. 充電器を家庭用コンセントに接続する

【CHARGE】ランプが赤色に点灯し、充電が始まります。

- 約2時間30分でフル充電されます。充電時間は、電池の容量や残量、使用環境によって若干変化します。

充電が完了すると

【CHARGE】ランプが消灯します。電源コードをコンセントから抜き、そのあと充電器から電池を取りはずしてください。

【CHARGE】ランプが赤色に点灯しないときは

周辺温度または充電器の温度が高温または低温状態で、充電できないことを示しています。そのまま常温で放置してください。充電可能な温度になると充電が始まり、【CHARGE】ランプが赤色に点灯します。

【CHARGE】ランプが赤色に点滅したときは

電池の不良、電池のセット不良を示しています。電池を充電器から取り出し、充電器との接点部の汚れを調べてください。汚れていたら、乾いた布で拭き、充電器に入れ直してください。電源コードがコンセント、充電器からはずれかけていないかも確認してください。

上記の処置をしてもエラーが起こる場合は、電池の不良が考えられます。カシオテクノ修理相談窓口にお問い合わせください。

重要

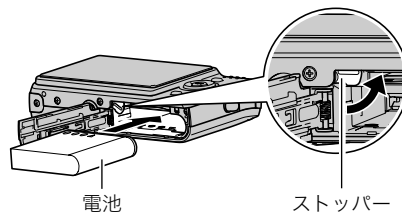
- 専用リチウムイオン充電池(NP-40)は専用充電器(BC-31L/BC-30L)を使って充電してください。他の充電器では充電できません。思わぬ事故につながる可能性があります。
- 使用した直後の熱くなった電池をすぐに充電すると、充分に充電されない場合があります。いったん電池が冷えるのを待ってから充電してください。
- 電池は使用せずに放置していた場合でも、自己放電します。必ず充電してからご使用ください。
- 充電中、テレビやラジオに雑音が入ることがあります。そのような場合は、テレビやラジオからできるだけ離れたコンセントをご使用ください。

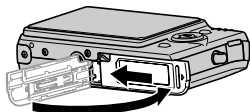
電池を入れる

1. 電池カバーを開ける

電池カバーを押しながら矢印の方向にスライドさせます。

2. 電池を入れる

電池のEXILIMのロゴのある面を上(液晶モニター側)にして、電池の側面でストッパーを矢印の方向にずらしながら電池を入れます。ストッパーが電池にかかるまでしっかり押し込んでください。

3. 電池カバーを閉める

電池カバーを閉じ、本体に押しつけながら、スライドして閉めます。

■ 電池寿命と撮影可能枚数について

詳しくは173ページをご覧ください。

■ 電池を長持ちさせるために

- フラッシュを使用しなくてよいときは、フラッシュの発光方法を“ ”(発光禁止)にしてください。電池寿命が長くなります(47ページ)。
- オートパワーオフ機能やスリープ機能を使用することにより、電源の切り忘れなどのむだな消費電力をおさえることができます(29ページ)。

■ 電池の残量を確認するには

電池が消耗すると、液晶モニターに表示される電池残量表示が下記のように変化します。

電池の残量	多い ←――――――――――――――→ 少ない						
電池残量表示		→		→		→	
残量表示の色	水色	→	オレンジ色	→	赤色	→	赤色

“ ”は電池残量が少ないことを表しています。早めに充電してください。

“ ”の状態では撮影できません。すぐに充電してください。

重要

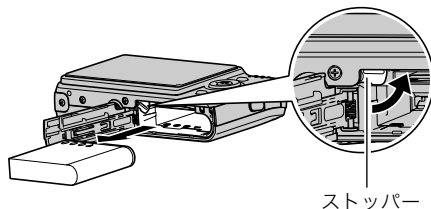
- 撮影モードと再生モードの切り替えをした場合、電池残量表示の状態が変わることがあります。
- 電池が入っていない、または消耗している状態でカメラを約2日放置すると、日時の設定がリセットされ、再度日付の設定が必要になります。

電池を交換する

1. 電池カバーを開く

2. 電池を取り出す

①図のように液晶モニターを上に向けた状態で、ストッパーを矢印方向へずらす

②そのままの状態で、出てきた電池を引き抜く

3. 新しい電池を入れる

電池に関するご注意

■ 使用上のご注意

- 寒い場所では、電池の特性上、充分に充電されていても、使用時間が短くなります。
- 5℃〜35℃の温度範囲で充電してください。範囲外の温度で充電すると、充電時間が長くなったり、充分な充電ができないことがあります。
- 充電直後でも電池の使用時間が大幅に短くなった場合は、電池の寿命と思われますので、新しいものをお買い求めください。

■ 保管上のご注意

- リチウムイオン充電池は小型で高容量の電池ですが、充電された状態で長期間保管すると特性が劣化することがあります。
  - – しばらく使わない場合は、使い切った状態で保管してください。
  - – 使用しないときは必ず充電池をカメラから取りはずしてください。取り付けたままにしておくと、電源が切れていても微少電流が流れていますので、電池が消耗し、充電に時間がかかったり、カメラがこわれたりします。
  - – 乾燥した涼しい場所（20℃以下）で保管してください。

海外で使うときは

以下のことにご注意ください。

- 付属の充電器はAC100V～240V、50/60Hzの電源に対応していますが、使用する国によってプラグ形状等が各国、各地域で様々なため、あらかじめ旅行代理店などにお問い合わせください。
- 充電器の電源に、電圧変換器等はご使用にならないでください。故障の原因となります。

■ 予備の電池について

旅先で電池が切れて撮影ができなくなってしまうことを防ぐため、フルに充電した予備の電池（NP-40）をお持ちになることをおすすめします。

- 電池はお買い求めの販売店またはカシオ・オンラインショッピングサイト（e-カシオ）でご購入ください。
  e-カシオ：http://www.e-casio.co.jp/

電源を入れる／切る

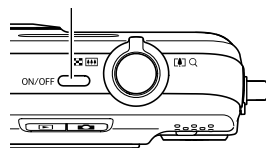
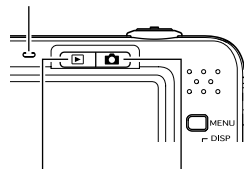
■ 電源を入れる

電源を入れて撮影モードにするには

【ON/OFF】（電源）または【📷】（撮影）を押します。

電源を入れて再生モードにするには

【▶】（再生）を押します。

ボタンを押すと、動作確認用ランプが緑色に一時点灯し、電源が入ります。

重要

- 【ON/OFF】または【📷】（撮影）で電源を入れるとレンズが出てきます。その際にレンズを押さえたりぶつけたりしないようにしてください。レンズを手で押さえ込んでレンズの動きを妨げると、故障の原因になります。

参考

- 撮影モードのときに【▶】（再生）を押すと再生モードに切り替わり、約10秒後にレンズが収納されます。
- オートパワーオフ機能（29ページ）により、一定時間操作しないと、自動的に電源が切れます。この場合は、電源を入れ直してください。

■ 電源を切る

【ON/OFF】（電源）を押します。

参考

- 【📷】（撮影）や【▶】（再生）を押しても電源が入らないようにすることができます。また、【📷】（撮影）や【▶】（再生）でも電源が切れるようにすることもできます（125ページ）。

お買い上げ後、最初に電源を入れたときは

画面に表示されるメッセージなどの言語および日時を設定する画面が表示されます。「メッセージの言語を選び、日付と時刻を合わせる」をご覧になって正しく設定してください（10ページ）。

重要

- 日時を設定しないと、撮影した画像に正しい日時が記録されません。
- 表示言語や日時を間違って設定した場合、設定し直すことができます（122、124ページ）。

■ 電池の消耗を抑える

本機は電池消耗を抑えるため、スリープ機能とオートパワーオフ機能を備えています。撮影モードでは下記のように設定することができます。

機能	動作	設定できる値
スリープ	一定時間操作しないと液晶モニターの表示を消します(スリープ状態)。何かボタンを押すと、表示が戻ります。	30秒 1分 2分 切
オートパワーオフ	一定時間操作しないと、電源が切れます。	1分 2分 5分

- 再生モードでスリープ機能、オートパワーオフ機能を設定しても、再生モードでは常に下記のようになります。
  - スリープ機能は働きません。
  - オートパワーオフ機能は5分に固定されます。

1. 【MENU】を押す

2. 【◀】【▶】で"設定"タブを選ぶ

3. 【▲】【▼】で設定したい項目("スリープ"または"オートパワーオフ")を選び、【▶】を押す

4. 【▲】【▼】でスリープ状態になるまで、またはオートパワーオフまでの時間を選び、【SET】を押す

スリープの設定で"切"を選ぶと、スリープ機能は働きません。

参考

- スリープ機能とオートパワーオフ機能の設定が同じ時間の場合、オートパワーオフ機能が優先されます。
- 以下の状態のときは、スリープ機能、オートパワーオフ機能は働きません。
  - 本機をパソコンなどの機器に接続しているとき
  - ボイスレコード録音・再生中
  - 動画撮影・再生中

メモリーカードを使う

撮影した画像は、メモリーカードに保存することができます。市販のメモリーカードをご用意ください。本機はメモリーを内蔵しており、この内蔵メモリーだけでも数枚程度の静止画や短い動画の撮影はできます。テスト用や緊急用などにご利用ください。

参考

- 内蔵メモリーとメモリーカード間で画像をコピーすることもできます(116ページ)。
- 次の情報は、内蔵メモリーに記録されます。メモリーカードにコピーすることはできません。
  - ベストショットモードのカスタム登録情報
  - お気に入りフォルダの情報
  - 各種設定を記憶させているモードメモリの情報
  - 起動画面の画像

使用できるメモリーカード

本機では次のメモリーカードが使用できます。
SDメモリーカード
SDHCメモリーカード
MMC(マルチメディアカード)
MMC*plus*(マルチメディアカードプラス)

- メモリーカードは当社で動作確認されたメモリーカードをおすすめします。動作確認を行ったメモリーカードについては、カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイト(http://dc.casio.jp/)をご覧いただくか、本書巻末記載の「カシオお客様相談室」にお問い合わせください。
- メモリーカードに保存できる枚数については173ページをご覧ください。

記録に使用されるメモリー

撮影した画像は、メモリーカードを入れているときはメモリーカードに、入れていないときは内蔵メモリーに記録されます。

- メモリーカードを入れた状態で内蔵メモリーに記録することはできません。

重要

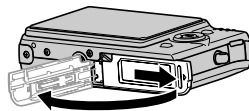
- メモリーカードを使う際はメモリーカードの取扱説明書もあわせてお読みください。
- カードの種類によって処理速度が遅くなる場合があります。特に高品位(HQ)の動画は正常に記録できない場合があります。また、使用するメモリーカードによっては、記録時間がかかるため、コマ落ちする場合があります。このとき、"[icon]"と"●REC"が点滅します。メモリーカードは、最大転送速度が10MB/s以上のメモリーカードの使用をおすすめします。
- SDメモリーカードまたはSDHCメモリーカードには、書き込み禁止スイッチがあります。誤って消去する不安があるときは使用してください。ただし、撮影・フォーマット・消去時は解除しないと各操作が実行できません。
- 静電気、電気的ノイズ等により記録したデータが消失または破壊することがありますので、大切なデータは別のメディア(CD-R、CD-RW、MOディスク、ハードディスクなど)にバックアップして控えをとることをおすすめします。

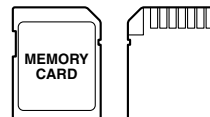
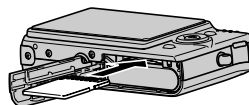
メモリーカードを入れる

重要

- メモリーカードの抜き差しは、電源を切った状態で行ってください。
- カードには、表裏、前後の方向があります。無理に入れようとすると破損の恐れがあります。

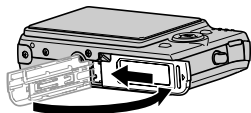
1. 電池カバーを開ける

電池カバーを押しながら矢印の方向にスライドさせます。

2. メモリーカードを入れる

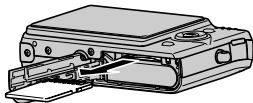
メモリーカードの裏面を上(液晶モニター側)にして、メモリーカード挿入口にカチッと音がするまで押し込みます。

表面

裏面

3. 電池カバーを閉める

電池カバーを閉じ、本体に押しつけながら、スライドして閉めます。

メモリーカードを交換する

1. メモリーカードを取り出す

メモリーカードを押すと、カードが少し出てきます。手で引き抜いてください。

2. 別のメモリーカードを入れる

重要

- メモリーカード挿入口には指定のメモリーカード（30ページ）以外のものは入れないでください。
- 万一異物や水がメモリーカード挿入部に入り込んだ場合は、本機の電源を切り、電池を抜いて、カシオテクノ修理相談窓口（186ページ）またはお買い上げの販売店にご連絡ください。
- 動作確認用ランプが緑色に点滅している間にメモリーカードを取り出さないでください。撮影された画像が記録されなかったり、メモリーカードを破壊する恐れがあります。

メモリーカードをフォーマットする

新しいメモリーカードを初めて使用するときは、フォーマット（初期化）する必要があります（一度フォーマットすれば、使うごとにフォーマットする必要はありません）。

すでに画像が記録されているメモリーカードをフォーマットすると、メモリーカードの内容がすべて消去されます。

重要

- メモリーカードをフォーマットすると、消去されたデータを元に戻すことはできません。フォーマットする前に、本当にフォーマットしてもよいかどうかをよく確かめてください。
- ファイルデータにメモリープロテクト（114ページ）をかけていても、メモリーカードをフォーマットすると、すべてのデータが消去されます。
- メモリーカードは必ずカメラでフォーマットしてください。パソコンでフォーマットすると処理速度が著しく遅くなります。またSDメモリーカードまたはSDHCメモリーカードの場合、SD規格非準拠となり、互換性・性能等で問題が生じる場合があります。

1. フォーマットしたいメモリーカードをカメラに入れる

2. 電源を入れ、【MENU】を押す

3. "設定"タブ→"フォーマット"と選び、【▶】を押す

4. 【▲】【▼】で"フォーマット"を選び、【SET】を押す

フォーマットが始まります。
フォーマットが終了したら、再生モードに切り替え、「ファイルがありません」と表示されることを確認してください。

- フォーマットを実行しないときは、"キャンセル"を選んでください。

■ メモリーカードのご注意

- 万一メモリーカードの異常が発生した場合は、メモリーカードのフォーマット操作で復帰できますが、外出先などでこの操作ができない場合に備えて複数枚のメモリーカードをお持ちになることをおすすめします。
- 撮影した画像を再生したとき、異常が発生した場合は、一度フォーマットしてお使いいただくことをおすすめいたします。
- メモリーカードは撮影／消去を繰り返すとデータ処理能力が落ちてくるので、定期的にフォーマットすることをおすすめします。
- フォーマット操作は、フル充電状態の電池を使用してください。フォーマット中に電源が切れると、正しくフォーマットされず、メモリーカードが正常に動作しなくなる恐れがあります。
- フォーマット中に電池カバーを開けることは、絶対におやめください。メモリーカードが正常に動作しなくなる恐れがあります。

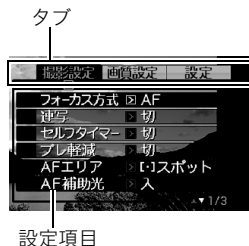
メニュー操作を覚える

本機では、メニューを操作していろいろな設定を行います。まず、この操作を覚えてください。

- メニューの内容については、「メニュー一覧表」(159ページ)をご覧ください。

メニュー画面の例

【MENU】を押すと、メニュー画面が表示されます。

- メニューの内容は、撮影モードと再生モードで異なります。この画面は、撮影モードでのメニューです。

メニュー画面で使うボタン

【◀】【▶】	タブを選びます。【▶】は、項目の決定にも使います。
【▲】【▼】	設定項目を選びます。
【SET】	選択した設定内容に決定します。
【MENU】	メニュー操作を中断して、メニューを消します。

以下に、撮影モードでのメニューの操作のしかたを示します。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す

メニュー画面が表示されます。

2. 【◀】【▶】で設定したい項目のあるタブを選ぶ

ここでは、"撮影設定"タブを選んでください。

3. 【▲】【▼】で設定したい項目を選び、【▶】を押す

例:"フォーカス方式"を選んで【▶】を押したとき

4. 【▲】【▼】で設定したい内容を選ぶ

5. 決定する

- 【SET】を押すと、選んだ内容に決定され、メニュー画面が消えます。
- 【SET】の代わりに【◀】を押すと、選んだ内容に決定され、メニュー画面に戻ります。さらに続けて次の設定ができます。
- 他のタブを選ぶときは、【◀】を押したあと【▲】でタブに戻り、【◀】【▶】で他のタブに切り替えます。

液晶モニターの表示内容を切り替える

表示メニューという画面で、液晶モニターの表示内容をお好みに合わせて設定することができます。

画面のレイアウトを選ぶ

撮影モード、再生モードではそれぞれ設定内容が異なります。

■ 撮影モードでのレイアウト

撮影モードでは、画面に表示されるアイコン等のレイアウトが選べます。

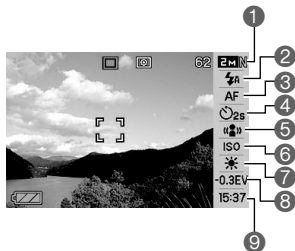
1. 撮影モードにして【MENU】を押す

2. 【◀】【▶】で“設定”タブを選ぶ

3. 【▲】【▼】で“ 操作パネル”を選び、【▶】を押す

4. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す

操作パネル	説明
入	画面の右側にアイコンが集中的に表示されます。画像の上に表示されるアイコンが少ないため撮影のさまたげになりません。さらに、撮影モード中に【SET】を押せば、各種項目の設定が素早くできます。
切	画像をできるだけ画面いっぱいに表示しますので、“16:9”の画像(42ページ)を大きく表示して撮影したいときなどに便利です。アイコンは画面に重なって表示されます。

本書では、操作パネルが“入”の状態で説明しています。

操作パネル

❶画像サイズ／画質※1(42、43ページ)
❷フラッシュ(47ページ)
❸フォーカス方式(69ページ)
❹セルフタイマー(51ページ)
❺ブレ軽減(61ページ)
❻ISO感度(78ページ)
❼ホワイトバランス(77ページ)
❽EVシフト(75ページ)
❾日付／時刻の表示※2、※3(122ページ)

※1 操作パネル上では画質の切り替えはできません。
※2 日付または時刻の表示が選べます。
※3 日付の表示は"表示スタイル"の設定により、「月／日の順」と「日／月の順」の2つから選ぶことができます(122ページ)。時刻の表示は"日時設定"の設定にかかわらず、24時間制で表示されます(122ページ)。

以下に、操作パネルの操作のしかたを示します。

1. 撮影モードにして【SET】を押す

操作パネルのアイコン部分の設定が可能になります。

2. 【▲】【▼】で設定したい項目を選ぶ

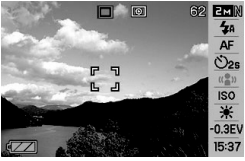
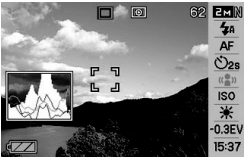
3. 【◀】【▶】で設定したい内容を選ぶ

4. 決定する

- 【SET】を押すと、選んだ内容に決定され、元の撮影モードの画面に戻ります。
- 続けて他の項目を選ぶときは、【SET】を押さずに【▲】【▼】で他の項目に切り替えます。

重要

- ボイスレコード使用時は、操作パネルは表示されません。

■ 再生モードでのレイアウト

再生モードでは、再生画像の表示範囲が選べます。

1. 再生モードにして【MENU】を押す

2. 【◀】【▶】で“設定”タブを選ぶ

3. 【▲】【▼】で“▶ 表示”を選び、【▶】を押す

4. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す

表示の種類	説明
ワイド	画像を画面の幅いっぱいを使って、できるだけ大きく表示します。画像の縦横の比率によって、画像の上下が切れて表示されます。
4:3	画像が常に100%表示されます。画像の縦横の比率によって、画像の上下、または左右に黒い帯が表示されます。

表示される内容を選ぶ

【▲】(DISP)を押すごとに、画面に表示される情報表示の有無が選べます。撮影モード、再生モードでそれぞれ設定できます。

情報の種類	説明
情報表示あり	カメラの設定内容等の情報が表示されます。
ヒストグラム付	カメラの設定内容等の情報に加え、ヒストグラム(83ページ)が表示されます。
切	カメラの設定内容等の情報を表示しません。

重要

- 音声付き静止画の音声待機中／記録中は、画面に表示される情報表示の有無を選ぶことはできません。
- ボイスレコードでは次のように切り替わります。
  - 撮影モード時：「情報表示あり」と「画面の消灯」の選択
  - 再生モード時：「情報表示あり」と「切」の選択

正しい操作のしかたがわからなくなったら

撮影中、再生中に、意図しないボタン操作で思わぬ画面に切り替わったときは、以下のように操作してください。

撮影モード中

切り替わってしまった画面	元に戻すには
メニュー画面	【MENU】または【カメラ】を押します。
ベストショット画面	【BS】または【カメラ】を押します。
「ファイルがありません」という表示	【カメラ】を押します。
再生モードの画面	【カメラ】を押します。

再生モード中

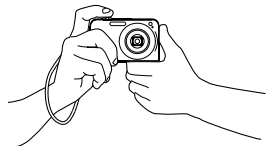
切り替わってしまった画面	元に戻すには
メニュー画面	【MENU】または【▶】を押します。
撮影モードの画面	【▶】を押します。
「消去」の画面	【▶】を押します。または、“キャンセル”が選ばれていることを確認して【SET】を押します。

静止画を撮影する

カメラの正しい構えかた

カメラは、片手で持つと手ブレの原因になります。両手でしっかり持って撮影してください。

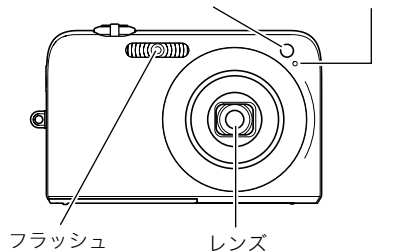
- 誤ってカメラを落とすことのないように、必ずストラップを取り付け、ストラップに指や手首をかけて操作してください。
- 付属のストラップは本機専用です。他の用途に使用しないでください。
- ストラップを持って本機を振り回さないでください。

横に持つとき

図のように持ち、脇をしっかり締めてください。

縦に持つとき

レンズよりフラッシュが上にくるように持ちます。

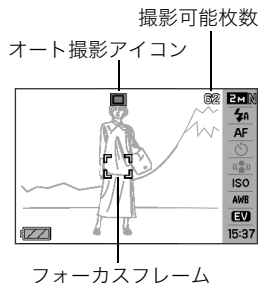
重要

- 指やストラップが図に示す部分をふさがないようにしてください。

参考

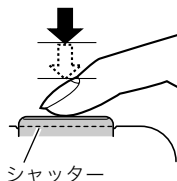
- シャッターを押し切った瞬間にカメラがぶれたり、オートフォーカス動作中(シャッター半押し時)にカメラがぶれると、きれいな画像が撮れません。正しく構えて、シャッターを静かに押し、シャッターを押し切った瞬間にカメラが動かないようにしてください。特に暗い場所で撮影するときはシャッター速度が遅くなるので、注意してください。

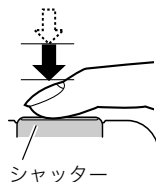
撮影する

1. **【】(撮影)を押して撮影モードにする**

液晶モニターに、被写体(人や風景など)と、オート撮影アイコン“”が表示されていることを確かめます。オート撮影アイコン“”以外のアイコンが表示されるときは、“オート”に切り替えます(58ページ)。

2. **ピントを合わせる**

フォーカスフレームを被写体に合わせ、シャッターを半押しします。

オートフォーカス機能で自動的にピントが合い、フォーカスフレームと動作確認用ランプが緑になります。また、絞り値、シャッター速度、ISO感度が自動的に決まります。

3. **撮影する**

ピントが合った状態でシャッターを最後まで押し込みます。

撮影した静止画は、順次、メモリーカードまたはカメラの内蔵メモリーに保存されていきます。

参考

- 絞り値は、光の入り口の大きさを示します。絞り値が大きいほど光の入り口は狭くなります。本機では、自動的に調節されます。
- シャッター速度は、光を取り入れる時間を示します。シャッター速度が遅いほど光を取り入れる時間が長くなります。液晶モニターに表示されるシャッター速度の単位は秒です(1/1000秒など)。本機では、自動的に調節されます。

ピントが合っていない場合

フォーカスフレームが赤のままで、動作確認用ランプが緑に点滅しているときは、ピントが合っていません(被写体との距離が近すぎるときなど)。もう一度カメラを被写体に向け直して、ピント合わせをしてみてください。

撮影した静止画を確認するには

撮影した静止画は少しの間液晶モニターに表示されますが、すぐに消え、次の撮影ができる状態になります。
撮影した静止画をゆっくり確認したいときは、【▶】(再生)を押して再生モードにします。【◀】【▶】を押すと、前後の画像を確認することができます。

撮影モードに戻るには

【📷】(撮影)を押します。

■ シャッターを半押しせずに一気に押し込んだときは

シャッターを半押しせずに一気に押し込んでも、静止画を撮影することができます。ただし、クイックシャッター(73ページ)の設定状態により、カメラは次のように動作します。

クイックシャッターが"入"のときは

通常のオートフォーカスよりはるかに高速でピントを合わせるので、シャッターチャンスを逃さず撮影できます。動きの速い被写体を撮影するときに便利です。

- 正確にピントが合わない場合があります。
- お買い上げ時はクイックシャッターが働く状態になっています。

クイックシャッターが"切"のときは

通常のオートフォーカス機能によりピントを合わせたあと撮影します。

- シャッターを押し続けると、ピントが合わなくても撮影されます。
- 多少時間がかかっても正確にピントを合わせたい場合は、シャッターを半押ししてピントを合わせたあと撮影してください。

画像サイズを決める

デジタルカメラの画像は、小さな点（画素・pixels）の集まりです。画像サイズとは、その画像がいくつの画素でできているかを示すもので、横×縦の画素数で表します。お買い上げいただいたときは、10M (3648×2736)（画素・pixels）で撮影するように設定されています。画像サイズが大きいほど、メモリーに保存できる枚数が少なくなります。

- 画像サイズ、画質と保存できる枚数→173ページ
  ここでの設定は、静止画撮影時のみ有効です。
- 動画の画像サイズについて→56ページ

1. 撮影モードにして【SET】を押す

2. 【▲】【▼】で１番上の項目（画像サイズ）を選ぶ

3. 【◀】【▶】で画像サイズを選び、【SET】を押す

参考

- 【MENU】を押してメニュー画面を表示し、画像サイズを変更することもできます（34、159ページ）。
- 画像サイズを選ぶ操作中は、以下の情報が切り替わり表示されます。
  – M（メガ、100万）単位での画像サイズ（3MMなど）
  – 画素数で示す画像サイズ（2048×1536など）
  – 最適なプリント用紙のサイズ

画素数（pixels）			プリント用紙のサイズ
大きい	10M	3648×2736	ポスタープリント
	3:2	3648×2432	ポスタープリント
↕	16:9	3648×2048	HDTVサイズ
	5M	2560×1920	A3プリント
	3M	2048×1536	A4プリント
小さい	2M	1600×1200	L判プリント
	VGA	640×480	Eメール

- 3:2（3648×2432 pixels）を選ぶと、プリント用紙の一般的な横縦の比率（3:2）に合うように、画像を3:2の比率で撮影します。
- HDTVとはHigh Definition TeleVision（高精細テレビ）の略です。HDTVの画面の横縦比は16:9で、従来のテレビの画面（4:3）より横長（ワイド画面）になります。本機はこのHDTVの画面（ワイド画面）の横縦比に合わせて撮影することができます。
- VGA（640×480 pixels）は、Eメールで画像を送るときに最適なサイズです。
- プリント用紙のサイズは、あくまでも参考のサイズとお考えください（印刷解像度が200dpiの場合）。

画質を決める

本機では、「高精細-F」（画質優先）、「標準-N」、「エコノミー-E」（撮影枚数優先）のいずれかの画質を選ぶことができます。お買い上げいただいたときは、「標準-N」で撮影されるように設定されています。画質を優先したいときは「高精細-F」を、撮影枚数を優先したいときは「エコノミー-E」を選んでください。

- 画像サイズ、画質と保存できる枚数→173ページ
  ここでの設定は、静止画撮影時のみ有効です。
- 動画の画質について→56ページ

1. 撮影モードにして【MENU】を押す

2. “画質設定”タブ→“画質”と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で画質を選び、【SET】を押す

参考

- 枝や木の葉が密集しているようなきめ細かい自然画や複雑な模様を撮影するときは、「高精細-F」にすることで、緻密な画質で撮影できます。

AF補助光の発光をやめる

AF補助光とは、暗い場所での撮影のときなどにピント合わせをしやすくするために、シャッターを半押ししているときに必要に応じて発光する光のことです。AF補助光発光時は、AF補助光／セルフタイマーランプが点灯します。明るい場所では、AF補助光は発光しません。

お買い上げいただいたときはAF補助光が発光するように設定されています。

至近距離で人物などを撮影するときは、次のように操作してAF補助光が発光しないようにすることをおすすめします。

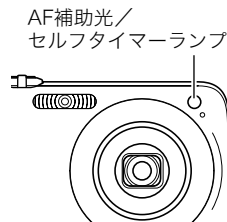
1. 撮影モードにして【MENU】を押す

2. “撮影設定”タブ→“AF補助光”と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で“切”を選び、【SET】を押す

AF補助光を発光させる場合は、ここで“入”を選びます。

重 要

- AF補助光／セルフタイマーランプをのぞいたり、人の目に当てないでください。

静止画撮影時のご注意

■ 操作について

- 動作確認用ランプが緑に点滅しているときに電池カバーを開けないでください。今撮影した画像が正しく保存されない、記録されている画像が壊れてしまう、カメラが正常に動作しなくなる、などの原因になります。
- 不要な光がレンズに当たるときは、手でレンズを覆って撮影してください。

■ 撮影時の画面について

- 液晶モニターに表示される被写体の画像は、確認のための画像です。実際は、設定した画質で撮影されます。
- 被写体の明るさにより、液晶モニターの表示の反応が遅くなったり、ノイズが出ることがあります。

■ 蛍光灯の部屋での撮影について

- 蛍光灯のごく微妙なちらつきにより、撮影画像の明るさや色合いが変わることがあります。

オートフォーカスの制限事項

- 次のような被写体に対しては、ピントが正確に合わないことがあります。
  - 階調のない壁など、コントラストが少ない被写体
  - 強い逆光のもとにある被写体
  - 明るく光っている被写体
  - ブラインドなど、水平方向に繰り返しパターンのある被写体
  - カメラからの距離が異なる被写体がいくつもあるとき
  - 暗い場所にある被写体
  - AF補助光が届かないほど遠くにある被写体
  - 手ブレをしているとき
  - 動きの速い被写体
  - 撮影範囲外の被写体
- 動作確認用ランプが緑色に点灯している、またはフォーカスフレームが緑になっている場合でも、ピントが合わないことがあります。ピントが合わない場合は、フォーカスロック(73ページ)やマニュアルフォーカス(74ページ)で撮影してみてください。

ズーム撮影する

本機では、光学ズーム（レンズの焦点距離を変える方式）で3倍まで、デジタルズーム（画像中央をデジタル処理で拡大する方式）でさらに12〜45.2倍（光学ズームとの併用）までのズーム撮影ができます。デジタルズームの倍率は、画像サイズ（42ページ）の設定によって異なります。

重要

- デジタルズームでは、倍率が高くなるほど撮影画像は粗くなります。ただし、本機では一部粗くならずに撮影できる範囲があります（46ページ）。
- タイムスタンプ（82ページ）を設定して撮影すると、デジタルズームは働きません。

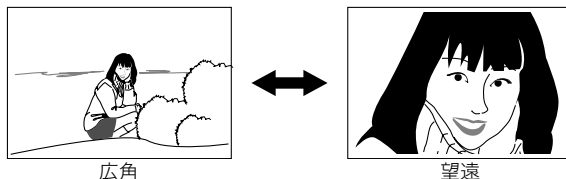
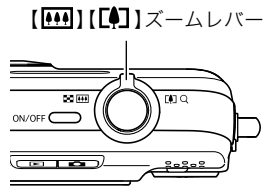
1. 撮影モードにする

2. ズームレバーをスライドさせて、ズームの倍率を変える

【 】（望遠）：被写体が大きくなり、写る範囲が狭くなります。

【 】（広角）：被写体が小さくなり、写る範囲が広くなります。

→「光学ズームとデジタルズームの切り替えポイント」（46ページ）

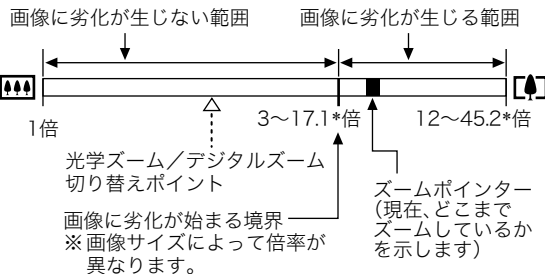
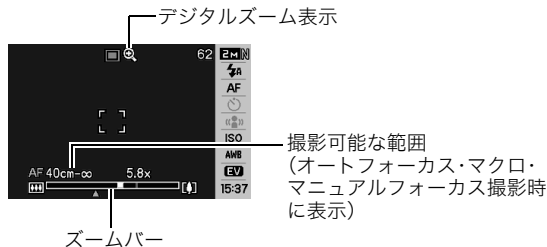
広角　望遠

3. シャッターを押して撮影する

参考

- 光学ズームを働かせると、レンズの絞り値が変わります。
- 望遠で撮影するときは、手ブレ防止のため三脚の使用をおすすめします。
- 動画撮影中は光学ズームは動作しません。デジタルズームのみ使用できます。シャッターを押す前であれば、光学ズームは使用できます。

■ 光学ズームとデジタルズームの切り替えポイント

手順2で【[♠]】にズームレバーをスライドさせたままにすると、光学ズームの倍率が最も高くなったところでズーム動作が停止します。いったん離し、続けて【[♠]】にズームレバーをスライドさせるとデジタルズームも作動し、さらにズームの倍率が高くなっていきます。

- デジタルズームに切り替わると、液晶モニターにデジタルズーム表示が現われます。また、ズームバーでおおよその倍率を確認することができます。

● **各画像サイズでのズーム倍率の違い**

10M	1倍	3倍	12倍
3:2	1倍	3倍	12倍
16:9	1倍	3倍	12倍
5M	1倍	4.3倍	17.1倍
3M	1倍	5.3倍	21.3倍
2M	1倍	6.8倍	26.5倍
VGA	1倍	17.1倍	45.2倍

- デジタルズームの倍率は画像サイズ(42ページ)の設定によって異なります。画像サイズが小さいほど高倍率になります。
- 一般的にデジタルズームを使用した画像は粗くなりますが、本機では、画像サイズが"5M(2560×1920 pixels)"以下の場合、画像は粗くならない範囲があります(HDズーム)。液晶モニターには、デジタルズームしても劣化しない倍率の境界が表示されており、その境界までは劣化せずにズームできます。劣化しない倍率は、画像サイズによって変化します。
- "オートフレーミング"では、画像サイズが"5M(2560×1920 pixels)"になりますが、画像に劣化が生じない範囲は、3倍となります。

■ デジタルズームをオフにする

ズームレバーを【[♠]】にスライドしても、デジタルズームを使わないようにすることができます。ズームによって画像を劣化させたくないときにご利用ください。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す

2. "撮影設定"タブ→"デジタルズーム"と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で"切"を選び、【SET】を押す

- デジタルズームを使えるようにするには、ここで"入"を選びます。

フラッシュを使う

撮影条件に合わせて、フラッシュの発光方法を切り替えることができます。

発光方法	説明
フラッシュオート	露出(光の量や明るさ)に応じて自動的に発光します。 • お買い上げ時の設定です。
発光禁止	フラッシュは発光しません。
強制発光	フラッシュは常に発光します。 • 日中、逆光で被写体が暗く写るときに設定すると、明るく撮影できます(日中シンクロ撮影)。
ソフト発光	露出に関係なく光量を抑えて発光します。 • フラッシュの反射など光量を抑えたい場合に使用します。
赤目軽減	フラッシュオートと同じように自動発光します。フラッシュ撮影時に、人の目が赤く写る現象を軽減することができます。

フラッシュが届く範囲(ISO感度:オート時)

広角時 : 約0.1m～約3.3m

望遠時 : 約0.5m～約1.8m

- 光学ズームに合わせて撮影範囲は変化します。

1. 撮影モードにして【SET】を押す

2. 【▲】【▼】で上から２番目の項目（フラッシュ）を選ぶ

3. 【◀】【▶】で発光方法を選び、【SET】を押す

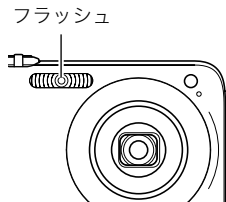
液晶モニターにフラッシュの発光方法が表示されます。

4. シャッターを押して撮影する

参考

- 操作パネルが"切"（35ページ）のときは、【▼】（⚡🗑）を押すことで発光方法を選ぶことができます。

重要

- フラッシュ撮影時は、フラッシュが指やストラップで隠れないようにしてください。

赤目軽減について

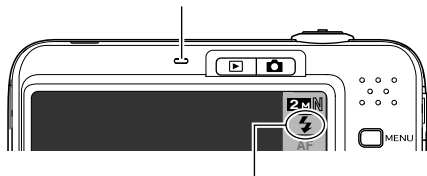
夜や暗い室内などで人物をフラッシュ撮影したとき、目が赤く写ることがあります。これは、フラッシュ光が目の網膜に反射するために起こる現象です。赤目軽減機能を使うと、フラッシュ撮影する前に赤目用プリ発光（写される人の瞳孔を小さくするためにフラッシュが発光）することにより、人の目が赤く写ることを軽減します。

重要

- 赤目軽減機能により撮影する場合は、下記の点に注意してください。
  - 写される人がフラッシュを注視していないと効果がありません。撮影する前にフラッシュを見るように声をかけておいてください。
  - 被写体までの距離が遠いと、効果が現れにくい場合があります。

■ フラッシュの状態を確認する

シャッターを半押ししてピント合わせをしているとき、液晶モニターや動作確認用ランプでフラッシュの状態を確認できます。

動作確認用ランプ
フラッシュ充電中はオレンジに点滅します。

フラッシュ発光時は“ ”を表示

- 充電が完了して動作確認用ランプのオレンジ色の点滅が消えるまでは、次のフラッシュ撮影はできません。

■ フラッシュの強さ（光の量）を変える

1. 撮影モードにして【MENU】を押す

2. “画質設定”タブ→“フラッシュ光量”と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】でフラッシュの強さを選び、【SET】を押す
－2（最も弱い）から＋2（最も強い）の5つから選べます。

重要

- 被写体が遠すぎたり近すぎたりする場合、強さが変わらないことがあります。

■ フラッシュ撮影時の光量不足を補う（フラッシュアシスト）

フラッシュが届く範囲よりも遠い被写体を撮影すると、フラッシュの強さが充分でないため、被写体が暗く写ってしまうことがあります。フラッシュアシスト機能を使うと、撮影した被写体の明るさを補正し、フラッシュの光が遠くへ届いたときと似た効果が得られます。

フラッシュアシスト機能を使わないと

フラッシュアシスト機能を使うと

お買い上げいただいたときはフラッシュアシスト機能が働くように設定されています。
フラッシュアシスト機能を使わないときは、次のように操作します。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “画質設定”タブ→“フラッシュアシスト”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で“切”を選び、【SET】を押す

フラッシュアシスト機能を使うときは、ここで“オート”を選びます。

重要

- 被写体によっては思ったような効果が得られないことがあります。
- 下記の操作を行うと、フラッシュアシスト機能を使っても撮影結果にほとんど変化が表れないことがあります。
  - フラッシュの強さを変えたとき（49ページ）
  - 明るさを補正（EVシフト）したとき（75ページ）
  - ISO感度を切り替えたとき（78ページ）
  - コントラストの設定を切り替えたとき（82ページ）

■ フラッシュ使用時のご注意

- 被写体までの距離が遠かったり近かったりすると、適切な効果が得られません。
- フラッシュの充電時間は、使用条件（電池の状態や周囲の温度など）により異なります。フル充電の電池では、数秒〜7秒程度かかります。
- 暗い場所でフラッシュを発光禁止にして撮影すると、シャッター速度が遅くなり、手ブレの原因になります。カメラを三脚などで固定してください。
- 赤目軽減機能では、フラッシュは露出に合わせて自動的に発光します。明るい場所では発光しません。
- 外光や蛍光灯など他の光源があると、色味が変わることがあります。

セルフタイマーを使う

シャッターを押してから一定の時間後にシャッターが切れる（撮影される）ようにすることができます。

セルフタイマーの種類	説明
10s 10秒	10秒後に撮影されます。
2s 2秒	2秒後に撮影されます。 • シャッター速度が遅くなる条件下で撮影するときに使うと、手ブレ防止ができます。
x3 x3（トリプルセルフタイマー）	10秒後に1枚、その後、次の撮影準備完了の1秒後に1枚、その次の撮影準備完了の1秒後に1枚の計3枚撮影されます。
切	セルフタイマー撮影はできません。

1. 撮影モードにして【SET】を押す

2. 【▲】【▼】で上から4番目の項目（セルフタイマー）を選ぶ

3. 【◀】【▶】でセルフタイマーの種類を選び、【SET】を押す

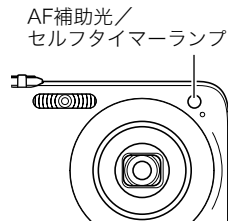
液晶モニターにセルフタイマーの種類が表示されます。

4. シャッターを押して撮影する

参考

• 【MENU】を押してメニュー画面を表示し、セルフタイマーの種類を切り替えることもできます（34、159ページ）。

セルフタイマーを使って撮影すると

- シャッターを押してもすぐには撮影せず、設定した時間が経過すると撮影されます。設定した時間をカウントしている最中は、AF補助光／セルフタイマーランプが赤に点滅します。
- カウントダウン中にシャッターを全押しすると、セルフタイマーを解除することができます。

参考

- トリプルセルフタイマーでは、次の撮影準備が終わると"1sec"と表示され、約1秒後に撮影されます。撮影準備ができるまでの時間は、画像サイズ、画質の設定やメモリーカードの有無、フラッシュの充電状態によって異なります。
- 下記の撮影では、全てのセルフタイマーが使用できません。
  - 通常連写、高速連写
  - ベストショット撮影の一部（"レイアウトショット"、"オートフレーミング"）
  - "AFエリア"が"[icon] 追尾"の場合
- 下記の撮影では、トリプルセルフタイマーが使用できません。
  - フラッシュ連写
  - ベストショット撮影の一部（"名刺や書類を写します"、"ホワイトボードなどを写します"、"古い写真を写します"、"ムービー"）

何枚も連続して撮影する（連写）

本機は4種類の連写（連続撮影）ができます。

連写の種類	説明
通常連写モード	メモリーの空き容量いっぱいまで連続撮影ができます。
高速連写モード	約7枚/秒で、メモリーの空き容量いっぱいまで連続撮影ができます。ただし、記録する画像サイズは、2M（1600×1200 pixels）に固定になります。 ※SanDisk Extreme III 2.0GB SDカードを使用し、本機でフォーマットした後の連写速度です。（SanDisk、SanDisk Extremeは、SanDisk Corporationの登録商標または商標です。）
フラッシュ連写モード	フラッシュを発光し、最大3枚まで連続撮影ができます。
ズーム連写モード	液晶モニターに表示された画像と被写体の一部を拡大した画像を同時に記録することができます。

連写の種類を選ぶ

1. 撮影モードにして【MENU】を押す

2. “撮影設定”タブ→“連写”と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で連写の種類を選び、【SET】を押す

液晶モニターに連写の種類が表示され、連写モードになります。
連写モードを解除するときは、“切”を選びます。

通常連写モード／高速連写モード／フラッシュ連写モードで撮影する

1. シャッターを押して撮影する

- 通常連写モード、高速連写モードではシャッターを押し続けている間、連続撮影します。シャッターから指を離すと、撮影を停止します。
- フラッシュ連写モードではシャッターを押し続けている間、最大3枚まで連続撮影します。3枚撮影する前にシャッターから指を離すと、撮影を停止します。

重要

- 通常連写、高速連写の速度は、使用するカードの種類やメモリーの空き容量によって異なります。内蔵メモリーを使用すると連写の速度は遅くなります。

ズーム連写モードで撮影する

1. 左側の画像で、拡大して記録したい部分を【▲】【▼】【◀】【▶】で枠囲みにして、【SET】を押す

右側には枠で囲んだ部分が拡大して表示されます。

2. シャッターを押して撮影する

左側の画像と右側の画像の2枚の画像が同時に記録されます。

重要

- ズーム連写モードでは、撮影する際にシャッターを押し続ける必要はありません。
- ズーム連写モードでは、デジタルズームは使用できません。
- 画像サイズの設定が“3:2(3648×2432 pixels)”、“16:9(3648×2048 pixels)”の場合、ズーム連写はできません。
- 画像サイズを“10M(3648×2736 pixels)”、“5M(2560×1920 pixels)”に設定して撮影した場合の拡大された画像は、画像のサイズが“3M(2048×1536 pixels)”となります。
- ピント合わせの方法をオートフォーカスに設定した場合、ズーム連写時の測定範囲(AFエリア)は、拡大場所を指定するための枠の中心(スポット)に自動的に切り替わります(72、79ページ)。

連写時のご注意

- 連写では、露出／フォーカス位置は1枚目を撮影した際に固定されますので、2枚目以降は1枚目と同じ露出／フォーカス位置で撮影されます。
- 下記の撮影では、連写はできません。
  – ベストショット撮影の一部（“レイアウトショット”、“オートフレーミング”、“名刺や書類を写します”、“ホワイトボードなどを写します”、“古い写真を写します”、“ボイスレコード”）、ムービーモード
  – “AFエリア”が“[アイコン] 追尾”の場合
- 連写中は、撮影が終了するまで、カメラを動かさないように注意してください。
- 連写中にメモリーの残り容量が足りなくなった場合、連写は途中で終了します。
- 連写の速度は、設定されている画像サイズや画質によって異なります。
- 通常連写では、フラッシュモードを切り替えることができます。
- 高速連写では、フラッシュは自動的に（発光禁止）となります。
- フラッシュ連写では、フラッシュは自動的に（強制発光）となります。
- 通常連写／高速連写では、セルフタイマーは使用できません。
- ズーム連写でのみ、トリプルセルフタイマーは使用できます。
- 高速連写／フラッシュ連写は、通常の撮影と比較すると、解像感が多少落ちたり、ノイズが多少増えます。
- 高速連写／フラッシュ連写では、ISO感度がどこに設定されていても常に“オート”に設定されます。
- フラッシュ連写では、フラッシュ撮影範囲が狭くなります。

静止画に音声を加える（音声付き静止画）

静止画に音声を付け加える（録音する）ことができます。撮影した静止画の説明を自分の声で録音する、その場の雰囲気も音で一緒に残す、撮影された人の言葉も残すなど、自由にご利用ください。

- ひとつの静止画につき、最長約30秒まで録音できます。

■ 音声が録音できる状態にする

1. 撮影モードにして【MENU】を押す

2. “撮影設定”タブ→“音声付静止画”と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で“入”を選び、【SET】を押す

■ 音声を録音する

1. シャッターを押して、静止画を撮影する

撮影した画像とともに“[アイコン]”が表示されます。

- 録音しないときは、【MENU】を押します。次の静止画を撮影できる状態になります。

録音可能時間

2. もう一度シャッターを押して録音を開始する

3. さらにもう一度シャッターを押して録音を終了する

シャッターを押さなくても、約30秒経過すると録音は終了します。

- 音声付き静止画撮影をやめて、通常の静止画撮影に戻るときは、「音声が録音できる状態にする」の手順3で“切”を選びます。

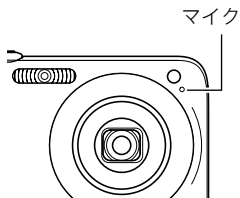
録音した音声を聞くには

再生モードで音声付きの静止画を表示すると、液晶モニターに“ ”が表示されます。

【SET】を押すと、音声の再生が始まります。

- 操作について詳しくは89ページをご覧ください。

重要

- 指などでマイクをふさがないようにご注意ください。
- 録音の対象がカメラから遠くに離れると、きれいに録音されません。

参考

- 音声付き静止画は、パソコンに保存して、Windows Media Playerで再生することができます（143ページ）。
- 音声付き静止画のデータ形式などは以下のとおりです。
  - 画像形式：JPEG（拡張子は. JPG）
  - 録音形式：WAVE/ADPCM記録形式（拡張子は.WAV）
  - 音声ファイルサイズ：約165KB（約5.5KB／秒で30秒間録音時）
- 音声録音中に【▲】(DISP)を押しても、液晶モニターは切り替わりません。
- トリプルセルフタイマーを使った撮影、および連写撮影では、音声付きの静止画撮影はできません。ただし、撮影後の静止画に音声を追加することができます（110ページ）。

動画を撮影する

動画の画質を決める

撮影前に、動画の画質を選びます。動画の画質とは、再生したときの画像のきめ細かさや滑らかさ、美しさを示す目安です。画質を高品位にすると美しく撮影できますが、撮影できる時間は短くなります。

画質	画素数	転送レート	フレームレート
高品位－HQ	640×480 pixels	約10.2メガビット／秒	25フレーム／秒
標準－Normal	512×384 pixels	約6.1メガビット／秒	25フレーム／秒
長時間－LP	320×240 pixels	約2.45メガビット／秒	12.5フレーム／秒

1. 撮影モードにして【MENU】を押す

2. “画質設定”タブ→“ 画質”と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で希望の画質を選び、【SET】を押す

動画の形式

撮影した動画は、AVI形式、Motion JPEG準拠で記録されます。本機で撮影した動画は、パソコンにコピーして下記のソフトで再生することができます。

- WindowsではWindows Media Player
- MacintoshではQuickTime

動画のサイズ

1分間撮影した動画のファイルサイズは、おおよそ以下のとおりです。

画質	サイズ
高品位－HQ	約72.8MB
標準－Normal	約43.6MB
長時間－LP	約17.5MB

動画を撮影する(ムービー)

動画とともに音声も記録されます。音声はモノラルです。

1. 撮影モードにして【BS】を押す

2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で" ムービー"のシーンを選び、【SET】を押す

液晶モニターに" "が表示されます。

3. シャッターを押して撮影を開始する

- 撮影中は、"●REC"が表示されます。

撮影可能な残り時間

撮影時間

4. もう一度シャッターを押して撮影を終了する

シャッターを押す前にメモリーがいっぱいになると、撮影は終了します。

- 撮影可能な動画のファイルサイズは、1ファイル最大4GBまでです。これを越えると自動的に撮影は終了します。

動画撮影時の手ブレ軽減

動画を撮影するとき、手ブレを軽減しながら撮影することができます(61ページ)。ただし、ブレ軽減できるのは手ブレだけで、被写体ブレには効果がありません。また、画角が狭くなります。

動画撮影時のご注意

- フラッシュは使えません。
- 音声も同時に記録されますので、次の点に注意してください。
  - 指などでマイクをふさがないでください。
  - 録音の対象がカメラから遠くに離れると、きれいに録音されません。
  - 撮影中にボタン操作をすると、操作音が録音されることがあります。

- 極端に明るい被写体を撮影しようとすると、液晶モニターの画像に、縦に尾を引いたような光の帯が表示される場合があります(スミア現象)が、故障ではありません。この帯は動画にそのまま記録されます。
- 使用するメモリーカードによっては、記録時間がかかるため、コマ落ちする場合があります。このとき、" "と"●REC"が点滅します。このため、最大転送速度が10MB/s以上のメモリーカードの使用をおすすめします。
- 動画撮影中は光学ズームは動作しません。デジタルズームのみ使用できます。シャッターを押す前であれば、光学ズームは使用できます(45ページ)。
- アップで撮影したり、高倍率ズームにしたとき、被写体のブレが目立つため手ブレにご注意ください。三脚を使用することをおすすめします。
- カメラの撮影範囲外ではピントが合わず、ぼけた画像になります。
- 動画は静止画の撮影時に比べ、画角が狭くなります。

撮りたいシーンを選んで撮影する（ベストショット）

逆光で人物を撮影したら顔が黒く写ってしまった、またはサッカーの試合を撮影したら選手の姿がブレて写ったなど、被写体や撮影条件によっては望みどおりの写真が撮れないことがあります。そのようなときは、本機に収録している撮影シーンから、望みのイメージに合ったシーンを選んでみてください。操作は【BS】を押して適切なシーンを選ぶだけです。

■ 撮影シーンの例

- "人物を写します"

- "風景を写します"

- "夜景を写します"

- "人物と夜景を写します"

■ シーンを選ぶ

1. 撮影モードにして【BS】を押す

ベストショットモードになり、15個のシーン一覧が表示されます。

- 赤枠で囲まれた画像が現在選択されているシーンです。
- 初期状態では"[オート]"（オート）が選択されています。

2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で枠を移動し、シーンを選ぶ

- 【▲】【▼】を押していくと画面が切り替わり、別のシーン一覧が表示されます。
- ズームレバーを【[望遠]】または【[広角]】にスライドさせると、選んだシーンの説明画面が表示されます。この画面で、どんな設定になるかを確認できます（60ページ）。ズームレバーを【[望遠]】または【[広角]】にスライドさせると一覧に戻ります。
- "オート"での撮影に戻るには、シーン番号1の"[オート]"（オート）を選んでください。シーンの一覧またはシーンの説明画面が表示されている状態で【MENU】を押すと、赤枠が"[オート]"（オート）へジャンプします。

3. 【SET】を押して、選んだシーンに決める

撮影できる状態に戻ります。

- 別のシーンに切り替えるまで、同じシーンの設定で撮影されます。
- 別のシーンを選び直すには、手順1からの操作を繰り返します。

4. シャッターを押して撮影する

- “ ムービー”のシーンを選択した場合は、シャッターで撮影の開始と終了を行います(57ページ)。

重要

- “夜景を写します”、“花火を写します”ではシャッター速度が遅くなります。このシーンでは画像にノイズが発生するため、自動的にノイズ低減処理をしています。このため、撮影が終わるまでの時間がシャッター速度に比べて長くなります。その間はキー操作をしないでください。また、手ブレを防ぐため、三脚の使用をおすすめします。
- 本機にはオークションサイトへの出展品を撮影する“オークション”のシーンを収録しています。このシーンで撮影した画像は専用のフォルダに記録されますので、パソコンで簡単に検索することができます(153ページ)。
- シーンに使用されているサンプル画像は本機で撮影されたものではありません。
- 被写体の条件によっては、充分な効果が得られなかったり、正しく撮影されない場合があります。
- 選んだシーンの設定内容は変更することができますが、シーンを選び直したり、電源を入れ直すと、設定内容は初期状態に戻ります。変更した内容を何度も使いたいときは、カスタム登録してください(60ページ)。

シーンの説明画面での操作

選んだシーンの設定内容を見たいときは、シーン一覧でズームレバーをスライドさせます。

説明画面では、以下の操作ができます。

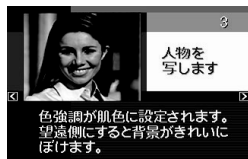
- 15個表示に戻る:ズームレバーをスライドさせる
- 次の(前の)シーンを表示する:【◀】【▶】を押す
- 表示中のシーンに決めて撮影できる状態に戻る:【SET】を押す

参考

- シーンの説明画面で【SET】を押して撮影できる状態に戻った場合、【BS】を押すと、選んだシーンの説明画面が表示されます。

■ 自分好みの設定をベストショットに登録する(カスタム登録)

うまく撮れた静止画の設定内容をベストショットモードに登録して、同じ設定で撮影することができます。

1. 撮影モードにして【BS】を押す

2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“BEST SHOT”(新規登録)のシーンを選び、【SET】を押す

3. 【◀】【▶】で登録したい静止画を選ぶ

4. 【▲】【▼】で“登録”を選び、【SET】を押す

登録したシーンには、“マイベストショット”という名前が付きます。

重要

- 内蔵メモリーをフォーマット(126ページ)すると、カスタム登録したシーンファイルは消えてしまいます。

参考

- 各シーンの設定状態はメニューをたどり、各機能の設定内容を表示させることにより、確認できます。
- 登録したシーン番号は、登録した順にU1、U2･･･となります。
- 登録される設定内容は下記の通りです。
  フォーカスモード、EVシフト、ホワイトバランス、フラッシュモード、ISO感度、測光方式、フラッシュ光量、フラッシュアシスト、フィルター、シャープネス、彩度、コントラスト
- あらかじめカメラに収録されているシーン以外に、最大999件まで登録できます。
- カスタム登録したシーンは、内蔵メモリー内の「SCENE」フォルダに保存されます(153ページ)。

マイベストショットを削除する

自分で登録(カスタム登録)したマイベストショットは以下の手順で削除することができます。

1. 撮影モードにして【BS】を押す

2. ズームレバーをスライドさせて、説明画面を表示させる

3. 【◀】【▶】で削除したいマイベストショットを選ぶ

4. 【▼】(⚡🗑)を押す

5. 【▲】【▼】で"解除"を選び、【SET】を押す

選択したマイベストショットが削除され、次のシーン(マイベストショットまたは新規登録)が表示されます。

6. 【◀】【▶】で別のシーンを選び、【SET】を押す

- 撮影できる状態に戻ります。

手ブレや被写体ブレを軽減する

遠くの被写体を望遠で撮影したり、動きの速い被写体を撮影したり、薄暗い場所で撮影したりするときに画像がぼやけたり流れて見えることがあります。これはシャッターを押すときにカメラが動いたり(手ブレ)、被写体の動きが速すぎる(被写体ブレ)ことが原因です。ブレ軽減の機能を使って、このようなブレを少なくすることができます。
次のどちらかの操作でブレ軽減の機能を選んでください。

■ ベストショットから選ぶ

1. 撮影モードにして【BS】を押す

2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で"ブレ軽減"のシーンを選び、【SET】を押す

次に別のシーンを選ぶまで"ブレ軽減"のシーン設定で静止画撮影できます。

■ 操作パネルから選ぶ

1. 撮影モードにして【SET】を押す

2. 【▲】【▼】で上から5番目の項目(ブレ軽減)を選ぶ

3. 【◀】【▶】で"オート"を選び、【SET】を押す

- ブレ軽減撮影に設定すると、液晶モニターに" "が表示されます。
ブレ軽減の機能を使わないときは、ここで"切"を選びます。

参考

- 【MENU】を押してメニュー画面を表示し、ブレ軽減を設定することもできます（34、159ページ）。

重要

- ISO感度を「オート」にしていないと、ブレ軽減の機能が働きません（78ページ）。
- フラッシュが自動で発光した、または強制発光やソフト発光に設定した場合、ブレ軽減アイコン“(( ))”は表示されていますが、ブレ軽減機能は働きません。
- ブレ軽減で撮影した画像は、多少ざらついた感じがしたり解像感が劣る場合があります。
- 手ブレや被写体ブレが大きい場合、ブレを軽減できない場合があります。
- 動画を撮影するときも、手ブレを軽減しながら撮影することができます。ただし、ブレ軽減できるのは手ブレだけで、被写体ブレには効果がありません（57ページ）。
- シャッター速度が遅くなる撮影をすると、手ブレによるブレを軽減できない場合があります。その場合は、三脚を使用してください。
- 撮影時の明るさに応じて、撮影した画像にノイズが発生するため、自動的にノイズ低減処理を行う場合があります。この場合、撮影が終了するまでの時間が長くなります。

フラッシュなしで明るく撮影する

暗い場所で撮影するとき、カメラの感度を上げることにより、フラッシュを使わなくても画像が暗くなるのを防ぐことができます。

通常の撮影
（フラッシュ発光時）

感度を上げた撮影

1. 撮影モードにして【BS】を押す

2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“高感度”のシーンを選び、【SET】を押す

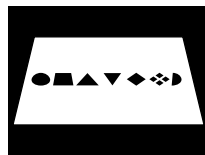
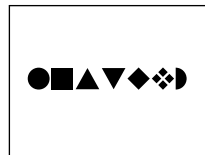
3. シャッターを押して撮影する

次に別のシーンを選ぶまで“高感度”のシーン設定で撮影できます。

重要

- フラッシュが自動で発光した、または強制発光やソフト発光に設定した場合、高感度撮影機能は働きません。
- “高感度”のシーンで撮影した画像は、多少ざらついた感じがしたり解像感がやや劣る場合があります。
- 極端に暗い環境では、思ったように明るく撮影できない場合があります。
- シャッター速度が遅くなる撮影をする場合、手ブレを防ぐために三脚を使用してください。
- 撮影時の明るさに応じて、撮影した画像にノイズが発生するため、自動的にノイズ低減処理を行う場合があります。この場合、撮影が終了するまでの時間が長くなります。

名刺や書類などを撮影する(ビジネスショット)

名刺や書類、ホワイトボードなどの撮影時に、撮影の立ち位置の都合によって正面からは撮影できない場合があります。ビジネスショットのシーンを選べば、斜めから撮影した画像を正面から撮影したかのように補正して撮影することができます。

ベストショットに2つのビジネスショットのシーンが用意されています。

- “名刺や書類を写します”
- “ホワイトボードなどを写します”

■ ビジネスショットのシーンを選ぶ

1. 撮影モードにして【BS】を押す

2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で"名刺や書類を写します"または"ホワイトボードなどを写します"のシーンを選び、【SET】を押す

次に別のシーンを選ぶまでビジネスショットでの撮影ができます。

■ ビジネスショットで撮影する

1. ビジネスショットのシーンを選んだ後、シャッターを押す

補正確認画面が表示されます。

赤い枠内が補正される領域です。黒い枠が表示される場合、黒い枠は別の補正領域候補を示しています。別の補正領域候補が表示されない場合は手順3に進んでください。

- 補正候補が検出できない場合は、補正確認画面が表示されず、「この画像は補正できませんでした」というメッセージが表示されます。その後、補正されずに画像が保存されます。

2. 【◀】【▶】で補正領域を選ぶ

3. 【▲】【▼】で"補正"を選び、【SET】を押す

補整された画像が保存されます。

- 補正せずに保存するときは、"キャンセル"を選びます。

重 要

- 被写体が液晶モニターに収まるような構図で撮影してください。被写体が液晶モニターからはみ出すと補正できません。
- 被写体と背景が同色の場合、補正できません。被写体と背景の境界がはっきりするような構図で撮影してください。
- ビジネスショットで撮影中は、デジタルズームは使用できません。光学ズームのみ使用できます。
- ビジネスショットでは、大きな撮影サイズに設定しても2M(1600×1200 pixels)の画像として撮影されます。ただし、撮影サイズの設定が2M(1600×1200 pixels)よりも小さい場合には、設定されている通りのサイズで撮影されます。

古く色あせた写真を蘇らせる（よみがえりショット）

古く色あせた写真を撮影し、あせた色を補正することにより、古い写真を最新のデジタル写真として蘇らせることができます。

■ よみがえりショット機能で撮影する前に

- 写真が液晶モニターに収まるような構図で撮影してください。
- 写真と背景の境界がはっきりするような構図で、できるだけ画面いっぱいに撮影してください。
- 写真表面に光の反射が写り込まないように撮影してください。
- 縦向きで撮影された写真は、必ず写真が横向き（横長の状態）になるような構図で撮影してください。

参考

- 写真の撮影時に、被写体に対してカメラが傾いていると、「台形歪み」（長方形の被写体が遠近の関係で台形として写ってしまう状態）が生じます。本機は写真の輪郭を検出し、画像を自動的に補正するため、撮影時の多少の台形歪みを気にする必要はありません。

■ よみがえりショットのシーンを選ぶ

1. 撮影モードにして【BS】を押す

2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“古い写真を写します”のシーンを選び、【SET】を押す

次に別のシーンを選ぶまで“古い写真を写します”のシーン設定で撮影ができます。

■ よみがえりショット機能で撮影する

1. シャッターを押して、写真を撮影する

- 写真の輪郭確認画面を表示し、続けて撮影した元画像を保存します。ただし、写真の輪郭が検出できない場合は輪郭確認画面が表示されず、エラーメッセージが表示されます（170ページ）。

2. 【◀】【▶】で輪郭候補を選ぶ

3. 【▲】【▼】で“決定”を選び、【SET】を押す

画像の一部を切り抜く操作(トリミング)に入り、液晶モニターに画像を切り抜くための枠が表示されます。

- 補正せずに保存するときは、“キャンセル”を選びます。

4. ズームレバーをスライドさせて枠を拡大／縮小し、補正する画像の大きさを決める

5. 【▲】【▼】【◀】【▶】で切り抜きたい部分に枠を移動して補正する画像の位置を決め、【SET】を押す

あせた色を自動的に補正し、画像を保存します。

- 画像の周囲に余白を付けたくない場合は、撮影した写真よりも補正画像を小さく指定してください。
- 【MENU】を押すと色の補正を中止し、撮影した元画像を保存します。

重要

- よみがえりショット機能で撮影中は、デジタルズームは使用できません。光学ズームのみ使用できます。
- 下記の場合は、撮影した写真の認識ができません。
  - 撮影した写真が液晶モニターからはみ出した場合
  - 写真と背景が同色の場合
- よみがえりショットでは、大きな撮影サイズに設定しても2M(1600×1200 pixels)の画像として撮影されます。ただし、撮影サイズの設定が2M(1600×1200 pixels)よりも小さい場合には、設定されている通りのサイズで撮影されます。
- 写真の退色度合いにより、補正の効果が表れない場合があります。

複数の写真を組み合わせて撮影する（レイアウトショット機能）

複数のフレーム毎に撮影を行い、最終的にレイアウトした画像のみを記録する機能です。

- レイアウトショット（2枚撮影）
- レイアウトショット（3枚撮影）

1. 撮影モードにして、【BS】を押す

2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“レイアウトショット”（2枚撮影）または“レイアウトショット”（3枚撮影）を選び、【SET】を押す

3. 【◀】【▶】で背景の色を変える

4. シャッターを押して撮影する

1枚目を撮影し終わると、次の写真が撮影できる状態になりますので、2枚目以降も同様にシャッターを押して撮影してください。

- 撮影中に【SET】を押すと、配置されている状態の画面と現在撮影している画像のみ画面を切り替えることができます。
- 【MENU】を押すと撮影済みの画像が消え、1枚目の撮影に戻ります。
- レイアウト上のすべての写真を撮影しないと、写真は保存されません。

重要

- 保存される画像は、レイアウトされた画像のみです。
- 画像サイズは自動的に7M（3072×2304 pixels）に固定され、保存されます。
- ISO感度は“オート”に、AFエリアは“スポット”に自動的に固定されます。
- レイアウトショットでは、下記の機能が使用できません。
  - デジタルズーム
  - セルフタイマー
  - 通常連写、高速連写、フラッシュ連写、ズーム連写

被写体を自動的に追従して撮影する（オートフレーミング機能）

動きのある被写体に追従し、被写体が中心にある写真を撮ることができます。

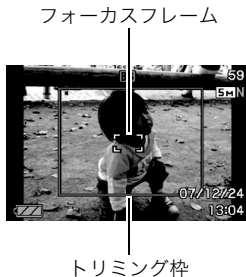
1. 撮影モードにして、【BS】を押す

2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“オートフレーミング”を選び、【SET】を押す

3. 撮影したい被写体にフォーカスフレームを合わせてシャッターを半押ししたままにする

フォーカスフレームとトリミング枠が被写体の動きに追従します。

- シャッターを半押ししている間、被写体にピントを合わせ続けます。

フォーカスフレーム

トリミング枠

4. シャッターを全押しして撮影する

トリミング枠で囲まれた部分のみ保存されます。

重要

- 保存される画像はトリミング枠で囲まれた部分のみです。
- 画像サイズは自動的に5M（2560×1920 pixels）に固定され、保存されます。
- オートフレーミングでは、下記の機能が使用できません。
  - タイムスタンプ
  - セルフタイマー
  - 通常連写、高速連写、フラッシュ連写
- 動きの速い被写体には、正しく追従しないことがあります。その場合は、シャッターの半押しをやめ、再度撮影したい被写体にフォーカスフレームを合わせ直してシャッターを半押ししてください。
- “オートフレーミング”では、画像サイズが“5M(2560×1920 pixels)”になりますが、画像に劣化が生じない範囲は、3倍となります（46ページ）。

よりよい撮影のための設定

ピントの合わせかたを変える

ピント合わせの方法には、以下の5種類があります。これらをフォーカスモードといいます。最初はオートフォーカスモードが選択されています。

<table>
<tr><th>フォーカスモード</th><th>説明</th><th>ピントが合う距離※</th></tr>
<tr><td>AF オートフォーカス</td><td>シャッター半押しで自動的にピントが合います。
オートフォーカスモードは動画撮影時は使用できません。</td><td>自動調整
（約40cm～∞（無限遠））
• 最短距離は光学ズームの位置で変わります。</td></tr>
<tr><td>マクロ（接写）</td><td>近くのものを撮影するときに使用します。
動画撮影時のマクロモードは固定焦点となります。</td><td>自動調整
（約10cm～約50cm）
• 最短距離は光学ズームの位置で変わります。</td></tr>
<tr><td>PF パンフォーカス</td><td>パンフォーカスモードは、動画撮影時のみ使用できます。
比較的広い範囲にピントが合うように固定されます。
オートフォーカスが難しい状況に使用します。</td><td>距離固定
• ピントの合う範囲は光学ズームの位置で変わります。</td></tr>
<tr><td>∞ 無限遠</td><td>ピントは無限遠に固定されます。景色などの遠景の撮影に使用します。</td><td>無限遠</td></tr>
<tr><td>MF マニュアルフォーカス</td><td>手動でピントを合わせることができます。</td><td>• ピントを合わせることができる範囲は光学ズームの倍率で変わります。
<table>
<tr><th>光学ズーム倍率</th><th>範囲</th></tr>
<tr><td>1倍</td><td>約10cm～∞</td></tr>
<tr><td>3倍</td><td>約50cm～∞</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

※ピントが合う距離はレンズの表面からの距離です。

フォーカスモードは次の手順で変えます。

1. 撮影モードにして【SET】を押す

2. 【▲】【▼】で上から3番目の項目(フォーカス方式)を選ぶ

3. 【▲】【▼】でフォーカス方式を選び、【SET】を押す

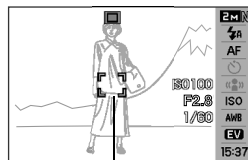
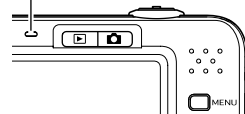
液晶モニターに、設定したフォーカスモードが表示されます。

- 各フォーカスモードでの撮影方法は次の項以降で説明します。

フォーカスモードのアイコン

自動でピントを合わせる(オートフォーカス)

1. ピントを合わせたい被写体をフォーカスフレームの中に入れて、シャッターを半押しする

ピント合わせが行われます。
ピントが合ったかどうかは動作確認用ランプとフォーカスフレームの点灯のしかたによって分かります。

状況	動作確認用ランプ	フォーカスフレーム
ピント合わせ完了	緑点灯	緑点灯
ピント合わせできない	緑点滅	赤点灯

2. シャッターを全押しして撮影する

重要

- オートフォーカスモードは動画撮影時は使用できません。自動的にパンフォーカスモードになります。

参考

- 【MENU】を押してメニュー画面を表示し、フォーカス方式を変更することもできます（34、159ページ）。
- 被写体がオートフォーカスの範囲よりも近距離にあり、ピントが合わない場合には、自動的にマクロの範囲までピント調整します（オートマクロ）。
- オートフォーカス撮影時に光学ズームを行うと、画面上に下記のような撮影可能な距離の範囲が表示されます。
  例：AF ○○ cm - ∞
  ※○○には数字が入ります。

近くを撮影する（マクロ）

1. シャッターを半押ししてピントを合わせる

ピントの合わせかたはオートフォーカスモードと同じです。

2. シャッターを全押しして撮影する

重要

- マクロ（接写）でフラッシュ撮影すると、フラッシュの光がレンズ部にさえぎられて、画像にレンズ部の影が映し込まれることがあります。
- 動画撮影時のマクロモードは固定焦点となります。

参考

- 被写体がマクロの範囲より遠距離にあり、ピントが合わない場合には、自動的にオートフォーカスの範囲までピント調整します（オートマクロ）。
- マクロ（接写）撮影時に光学ズームを行うと、画面上に下記のような撮影可能な距離の範囲が表示されます。
  例：○○ cm - ○○ cm
  ※○○には数字が入ります。

オートフォーカス／マクロモードでの撮影テクニック

オートフォーカスの測定範囲(AFエリア)を変える

オートフォーカス(AF)の測定範囲を変更することができます。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す

2. “撮影設定”タブ→“AFエリア”と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す

[•] スポット：
中央のごく狭い部分を測定します。フォーカスロック(73ページ)を活用した撮影に便利です。

[⁝⁝⁝] マルチ：
シャッターを半押しすると、9つの測距点の中から、カメラが自動的に最適な測距点を選びます。ピントが合ったと判断された複数の点が同時に緑色で点灯表示します。

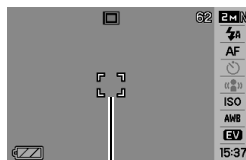
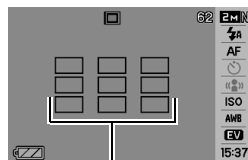
[↖] 追尾：
シャッターを半押しすると、ピントを被写体に合わせるとともに、被写体の動きに合わせてフォーカスフレームが追尾します。

参考

- “[⁝⁝⁝] マルチ”に設定すると、9つのフォーカスフレームが表示されます。シャッターを半押しすると、ピントが合った場所のフォーカスフレームが緑色で表示されます。

“[•] スポット”“[↖] 追尾”の場合　　“[⁝⁝⁝] マルチ”の場合

フォーカスフレーム　　フォーカスフレーム

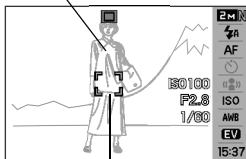
重要

- “[↖] 追尾”に設定すると、次の機能が使用できません。
  – セルフタイマー
  – 通常連写、高速連写、フラッシュ連写、ズーム連写

フォーカスロック

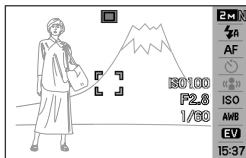
フォーカスフレームに入らない被写体にピントを合わせて撮影したいときは、フォーカスロックというテクニックを使います。

- AFエリアは、“スポット”または“追尾”にしておきます。

1. ピントを合わせたい被写体をフォーカスフレームに入れて、シャッターを半押しする

ピントを合わせたい被写体

フォーカスフレーム

2. シャッターを半押ししたまま、撮影したい構図を決める

- AFエリアを“追尾”にした場合は、被写体と一緒にフォーカスフレームが動きます。

3. シャッターを全押しして撮影する

参考

- フォーカスロックと同時に露出(AE)もロックされます。

クイックシャッター

クイックシャッター機能を使うと、シャッター半押しによるオートフォーカスが完了する前にシャッターを全押しすることで、通常のオートフォーカスよりはるかに高速でピントを合わせて撮影することができます。シャッターチャンスを逃さずに撮影することができます。

- 正確にピントが合わない場合があります。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す

2. “撮影設定”タブ→“クイックシャッター”と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す

入:クイックシャッターが機能します。
切:クイックシャッターが機能しません。

4. シャッターを一気に押し込んで撮影する

シャッター半押しを省略した場合、通常のオートフォーカスを作動せずにクイックシャッターで撮影されます。

ピントを固定して撮影する（パンフォーカス）

パンフォーカスモードは、動画撮影時のみ使用できます。パンフォーカスモードでは、比較的広い範囲にピントが合うように調整されるので、オートフォーカス動作は行われません。

1. シャッターを全押しして撮影する

遠くを撮影する（無限遠）

∞（無限遠）にピントが固定されます。景色など遠景を撮影するときに使用します。車や列車の窓ごしなど、オートフォーカスが難しいところからの景色の撮影にも活用できます。

1. シャッターを押して撮影する

手動でピントを合わせる（マニュアルフォーカス）

被写体を拡大表示させた状態で、手動でピント調整ができます。走ってくる列車などを撮影するときに便利です。あらかじめ列車の通過点の目標物（電柱など）に手動で合わせておくことで、ピント合わせの操作をせずに素早く撮影ができます。

1. ピントを合わせたい被写体を黄色枠に入れる

ピント合わせの黄色枠

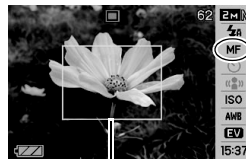
2. 液晶モニターを見ながら【◀】【▶】でピントを合わせる

このとき、ピント合わせがしやすいように拡大表示になります。

【◀】：近い側にピントを合わせる

【▶】：遠い側にピントを合わせる

- 約2秒間操作をしないと、手順1の画面に戻ります。

3. シャッターを押して撮影する

参考

- マニュアルフォーカス撮影時に光学ズーム(45ページ)を行うと、画面上に下記のような撮影可能な距離の範囲が表示されます。
  例:MF ○○ cm - ∞
  ※○○ には数字が入ります。

重要

- マニュアルフォーカスを選択しているとき、キーカスタマイズ機能で設定した【◀】【▶】の設定は使用できません(84ページ)。

明るさを補正する(EVシフト)

撮影時の明るさに応じて、露出値(EV値)を手動で補正することができます。逆光での撮影、間接照明の室内、背景が暗い場合の撮影などに利用すると、より良好な画像が得られます。

露出補正値:−2.0EV〜+2.0EV

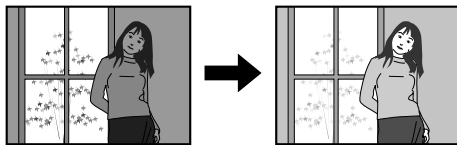
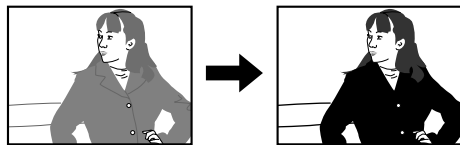
補正単位　:1/3EV

1. 撮影モードにして【SET】を押す

2. 【▲】【▼】で下から2番目の項目(EVシフト)を選ぶ

3. 【◀】【▶】で露出補正値を選ぶ

【▶】: +方向に補正。白い物の撮影や逆光での撮影に向きます。

※ベストショットの"逆光"も便利です。

【◀】：－方向に補正。黒い物の撮影や晴天の野外などの撮影に向きます。

露出補正値を元に戻したいときは、反対方向に露出補正して“0.0”に合わせてください。

4. 【SET】を押す

露出値が補正されます。次に露出補正を変えるまで、設定した露出補正値で撮影できます。

露出補正値

重要

- 明るすぎたり、暗すぎたりするときは、露出補正ができない場合があります。

参考

- 【MENU】を押してメニュー画面を表示し、露出補正することもできます（34、159ページ）。
- 測光方式をマルチパターン測光（画面全体を分割し、それぞれのエリアの測光データを元に露出を決めます）に設定しているときに露出補正を行うと、測光方式が自動的に中央重点測光（中央部を重点的に測光します）に切り替わります。露出補正値を“0.0”に戻すとマルチパターン測光に戻ります（79ページ）。
- キーカスタマイズ機能を使うと、【◀】【▶】を押すだけで露出値を補正することができます（84ページ）。ヒストグラム表示（83ページ）を確認しながらの撮影に便利です。

色合いを変える(ホワイトバランス)

曇りの日に写真を撮ると被写体が青っぽく写ることがあります。また白色蛍光灯の光で撮ると被写体が緑がかって写ることがあります。このような現象を防ぎ、光源に合わせて被写体を自然な色合いで撮影できるように調整する機能がホワイトバランスです。

1. 撮影モードにして【SET】を押す

2. 【▲】【▼】で下から3番目の項目(ホワイトバランス)を選ぶ

3. 【◀】【▶】で撮影条件を選び、【SET】を押す

AWB オートWB	:自動的にホワイトバランスを調整
太陽光	:晴天時の野外での撮影用
曇天	:薄雲〜雨天の野外や木陰などの撮影用
日陰	:晴天時の、ビルや木の陰などの撮影用
N 昼白色蛍光灯	:白色・昼白色蛍光灯下での色かぶりを抑えた撮影用
D 昼光色蛍光灯	:昼光色蛍光灯下での色かぶりを抑えた撮影用
電球	:電球の雰囲気を消した撮影用
MWB マニュアルWB	:その場の光源に合わせて手動で設定します。詳しくは「マニュアルホワイトバランスを設定する」(77ページ)を参照してください。

参考

- 【MENU】を押してメニュー画面を表示し、ホワイトバランスを変更することもできます(34、159ページ)。
- ホワイトバランスの"オート"では、被写体の中から白色点を自動的に判断します。被写体の色や光源の状況によってはカメラが白色点の判断に迷い、適切なホワイトバランスに調整されないことがあります。このような場合は、太陽光、曇天など撮影条件を指定してください。
- キーカスタマイズ機能を使うと、【◀】【▶】を押すだけでホワイトバランスを変更することができます(84ページ)。
- キーカスタマイズ機能で"オート"を選ぶときは、"AWB"(オートWB)を選んでください。

■ マニュアルホワイトバランスを設定する

ホワイトバランスの"オート"や太陽光、曇天など光源を指定する固定モードは、複数の光源下など難しい環境では調整できる範囲に限界があり、自然な色合いで撮れないことがあります。マニュアルホワイトバランスを設定すれば、さまざまな光源下で適正な色に調整することができます。マニュアルホワイトバランスを設定するために、白い紙を用意してください。

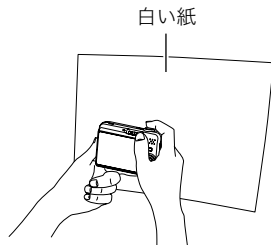
1. 撮影モードにして【SET】を押す

2. 【▲】【▼】で下から3番目の項目(ホワイトバランス)を選ぶ

3. 【◀】【▶】で"MWB マニュアルWB"を選ぶ

液晶モニターには、前回設定したバランスで被写体が表示されます。この設定で使う場合は、手順5に進んでください。

4. 撮影場所で画面全体に白い紙を写した状態でシャッターを押す

"完了"と表示されたらホワイトバランスの調整は完了です。

5. 【SET】を押す

ホワイトバランスを決定し、撮影ができる画面に戻ります。

- 設定したホワイトバランスは電源を切っても保持されます。

ISO感度を変える

ISO感度とは、光に対する感度を表したものです。数値が大きいほど感度が高くなり、暗い場所での撮影に強くなります。シャッター速度を速くしたいときにもISO感度を高くします。同じ撮影条件下ではISO感度を高くするとシャッター速度は早くなりますが、画像は多少ざらついた感じ(ノイズが増加した画像)になりますので、きれいに撮りたいときはなるべくISO感度を低くしてください。

1. 撮影モードにして【SET】を押す

2. 【▲】【▼】で上から6番目の項目(ISO感度)を選ぶ

3. 【◀】【▶】で設定内容を選び、【SET】を押す

オート　：撮影条件により自動調整します。

ISO 80　：感度が低い

ISO 100

ISO 200

ISO 400

ISO 800：感度が高い

参考

- 【MENU】を押してメニュー画面を表示し、ISO感度を変更することもできます(34、159ページ)。

重要

- ISO感度を上げてフラッシュ撮影すると、近くの被写体の明るさが適正にならない場合があります。
- 動画撮影では、ISO感度がどこに設定されていても、常に"オート"に設定されます。
- キーカスタマイズ機能を使うと、【◀】【▶】を押すだけでISO感度を変更することができます(84ページ)。

光の測りかたを変える(測光方式)

測光方式とは、被写体のどの部分の露出を測るかを決定する方式のことです。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す

2. "画質設定"タブ→"測光方式"と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す

マルチ(マルチパターン):
画面の全体を分割し、それぞれのエリアについて測光します。測光結果の明暗パターンによって撮影環境をカメラが自動的に判断し、露出を決定します。さまざまなシーンで失敗の少ない露出が得られます。

中央重点:
中央部を重点的に測光します。カメラ任せではなく、自分である程度露出をコントロールしたいときに使います。

スポット:
センターのごく狭い部分を測光します。周囲の影響を受けずに、写したい被写体に露出を合わせることができます。

重要

- “マルチ”設定時にEVシフト(75ページ)を行うと、測光方式が自動的に“中央重点”に切り替わります。EVシフトを“0.0”に戻すと、元の測光方式に戻ります。
- “マルチ”設定時は、撮影モードの情報表示に戻ったときにアイコンが表示されません(157ページ)。

参考

- キーカスタマイズ機能を使うと、【◀】【▶】を押すだけで測光方式を変更することができます(84ページ)。

黒つぶれを軽減する(ダイナミックレンジ)

撮影される画像の明るい部分はそのままで、黒つぶれを軽減し、ダイナミックレンジを拡大したかのような撮影ができます。例えば、逆光で被写体が黒ずんでしまう場合などに、可能な限り黒つぶれを抑えて撮影することができます。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す

2. “画質設定”タブ→“ダイナミックレンジ”と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す

拡大+2：“拡大+1”より黒つぶれが軽減されます。

拡大+1：黒つぶれが軽減されます。

切　　：黒つぶれの軽減は行いません。

参考

- 撮影済みの画像に対しても、同じようにダイナミックレンジを補正することができます(106ページ)。

人物の肌のざらつきを軽減する(美肌処理)

撮影される人物の肌のざらつき(ノイズ)を軽減します。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す

2. “画質設定”タブ→“美肌処理”と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す

ノイズ消去+2：“ノイズ消去+1”よりざらつきが軽減されます。

ノイズ消去+1：ざらつきが軽減されます。

切　　　　　　：ざらつきが軽減されません。

全体の色調を変える(カラーフィルター)

フィルター機能を使用して、撮影時の画像の色彩効果を変更することができます。色彩効果用のレンズフィルターを装着して撮影したような画像になります。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す

2. “画質設定”タブ→“カラーフィルター”と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す

設定できる内容：切／白黒／セピア／赤／緑／青／黄／ピンク／紫

鮮明さを変える(シャープネス)

撮影される画像の輪郭の鮮鋭度を設定できます。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す

2. “画質設定”タブ→“シャープネス”と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す

+2(もっとも鮮鋭度が高い)から−2(もっとも鮮鋭度が低い)までの5段階から選べます。

色の鮮やかさを変える(彩度)

撮影される画像の色の鮮やかさを設定できます。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す

2. “画質設定”タブ→“彩度”と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す

+2(色の鮮やかさがもっとも高い)から−2(色の鮮やかさがもっとも低い)までの5段階から選べます。

明暗の差を変える(コントラスト)

撮影される画像の明暗の差を設定できます。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す

2. "画質設定"タブ→"コントラスト"と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す

+2(明暗がもっともクッキリする)から−2(明暗がもっとも平坦になる)までの5段階から選べます。

日付や時刻を写し込む(タイムスタンプ)

撮影時に画像の右下に、日付や時刻を写し込むことができます。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す

2. "設定"タブ→"タイムスタンプ"と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す

例)2007年12月24日　午後1時25分

日付　　　：日付(2007/12/24)が写し込まれます。

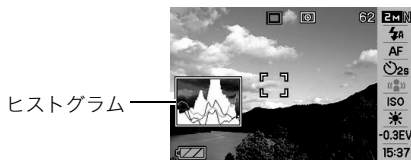
日付+時刻：日付／時刻(2007/12/24 1:25pm)が写し込まれます。

切　　　　：日付／時刻は写し込まれません。

重要

- タイムスタンプ機能を使用しなくても、DPOF機能を利用したり、印刷用ソフトの機能で、日付や時刻を入れてプリントすることができます(132ページ)。
- いったん画像に写し込まれた日付や時刻を変更したり、消すことはできません。
- 年／月／日の並び順は"表示スタイル"の設定(122ページ)にしたがって写し込まれます。
- 時刻の表示は"日時"の設定(10、122ページ)にしたがって写し込まれます。
- タイムスタンプを設定して撮影すると、デジタルズームは働きません。
- 下記の撮影では、タイムスタンプは無効となります。
  – ベストショット撮影の一部("オートフレーミング"、"名刺や書類を写します"、"ホワイトボードなどを写します"、"古い写真を写します")
  – ズーム連写

露出を確認する(ヒストグラム)

液晶モニター上にヒストグラムを表示させることで、露出(光の量や明るさ)をチェックしながら撮影することができます。再生モードでは撮影された画像のヒストグラムを見ることができます。

1. 【▲】(DISP)を何度か押す(37ページ)

参考

- キーカスタマイズ機能で"EVシフト"の切り替えを【◀】【▶】に割り当てると(84ページ)、ヒストグラムを確認しながら【◀】【▶】で露出を補正して撮影することができます。

■ ヒストグラムの見かた

ヒストグラム(輝度成分分布表)とは、画像の明るさのレベルをピクセル数によりグラフ化したものです。縦軸がピクセル数、横軸が明るさを表します。もしもヒストグラムが片寄っていた場合は、露出補正(EVシフト)を行うと、ヒストグラムを左右に移動させることができます。なるべくグラフが中央に寄るように補正をすることによって、適正露出に近づけることができます。さらに静止画ではR(赤)、G(緑)、B(青)の色成分が独立したヒストグラムも同時に表示されますので、色ごとに「赤成分がオーバー」「青成分がアンダー」のように各色の分布状況も直感的に把握することができます。

典型的なヒストグラムの例

全体的に暗い画像は左寄りのヒストグラムになります。また、あまり左に寄り過ぎていると、黒つぶれを起こしている可能性もあります。

全体的に明るい画像は右寄りのヒストグラムになります。また、あまり右に寄り過ぎていると、白飛びを起こしている可能性もあります。

全体的に適度な明るさの画像は中央寄りのヒストグラムになります。

重要

- 撮影したい画像を意図的に露出オーバーやアンダーにする場合もあるので、必ずしも中央に寄ったヒストグラムが適正となる訳ではありません。
- 露出補正には限界がありますので、調整しきれない場合があります。
- フラッシュ撮影など、撮影したときの状況によっては、ヒストグラムによりチェックした露出とは異なる露出で撮影される場合があります。

撮影を補助するいろいろな機能

撮影モードでは、次のことを行うことができます。

- 【◀】【▶】キーに機能を割り当てる
- 撮影時に構図の目安となる基準線（グリッド）を表示する
- 撮影した画像を確認する
- 設定を記憶させる
- 各種設定をリセットする

【◀】【▶】キーに機能を割り当てる（キーカスタマイズ）

【◀】【▶】キーに以下の5つのうちどれか1つの機能を割り当てることができます。割り当てた機能は撮影モード時（静止画および動画）にいつでも使えるので便利です。機能の説明は参照ページをご覧ください。

- 測光方式：光の測りかたを変える（79ページ）
- EVシフト：明るさを補正する（75ページ）
- ホワイトバランス：色合いを変える（77ページ）
- ISO感度：ISO感度を変える（78ページ）
- セルフタイマー：セルフタイマーの時間を設定する（51ページ）
- 切：【◀】【▶】キーに機能を割り当てない

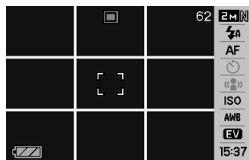
1. 撮影モードにして【MENU】を押す

2. “撮影設定”タブ→“左右キー設定”と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で割り当てる機能を選び、【SET】を押す

【◀】【▶】を押すだけで、割り当てた機能を使うことができるようになります。

撮影時に構図の目安となる基準線（グリッド）を表示する

撮影時、液晶モニターに方眼を表示します。カメラを水平や垂直に保つのに便利です。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す

2. “撮影設定”タブ→“グリッド表示”と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す

入:グリッドを表示します。
切:グリッドを表示しません。

撮影した画像を確認する（撮影レビュー）

お買い上げいただいたときは、撮影直後の画像を液晶モニターで確認することができます。この機能を使えなくすることもできます。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す

2. “撮影設定”タブ→“撮影レビュー”と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で設定項目を選び、【SET】を押す

入：撮影した画像が約1秒間表示されます。
切：撮影した画像は表示されません。

画面上のアイコンの意味を確認する（アイコンガイド）

撮影モード時に液晶モニター上でアイコンの意味を確認しながら操作することができます（157ページ）。

- アイコンの意味を確認できる機能は、次の通りです。
  - 撮影モード、測光方式、フラッシュ、ホワイトバランス、セルフタイマー、EVシフト

  ただし、測光方式、ホワイトバランス、セルフタイマー、EVシフトのアイコンの意味は、キーカスタマイズ機能（84ページ）を“測光方式”、“ホワイトバランス”、“セルフタイマー”、“EVシフト”に設定したときにのみ表示されます。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す

2. “撮影設定”タブ→“アイコンガイド”と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す

入：各種撮影機能を切り替えたとき、切り替えた機能を示すアイコンの近くに、アイコンの意味が表示されます。

切：アイコンの意味を表示しません。

重要

- アイコンガイドを“切”に設定すると、下記のアイコンも表示されません。
  - フラッシュモードの“⚡A”（47ページ）
  - ホワイトバランスの“AWB”（77ページ）
  - 測光方式の“[測光]”（79ページ）

各種設定を記憶させる（モードメモリ）

モードメモリとは、電源を切ったときでも直前の状態を記憶しておく機能です。電源を入れるたびに毎回設定をし直す手間がはぶけます。モードメモリで設定できる機能は、手順4の表の機能です。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す

2. “撮影設定”タブ→“モードメモリ”と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で設定したい機能を選び、【▶】を押す

4. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す

入：電源を切ったときにその時点の設定を記憶します。

切：電源を切ったときに初期設定に戻ります。

機能	入	切
ベストショット※1	最後の状態	ベストショット状態を解除
フラッシュ		オート
フォーカス方式		オート
ホワイトバランス		オート
ISO感度		オート
AFエリア		スポット
測光方式		マルチ
セルフタイマー		切
フラッシュ光量		0
デジタルズーム		入
MF位置		MF（マニュアルフォーカス）に切り替える前の位置
ズーム位置※2		ワイド端

※1 "入"の場合は前回の選択シーンとなり、"切"の場合は通常の静止画（オート）になります。
※2 ズーム位置では光学ズームの位置だけを記憶します。

重要

- モードメモリの"ベストショット"の設定を"入"にした場合に電源をオン／オフすると、"ベストショット"以外のモードメモリの設定が入／切のどちらに設定されていても、撮影設定はベストショットの各シーンの初期設定値となります。ただし、"ズーム位置"だけは記録されています。

各種設定をリセットする

本機の設定内容を初期値（ご購入直後の設定）に戻すことができます。初期値については「メニュー一覧表」（159ページ）をご覧ください。

1. 【MENU】を押す

2. "設定"タブ→"リセット"と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で"リセット"を選び、【SET】を押す

- リセットしない場合は"キャンセル"を選びます。

重要

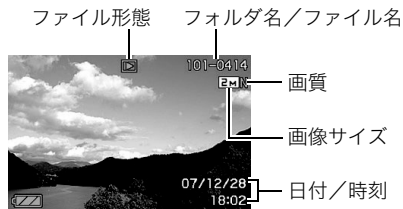
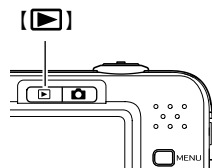
- 下記の項目は、リセットしても初期値に戻りません（160ページ）。
  - ホームタイムの詳細設定
  - ワールドタイムの詳細設定
  - 日時設定
  - 表示スタイル
  - Language
  - ビデオ出力

静止画や動画を再生する

静止画を見る

撮影した静止画を液晶モニターで見ることができます。

1. **【▶】を押して、再生モードにする**

- 記録されている静止画の中の1つが液晶モニターに表示されます。
- 表示されている静止画についての情報も表示されます（158ページ）。

- ファイル形態：通常の静止画のときは“▶”
- 静止画以外のもの（動画や、音声だけの記録）があるときは、ファイル形態がそれに対応したアイコンに変わります。
  - :動画の再生→89ページ
  - :音声付き静止画の再生→89ページ
- 情報表示を消して、静止画だけを見ることもできます（37ページ）。

2. **【◀】【▶】で静止画を切り替える**

【▶】を押すと次の静止画に、【◀】を押すと前の静止画に切り替わります。

参考

- 【◀】【▶】を押し続けると、早送りができます。
- 初めに表示される静止画は簡易画像のため粗く見えますが、すぐに精細な画像になります。ただし、他のデジタルカメラからコピーした画像はこの限りではありません。

撮影モードに切り替えるには

【📷】を押します。

音声付き静止画の音声を聞く

音声付き静止画（ファイル形態は“♪”）の音声を、内蔵スピーカーで聞くことができます。

1. 再生モードにして、【◀】【▶】で音声付き静止画を表示させる

ファイル形態のアイコンが“♪”になります。このアイコンで、音声付き静止画であることを確認してください。

2. 【SET】を押す

音声がスピーカーから再生されます。

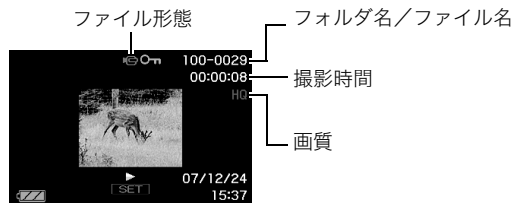
音声の再生中にできること

早送り／早戻しする	【◀】【▶】を押す
再生と一時停止を切り替える	【SET】を押す
音量を調節する	【▼】を押したあと、【▲】【▼】を押す ● 音量調節は、再生または一時停止中にだけできます。
表示内容を切り替える	【▲】（DISP）を押す
再生をやめる	【MENU】を押す

動画を見る

撮影した動画を、液晶モニターで再生することができます。

1. 再生モードにして、【◀】【▶】で再生したい動画を表示させる

ファイル形態のアイコンが“🎞”になります。このアイコンで、動画であることを確認してください（159ページ）。

映画のフィルムのようなふち取りが、動画であることを示しています。

2. 【SET】を押して再生を始める

● 最後まで再生されると、手順1の画面に戻ります。

撮影モードに切り替えるには

【📷】を押します。

動画の再生中にできること

早送り／早戻しする	【◀】【▶】を押す • 押すごとに、早送り、早戻しのスピードが速くなります。
早送り／早戻しから通常の再生に戻す	【SET】を押す
再生と一時停止を切り替える	【SET】を押す
一時停止中にコマ送りする	【◀】【▶】を押す • 押し続けると、連続してコマ送りします。
音量を調節する	【▼】を押したあと、【▲】【▼】を押す • 音量調節は、再生中にだけできます。
情報表示をオン／オフする	【▲】(DISP)を押す
拡大する	ズームレバーを【[♠]】(🔍)側にスライドさせる • 拡大中は、【▲】【▼】【◀】【▶】で拡大部分を移動できます。 • 動画は3.5倍まで拡大できます。
再生をやめる	【MENU】を押す

重 要

• このカメラで撮影した動画以外は、再生できない場合があります。

自動的にページ送りして楽しむ（スライドショー）

撮影、記録したものを自動的に次々と再生させることができます(スライドショー)。
いろいろな見かたを設定することができます。

1. 再生モードにして【MENU】を押す

2. "再生機能"タブ→"スライドショー"と選び、【▶】を押す

3. スライドショーの見かたを設定する

【▲】【▼】で設定を変更したい項目を選び、下の表を参照して設定してください。

表示画像（スライドショーで再生させるもの）	• 全画像：メモリー内のすべての静止画、動画、および音声のみの記録 • ▭ のみ：静止画、音声付き静止画のみ • 🎥 のみ：動画のみ • 1枚画像：好きな画像ひとつのみ(【◀】【▶】で表示させる画像を選びます。) • お気に入り：お気に入りフォルダ(115ページ)内の静止画
時間（スライドショー開始から終了までの時間）	1〜5分、10分、15分、30分、60分のいずれかを【◀】【▶】で選びます。

間隔 (切り替わりの間隔)	1〜30秒、または“最速”を【◀】【▶】で選びます。 – 1〜30秒を選んだときは、動画や音声付き静止画、音声のみの記録は、選んだ間隔にかかわらず最初から最後まで再生されます。 – “最速”を選ぶと、動画は最初の1コマだけ表示されます。音声のみの記録は再生されません。
エフェクト (特殊効果)	【▲】【▼】で希望のエフェクトを選びます。 • パターン1〜5:特殊効果をまじえながら画像を切り替えて表示、BGMも再生 – “パターン5”を選択すると“表示画像”は、“□のみ”になります。また、“間隔”の設定は、無効になります。 • 切:特殊効果とBGMの再生をしない ただし、下記の場合は、特殊効果が無効になります。 – “表示画像”を“[動画]のみ”、“1枚画像”、“お気に入り”にした場合 – “間隔”を“最速”、“1秒”または、“2秒”にした場合 – “動画”や“ボイスレコード”の再生の前後

4. スライドショーを開始する

【▲】【▼】で“開始”を選んで【SET】を押します。

設定した時間が経過するまでスライドショーが続きます。

- 再生中に【◀】【▶】を押すと画像を送ることができます。ただし、“エフェクト”を“パターン5”にしたときを除きます。
- 音声再生中に【▼】を押したあと【▲】【▼】を押すことにより、音量を調整することができます。

スライドショーを中断するには

【SET】を押します。再生モードに戻ります。

- 【MENU】を押すと、中断してメニューに戻ります。
- 【[カメラ]】を押すと、中断して撮影モードに切り替わります。

重要

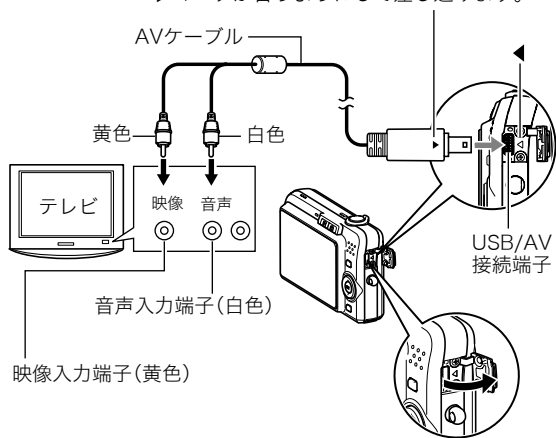
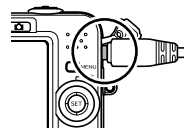
- 画面の切り替わり中はボタン操作が効かなくなります。画面が静止しているときにボタン操作をしてください。ボタンが効かない場合は、しばらくボタンを押し続けてください。

参考

- “表示画像”を“1枚画像”にしたときに動画を選ぶと、動画は設定された時間内で繰り返し再生します。
- パソコンからコピーした画像や、他のデジタルカメラの画像では、切り替わる間隔が設定した間隔より長くなる場合があります。

テレビで画像を見る

カメラに記録してある静止画や動画を、テレビの画面で見ることができます。

1. **付属のAVケーブルでカメラとテレビをつなぐ**

- 付属のAVケーブルをカメラのUSB/AV接続端子に挿入する際は、ケーブルのコネクタをカチッとクリック感があるまでカメラへ押し込んでください。完全に挿入しないと、通信不良や製品の故障の原因となります。
- 完全に挿入しても、イラストのようにコネクタの金属部が見えます。

2. **テレビの映像入力を“ビデオ入力”に切り替える**

テレビに映像入力が2つ以上ある場合は、カメラをつないだ映像入力を選んでください。

3. **【▶】を押して、カメラの電源を入れる**

カメラが再生モードになり、テレビの画面に画像が表示されます。（液晶モニターには何も表示されません。）

- 【ON/OFF】や【📷】を押して、電源を入れることはできません。

4. **以後、カメラで再生の操作を行う**

カメラの電源を切るには

カメラの【ON/OFF】を押します。

重要

- テレビに画像を映すとき、カメラの【📷】(撮影)／【▶】(再生)の動作を必ず"パワーオン"または"パワーオン／オフ"に設定しておいてください(125ページ)。
- 液晶モニターに表示されるアイコンなどは、そのままテレビ画面に表示されます。
  【▲】(DISP)で表示内容を切り替えることもできます。
- 音声はモノラルになります。
- お使いのテレビによっては、画像の一部が表示されないことがあります。
- 音声は最大で出力されます。はじめにテレビの音量を小さくしておき、テレビ側で音量を調節してください。

参考

- DVDレコーダーやビデオデッキとカメラを接続して、カメラの画像を録画することができます。録画するにはさまざまな接続方法がありますが、一例として、付属のAVケーブルを次のように接続します。
  - DVDレコーダーやビデオデッキ側：映像入力端子、音声入力端子
  - カメラ側：USB/AV接続端子

  このとき、カメラでスライドショーを実行すれば、静止画や動画を記録した思い出のDVDやビデオテープが簡単に作れます。スライドショーの設定を"🎥のみ"にすれば、動画だけの録画もできます(90ページ)。また、情報表示を"切"に設定にすることで、画像だけを録画することができます(37ページ)。
  録画する画像の確認は、接続したDVDレコーダーやビデオデッキから出力される画像をテレビなどに表示させてご確認ください。DVDレコーダーやビデオデッキから出力される画像の見かたや録画方法については、DVDレコーダーやビデオデッキの取扱説明書をご覧ください。

■ 画面の横縦比とビデオ出力の方式を変更する

本機では、ビデオ信号をNTSCまたはPAL、テレビ画面のアスペクト比(横縦比)を4:3または16:9のいずれかで出力できます。お買い上げいただいたときは、日本国内の仕様に合わせて、NTSC4:3で出力します。
海外でお使いの場合でPAL仕様のテレビにつなぐときは、ビデオ信号の出力をPALに切り替えてください。

1. 【MENU】を押す

2. "設定"タブ→"ビデオ出力"と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す

NTSC4:3　：日本のほか、アメリカなどでも使用されています。通常の画面比率のテレビ用です。

NTSC16:9：日本のほか、アメリカなどでも使用されています。ワイド画面のテレビ用です。

PAL4:3　：ヨーロッパなどで使用されています。通常の画面比率のテレビ用です。

PAL16:9　：ヨーロッパなどで使用されています。ワイド画面のテレビ用です。

重要

- お使いのテレビ画面のアスペクト比(4:3または16:9)に合わせ、正しく設定してご利用ください。このとき、テレビ側のアスペクト比の設定も正しく設定されている必要があります。カメラとテレビ両方のアスペクト比の設定が揃っていないと、画面が正常に表示されない場合があります。
- 本機のビデオ方式とテレビのビデオ方式が合わないと正しく表示されません。
- NTSC、PAL以外の方式のテレビでは、画像は正しく表示されません。

画像を拡大して表示する

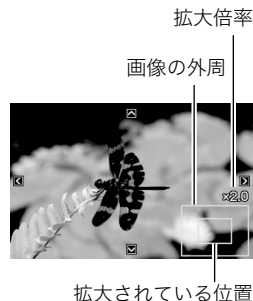
撮影した静止画を8倍まで拡大して見ることができます。

1. 再生モードにして、【◀】【▶】で拡大したい静止画を表示させる

2. ズームレバーを【[♠]】(🔍)側にスライドさせて、画像を拡大表示させる

【▲】【▼】【◀】【▶】で、拡大表示される位置を変えることができます。

ズームレバーを【[♠♠♠]】側にスライドさせると、縮小表示されます。

- 情報表示をオンにしてあるとき、画像の右下に、拡大されている位置が表示されます。

元の表示に戻るには

【MENU】または【BS】を押します。

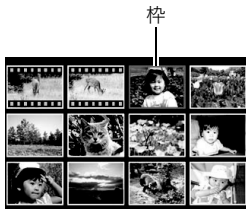
重要

- 画像のサイズによっては、8倍まで拡大できないことがあります。

画面に12枚の画像を表示する

撮影した内容を同時に12枚一覧表示できます。

1. **再生モードにしてズームレバーを【 】( )側にスライドさせる**

画面に12の画像が表示され、最後に見ていた画像が枠で囲まれて表示されます。

2. **表示を切り替える**

- 【◀】【▶】を押していくと、前後の12枚を表示します。
- 通常表示(1枚表示)で見たいときは【▲】【▼】【◀】【▶】を押して、見たい画像に枠を合わせて【SET】を押します。

カレンダー形式で画像を表示する

1ヶ月分のカレンダーの日付上に、その日に撮影した最初の画像を表示させることができます。日付から画像をすばやく探すことができます。

1. **再生モードにしてズームレバーを【 】( )側に2回スライドさせる**

カレンダー表示になり、日付と、その日に撮影した最初の画像が表示されます。

- 【MENU】を押してから、“再生機能”タブ→“カレンダー表示”と選び、【▶】を押してもカレンダー表示になります。

- カレンダー表示をやめるには、【MENU】または【BS】を押します。

2. **【▲】【▼】【◀】【▶】で見たい画像のある日付に枠を合わせ、【SET】を押す**

その日に撮影した最初の画像が表示されます。

参考

- カレンダー表示での年／月は、“表示スタイル”（122ページ）の設定によります。

重要

- 下記の機能を使用して保存した画像は、カレンダー表示の日付には正しく反映して表示することができません。
  各機能で保存した時点の日付で表示される画像
  – アングル補正／退色補正／リサイズ／トリミング／コピー／レイアウトプリント／モーションプリント
  撮影時の日付で表示される画像
  – 日時編集

撮影した画像を編集する

画像サイズを小さくする(リサイズ)

撮影した静止画のサイズを小さくして、新しい静止画として保存することができます。元の静止画も残ります。以下の3つのサイズに変えることができます。

画素数(pixels)			プリントサイズ
大きい ↕ 小さい	5M※	2560×1920	A3プリント
	3M	2048×1536	A4プリント
	VGA	640×480	Eメール • Eメールで画像を送りたい場合に最適です。

※Mはメガ(100万)の意味です。

1. 再生モードにして【MENU】を押す

2. “再生機能”タブ→“リサイズ”と選び、【▶】を押す

3. 【◀】【▶】でリサイズしたい静止画を表示させる

4. 【▲】【▼】で変更後のサイズを選び、【SET】を押す

- 画像サイズの選択中は、画素数(pixel数)とプリントサイズが自動的に切り替わって表示されます。プリントサイズは、選んだ画素数に対して、プリント時に最適な用紙のサイズを示しています。

5. 続けて別の静止画をリサイズする場合は手順3、手順4を繰り返す

- リサイズをやめるには“キャンセル”を選んで【SET】を押してください。

重要

- サイズがVGA(640×480 pixels)の画像はリサイズできません。
- 16:9、および3:2の画像をリサイズすると、画像の両脇が削られ、画像の横縦比が4:3になります。
- リサイズした静止画の日付は、元の静止画を撮影した日付になります。

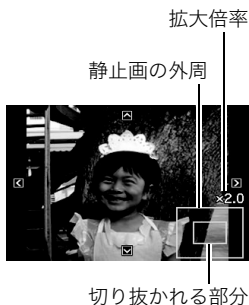
静止画の一部を切り抜く（トリミング）

撮影した静止画の一部を切り抜いて、新しい静止画として保存することができます。元の静止画も残ります。

1. 再生モードにして、【◀】【▶】でトリミングしたい静止画を表示させる

2. 【MENU】を押す

3. “再生機能”タブ→“トリミング”と選び、【▶】を押す

- 静止画が表示されているときのみ操作できます。

4. ズームレバーで静止画を拡大、縮小したり、【▲】【▼】【◀】【▶】で表示位置を変えて、切り抜く部分を決める

5. 【SET】を押す

- トリミングをやめるには、【SET】を押す前に【MENU】を押します。

重要

- 3:2、16:9の画像をトリミングすると、画像の横縦比が4:3になります。
- トリミング後の静止画の日付は、元の静止画を撮影した日付になります。

黒板やポスターを正面から見たように補正する（アングル補正）

すでに撮影した黒板、書類、ポスターや写真などの静止画を、正面から撮影したように（長方形・正方形に）ゆがみを補正します。アングル補正した画像は、アングル補正する前の画像とは別に、最新ファイルとして2M（1600×1200 pixels）のサイズで保存されます。

1. 再生モードにして、【◀】【▶】で補正したい静止画を表示させる

2. 【MENU】を押す

3. "再生機能"タブ→"アングル補正"と選び、【▶】を押す

補正確認画面が表示されます。

- 静止画が液晶モニターに表示されているときのみ操作することができます。

4. 【◀】【▶】で補正候補を選ぶ

5. 【▲】【▼】で"補正"を選び、【SET】を押す

- 補正を中止する場合は"キャンセル"を選びます。

重要

- 元の画像サイズが2M（1600×1200 pixels）より小さい場合は、元の画像と同じサイズで保存されます。
- アングル補正した画像をカメラで表示した場合、日付はアングル補正した日付ではなく、撮影した日付が表示されます。

古く色あせた写真を補正する(退色補正)

デジタルカメラで撮影した古く色あせた写真を、後から退色の補正をすることができます。すでに撮影した古い写真やポスターなどを補正するのに便利です。

- 退色補正した画像は、退色補正する前の画像とは別に、最新ファイルとして2M(1600×1200 pixels)のサイズで保存されます。

1. 再生モードにして、【◀】【▶】で補正したい静止画を表示させる

2. 【MENU】を押す

3. "再生機能"タブ→"退色補正"と選び、【▶】を押す

4. 【◀】【▶】で写真の輪郭候補を選ぶ

5. 【▲】【▼】で"決定"を選び、【SET】を押す

画像の一部を切り抜く操作(トリミング)により、液晶モニターに画像を切り抜くための枠が表示されます。

- "キャンセル"を選ぶと、補正せず、何も保存されずに終了します。

6. ズームレバーをスライドさせて枠を拡大/縮小し、補正する画像の大きさを決める

7. 【▲】【▼】【◀】【▶】で切り抜きたい部分に枠を移動して補正する画像の位置を決め、【SET】を押す

あせた色を自動的に補正し、画像を保存します。

- 画像の周囲に余白を付けたくない場合は、撮影した写真よりも補正画像を小さく指定してください。
- 【MENU】を押すと、何も保存されずに退色補正が終了します。

重要

- 元の画像サイズが2M(1600×1200 pixels)より小さい場合は、元の画像と同じサイズで保存されます。
- 退色補正した画像をカメラで表示した場合、日付は退色補正した日付ではなく、撮影した日付が表示されます。

参考

- 退色補正を撮影から補正まで一貫して行いたい場合は、「古く色あせた写真を蘇らせる (よみがえりショット)」(65ページ)をご覧ください。

撮影画像の日時情報を修正する

すでに撮影した画像の日時情報(撮影日/撮影時刻)をカメラで修正することができます。

1. 再生モードにして、【◀】【▶】で日時を修正したい静止画を表示させる

2. 【MENU】を押す

3. “再生機能”タブ→“日時編集”と選び、【▶】を押す

4. 日付と時刻を修正する

【▲】【▼】:カーソル(選択枠)の部分の数字を変えます。
【◀】【▶】:カーソル(選択枠)を移動します。
【BS】　:12時間表示と24時間表示の切り替えができます。

5. 【SET】を押して、修正を終了する

- 修正後は、画面を表示して、日時が正しく修正されたかどうかを確認してください。

重要

- タイムスタンプ機能により写し込んだ日付と時刻は修正できません(82ページ)。
- メモリープロテクトのかかったファイルは、日時を修正できません。メモリープロテクトを解除してから、日時を修正してください。
- 入力できる日付は、1980年1月1日〜2049年12月31日となります。

画像を回転させる

撮影した静止画を回転して表示させることができます。カメラを縦に構えて撮影した画像を見るときなどに便利です。さらに回転させて元の状態に戻すことができます。

- 画像データそのものが回転するわけではありません。液晶モニターでの表示のしかたを変えているだけです。

1. 再生モードにして【MENU】を押す

2. “再生機能”タブ→“回転表示”と選び、【▶】を押す

- 静止画が表示されているときのみ操作できます。

3. 【◀】【▶】で回転させたい画像を表示させる

4. 【▲】【▼】で“回転”を選び、【SET】を押す

【SET】を押すごとに、90° 左回りに回転します。

5. 希望の表示状態になったら【MENU】を押す

重要

- メモリープロテクトをかけた画像を回転させることはできません。回転させたいときは、メモリープロテクトを解除してください(114ページ)。
- 拡大表示された画像を回転させることはできません。
- 12画面表示、カレンダー表示では、回転前の静止画が表示されます。

複数の写真を組み合わせる（レイアウトプリント）

あらかじめ用意された複数のフレームに、撮影済みの静止画をレイアウトし、新たに保存することができます。

- レイアウトパターン（2枚）
- レイアウトパターン（3枚）

1. 再生モードにして【◀】【▶】で最初にレイアウトする画像を表示させる

2. 【MENU】を押す

3. "再生機能"タブ → "レイアウトプリント"と選び、【▶】を押す

- 静止画が表示されているときのみ操作できます。

4. 【◀】【▶】で好きなレイアウトパターンを選び、【SET】を押す

5. 【◀】【▶】で背景の色を選ぶ

6. 【SET】を押す

7. 【◀】【▶】でレイアウトする画像を選び、【SET】を押す

8. 残りのフレームについても、同様に手順6.7を繰り返す

最後の画像をレイアウトし終わると、レイアウトした画像が保存されます。

- 【MENU】を押すとレイアウトした画像は保存されず、再生モードの画面に戻ります。
- レイアウト上のすべての写真をはめ込まないと、写真は保存されません。

重要

- 画像サイズが“3:2(3648×2432 pixels)”、“16:9(3648×2048 pixels)”の場合、レイアウトできません。
- レイアウトした画像をカメラで表示した場合、日付はレイアウトした日付ではなく、レイアウトした最後のフレームを撮影した日付が表示されます。
- 画像サイズは自動的に7M(3072×2304 pixels)に固定され、保存されます。

画像の色味を変える(ホワイトバランス)

撮影した静止画像の色味を、さまざまな光源下で撮影したような色味に変えることができます。

1. 再生モードにして【◀】【▶】で色味を変えたい画像を表示させる

2. 【MENU】を押す

3. “再生機能”タブ → “ホワイトバランス”と選び、【▶】を押す

- 静止画が液晶モニターに表示されているときのみ操作することができます。

4. 【◀】【▶】で変更したい色味を選び、【SET】を押す

太陽光	：晴天時の野外で撮影したような色味
曇天	：薄雲〜雨天の野外や木陰などで撮影したような色味
日陰	：ビルの陰など極端に色温度が高いところで撮影したような色味
N 昼白色	：白色・昼白色蛍光灯下での色かぶりを抑えて撮影したような色味
D 昼光色	：昼光色蛍光灯下での色かぶりを抑えて撮影したような色味
電球	：電球の雰囲気を消して撮影したような色味
キャンセル	：色味の変更を中止

- 設定項目を示す反転は、色味を変える前の画像撮影時に設定したホワイトバランスの位置に表示されます。ただし、ホワイトバランスを"オート"または"マニュアル"に設定して撮影した場合は、キャンセルの位置に表示されます（77ページ）。
- 撮影時のホワイトバランスを忘れて、撮影時と同じホワイトバランス（色味）を選んで【SET】を押したとしても、キャンセルと同じ扱いになり、色味は変わりません。

重要

- 色味を変えた画像は、色味を変える前の画像とは別に最新ファイルとして保存されます。
- 色味を変えた画像をカメラで表示した場合、日付は色味を変えた日付ではなく、撮影した日付が表示されます。

画像の明るさを変える（明るさ編集）

撮影した静止画像の明るさを変えることができます。

1. 再生モードにして【◀】【▶】で明るさを変えたい画像を表示させる

2. 【MENU】を押す

3. "再生機能"タブ → "明るさ編集"と選び、【▶】を押す

- 静止画が液晶モニターに表示されているときのみ操作することができます。

4. 【▲】【▼】で明るさの設定値を選び、【SET】を押す

＋2（もっとも明るい）から－2（もっとも暗い）までの5段階から選べます。

- 明るさ編集を中止したいときは、【◀】または【MENU】を押してください。

重要

- 明るさを変えた画像は、明るさを変える前の画像とは別に最新ファイルとして保存されます。
- 明るさを変えた画像をカメラで表示した場合、日付は明るさを変えた日付ではなく、撮影した日付が表示されます。

黒つぶれを軽減する（ダイナミックレンジ）

画像の明るい部分はそのままで、黒つぶれを軽減します。

1. 再生モードにして【◀】【▶】で階調を補正したい画像を表示させる

2. 【MENU】を押す

3. "再生機能"タブ → "ダイナミックレンジ"と選び、【▶】を押す

4. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す

拡大＋2："拡大＋１"よりも強い効果があります。

拡大＋1：黒つぶれを軽減します。

重要

- 階調を補正した画像は、階調を補正する前の画像とは別に最新ファイルとして保存されます。
- 階調を補正した画像をカメラで表示した場合、日付は階調を補正した日付ではなく、撮影した日付が表示されます。

動画をカットする(ムービーカット)

撮影した動画の一部をカット(削除)することができます。以下の3通りのカット方法があります。

カット(前カット)	選択した場面から前をカットします。
カット(中カット)	選択した場面と場面の間をカットします。
カット(後カット)	選択した場面から後をカットします。

重要

- カット編集すると、元の動画は残りません。一度カットすると、カットした場面を元に戻すことはできません。
- 5秒未満の短い動画は、カットできません。
- このカメラで撮影した動画以外は、ムービーカットできません。
- カット編集しようとしている動画ファイルよりも残りのメモリー容量が少ない場合は、ムービーカットできません。その場合は、不要なファイルを消去するなどして、残りのメモリー容量を増やしてください。
- 動画を二つに分けたり、二つの動画を一つにすることはできません。

1. カットしたい動画を再生する

2. 【SET】を押して一時停止する

- “ ”(カットアイコン)が表示されていることを確認してください。表示されていない場合は、もう一度【SET】を押してください。

カットアイコン

3. 【▼】を押す

- 以下のように操作しても同じ画面が表示されます。
  ①再生モードでカットしたい動画を選び、【MENU】を押す
  ②“再生機能”タブ→“ムービーカット”と選び、【▶】を押す

4. 【▲】【▼】でカット方法を選び、【SET】を押す

- カットを中止するときは、“キャンセル”を選んで【SET】を押します。一時停止状態に戻ります。

5. 以下の操作で、カットしたい位置(境界のコマ)を探す

カットされる範囲
(赤い部分)

早戻し/早送りする	【◀】【▶】を押す
再生と一時停止を切り替える	【SET】を押す
一時停止中にコマ送りする	【◀】【▶】を押す

- カットを中止するときは、【MENU】を押します。手順3の画面に戻ります。

6. カットしたい位置が決まったら、【▼】を押す

カット(前カット)	カットしたい最後の場面(コマ)が決まったら、【▼】を押す
カット(後カット)	カットしたい先頭の場面(コマ)が決まったら、【▼】を押す
カット(中カット)	①カットしたい先頭の場面(コマ)が決まったら、【▼】を押す ②カットしたい最後の場面(コマ)が決まったら、【▼】を押す

7. 【▲】【▼】で"はい"を選び、【SET】を押す

- カットを中止するときは、"いいえ"を選んで【SET】を押します。一時停止状態に戻ります。
- カットには、しばらく時間がかかります。"処理中です しばらくお待ちください"の表示が消えるまで待ってください。編集する動画が長いときは非常に時間がかかることがあります。

動画から静止画を作成する（モーションプリント）

撮影した動画から印刷用の静止画を作ることができます。以下の2種類から選べます。

9コマで作成（2M 1600×1200 pixels）	選んだ場面を最も大きくレイアウトした9コマを1枚の静止画にして記録します。
1コマで作成（VGA 640×480 pixels）	選んだ1コマを静止画にして記録します。

1. 再生モードにして、【◀】【▶】で素材にする動画を表示させる

2. 【MENU】を押す

3. “再生機能”タブ→“モーションプリント”と選び、【▶】を押す

4. 【▲】【▼】で“9コマで作成”または“1コマで作成”を選ぶ

5. 【◀】【▶】で静止画にしたい場面を探す

- 【◀】【▶】を押し続けると、早戻し／早送りができます。

6. 【SET】を押す

- “9コマで作成”を選んだときは、手順6の場面が最も大きくレイアウトされた9コマが静止画になります。
- “1コマで作成”を選んだときは、手順6の場面が静止画になります。

重要

- このカメラで撮影した動画以外は、モーションプリントできません。

音声を活用する

静止画に音声を追加する(アフレコ)

音声を付けずに撮影した静止画に、あとから音声を付けることができます(アフレコ)。あとから音声を付けた場合も、その静止画は音声付きの静止画("♪"が表示される静止画)になります。
音声付きの静止画の音声を録音し直すこともできます。
音声は、ひとつの静止画につき最長約30秒まで録音できます。

1. 再生モードにして、【◀】【▶】で音声を追加したい静止画を表示させる

2. 【MENU】を押す

3. "再生機能"タブ→"アフレコ"と選び、【▶】を押す
- 静止画が表示されているときのみ操作することができます。

4. シャッターを押して録音を開始する

5. もう一度シャッターを押して録音を終了する
シャッターを押さなくても、約30秒経過すると録音は終了します。

追加した音声を聞くには
音声付き静止画の音声を聞くときと同じように操作します(89ページ)。

■ 音声を録音し直す

重要
- 音声を消去、変更すると、音声を元に戻すことはできません。

1. 再生モードにして、【◀】【▶】で音声を録音し直したい静止画を表示させる

2. 【MENU】を押す

3. "再生機能"タブ→"アフレコ"と選び、【▶】を押す

4. 【▲】【▼】で"消去"を選び、【SET】を押す
- 音声を消すだけにしたいときは、続けて【MENU】を押してください。

5. シャッターを押して録音を開始する
前の録音は消え、新しい音声が録音されます。

6. もう一度シャッターを押して録音を終了する
シャッターを押さなくても、約30秒経過すると録音は終了します。

参考

- 音声のデータ形式などは以下のとおりです。
  - 録音形式:WAVE/ADPCM記録形式(拡張子は.WAV)
  - 音声ファイルサイズ:約165KB(約5.5KB/秒で30秒間録音時)
- 録音時の注意事項については55ページをご覧ください。

音声だけを録音する(ボイスレコード)

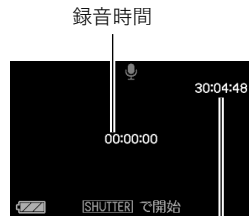
静止画や動画は撮影せず、音声だけを録音することができます。内蔵メモリーを使った場合、最長約48分録音できます。

1. 撮影モードにして【BS】を押す

2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で"ボイスレコード"を選び、【SET】を押す

液晶モニターに" "が表示されます。

3. シャッターを押して録音を開始する

- 録音中は、動作確認用ランプが緑色に点滅します。
- 録音中に【SET】を押すと、その部分にマークが付きます。再生するとき、マークの位置に簡単に移動できます。

4. もう一度シャッターを押して録音を終了する

- シャッターを押さなくても、メモリーがいっぱいになると録音は終了します。

5. 続けて次の録音をする場合は手順3、手順4を繰り返す

- ボイスレコードをやめるには、【BS】を押し、“ボイスレコード”以外の設定を選んで【SET】を押してください。たとえば、“オート”での静止画撮影ができる状態にするには、“オート”を選んで【SET】を押します。

参考

- ボイスレコードで録音した音声は、パソコンで再生することもできます（WindowsではWindows Media Player、MacintoshではQuickTimeを使用します）。
- 音声のデータ形式などは以下のとおりです。
  - 録音形式：WAVE/ADPCM記録形式（拡張子は.WAV）
  - 音声ファイルサイズ：約165KB（約5.5KB／秒で30秒間録音時）
- 録音時の注意事項については55ページをご覧ください。

■ ボイスレコードの音声を聞く

1. 再生モードにして、【◀】【▶】で再生したいボイスレコードの画面を表示させる

ボイスレコードの画面には、“ ”が表示されます。

2. 【SET】を押して再生を始める

音声の再生中にできること

早送り／早戻しする	【◀】【▶】を押し続ける
再生と一時停止を切り替える	【SET】を押す
マークの位置から再生する	一時停止中に【◀】【▶】を押し、希望のマークの位置で【SET】を押す
音量を調節する	【▼】を押したあと【▲】【▼】を押す • 音量調節は、再生または一時停止中にだけできます。
液晶モニターの表示のオン／オフを切り替える	【▲】(DISP)を押す
再生をやめる	【MENU】を押す

撮ったものを整理する

ファイルとフォルダについて

本機では、撮影した静止画などのひとつひとつが、個別のデータとして記録されます。個別のデータのことを「ファイル」と呼びます。撮影したものをファイルとして扱うことにより、ファイル単位で消去したり、誤消去防止の設定をしたり、コピーしたり、といった操作が可能になります。
各ファイルは、本機が自動的に作成する「フォルダ」と呼ばれるまとまりにグループ分けされます。
ファイル、フォルダには、区別のための名前が付けられます。ファイル名、フォルダ名とも、本機が自動的に付けます。

- フォルダの構造に関して詳しくは、「メモリー内のフォルダ構造」(153ページ)をご覧ください。

	名前と最大作成数	例
ファイル	“CIMG0001”から“CIMG9999”までで、最大9999個のファイルが1つのフォルダに作成されます。拡張子は記録したファイルの形式によって異なります。 • ひとつのフォルダに9999個のファイルが入っているときに次の撮影をすると、自動的に新しいフォルダができます。	26番目に記録したファイル名: CIMG0026.JPG 連番(4桁)　拡張子
フォルダ	“100CASIO※”から“999CASIO※”までです。 • 最大900のフォルダが作成されます。 ※本機のベストショットモード(58ページ)にはオークションサイトへの出展品を撮影する“オークション”のシーンを収録しています。このシーンで撮影した場合、フォルダ名は「100_AUCT」となります。	連番100のフォルダ名: 100CASIO※ 連番(3桁)

参考

- フォルダ名、ファイル名は、パソコンで見ることができます。カメラの液晶モニターでの表示については、158ページをご覧ください。
- 保存できるフォルダ数、ファイル数は、サイズや画質、メモリーカードの容量によって異なります。

ファイルを消去できないようにする

大事なファイルを誤って消してしまうことのないよう、ファイルごとに、またはすべてのファイルに、消去防止(メモリープロテクト)を設定することができます。

重要

- メモリープロテクトをかけたファイルでも、フォーマット操作(12、32、126ページ)を行うと、消去されてしまいます。

■ ファイルごとにメモリープロテクトをかける

1. 再生モードにして【MENU】を押す

2. “再生機能”タブ→“プロテクト”と選び、【▶】を押す

3. 【◀】【▶】でメモリープロテクトをかけたいファイルを表示させる

4. 【▲】【▼】で“オン”を選び、【SET】を押す

メモリープロテクトがかかり、“ ”が表示されます。

5. 続けて別のファイルにメモリープロテクトをかける場合は手順3、手順4を繰り返す

- メモリープロテクトの設定をやめるには、【MENU】を押してください。

メモリープロテクトを解除するには

手順4で“オフ”を選んで【SET】を押します。

■ 全ファイルにメモリープロテクトをかける

1. 再生モードにして【MENU】を押す

2. “再生機能”タブ→“プロテクト”と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で“全ファイル　オン”を選び、【SET】を押す

これで、すべてのファイルにメモリープロテクトがかかります。

4. 【MENU】を押す

すべてのファイルのメモリープロテクトを解除するには

手順3で“全ファイル　オフ”を選んで【SET】を押します。

お気に入りフォルダを使う

お気に入りフォルダとは内蔵メモリーの中に用意されているフォルダで、通常の再生ではその中身を見ることはできません。思い出の風景や家族の写真、またはプライベートな写真などを入れておくと、メモリーカードを変えても、またはメモリーカードを入れていなくても見ることができます。好きな静止画をいつも持ち歩きたいときなどにお使いください。

重要

- お気に入りフォルダに登録できるのは、静止画だけです。音声付き静止画の場合は、静止画だけがお気に入りフォルダに登録されます。

■ お気に入りフォルダにファイルを登録(コピー)する

1. 再生モードにして【MENU】を押す

2. "再生機能"タブ→"お気に入り"と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で"登録"を選び、【SET】を押す

4. 【◀】【▶】でお気に入りフォルダに登録したい静止画を表示させる

5. 【▲】【▼】で"登録"を選び、【SET】を押す

静止画がお気に入りフォルダに登録されます。

6. 続けて別のファイルをお気に入りフォルダに登録する場合は手順4、手順5を繰り返す

- 登録をやめるには、【MENU】を2回押してください。

重要

- お気に入りフォルダに静止画を登録すると、QVGA(320×240 pixels)のサイズに変更されます。お気に入りフォルダの静止画のサイズを元に戻すことはできません。
- お気に入りフォルダに登録したファイルをメモリーカードにコピーすることはできません。

参考

- 登録できるファイル数は、画質、内蔵メモリーの空き容量により異なります。

■ お気に入りフォルダの静止画を見る

1. 再生モードにして【MENU】を押す

2. "再生機能"タブ→"お気に入り"と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で"表示"を選び、【SET】を押す

4. 【◀】【▶】でお気に入りフォルダの静止画を切り替える

5. 【MENU】を2回押す

お気に入りフォルダの表示が終了します。

お気に入りフォルダの内容をパソコンで表示するときは

1. カメラからメモリーカードを取り出す

2. カメラとパソコンを接続する

3. カメラをパソコンから操作する

パソコン上では、お気に入りフォルダは“FAVORITE”フォルダとして表示されます。

ファイルをコピーする

内蔵メモリーからメモリーカードへ、またはメモリーカードから内蔵メモリーへ、ファイルをコピーすることができます。
たとえば、自分のメモリーカードを使って撮影した画像を他の人のメモリーカードにコピーしてあげるときは、次のような手順になります。
①自分のメモリーカードから内蔵メモリーにコピーする
②自分のメモリーカードを抜いて、他の人のメモリーカードをセットする
③内蔵メモリーから、そのメモリーカードにコピーする

重要

- コピーできるのは、カメラで撮影した静止画、動画、音声付き静止画、ボイスレコードファイルだけです。
- お気に入りフォルダからのコピーはできません。
- コピーしたファイルをカレンダー表示した場合、ファイルはコピーした日付上に表示されます(95ページ)。

■ 内蔵メモリーからメモリーカードにコピーする

内蔵メモリーからメモリーカードにコピーする場合は、すべてのファイルがコピーされます。1ファイルずつ指定してコピーすることはできません。

1. ファイルをコピーしたいメモリーカードを本機に入れる

2. 電源を入れ、再生モードにして【MENU】を押す

3. "再生機能"タブ→"コピー"と選び、【▶】を押す

4. 【▲】【▼】で"内蔵→カード"を選び、【SET】を押す

コピーが始まります。"処理中です　しばらくお待ちください"の表示が消えたらコピー終了です。

- コピーが終了すると、コピーしたフォルダの最後のファイルが表示されます。

■ メモリーカードから内蔵メモリーにコピーする

メモリーカード内のファイルをひとつひとつ内蔵メモリーにコピーできます。

1. コピーしたいファイルが入ったメモリーカードを本機に入れる

2. 電源を入れ、再生モードにして【MENU】を押す

3. "再生機能"タブ→"コピー"と選び、【▶】を押す

4. 【▲】【▼】で"カード→内蔵"を選び、【SET】を押す

5. 【◀】【▶】でコピーしたいファイルを選ぶ

6. 【▲】【▼】で"コピー"を選び、【SET】を押す

コピーが始まります。"処理中です　しばらくお待ちください"の表示が消えたらコピー終了です。

- コピーが終了すると、コピーを始める前に表示されていたファイルに戻ります。

7. 続けて別のファイルをコピーする場合は手順5、手順6を繰り返す

- コピーをやめるには、【MENU】を押してください。

参考

- ファイルは、内蔵メモリーの一番大きい番号のフォルダにコピーされます。

消去する

プリントしたり、パソコンにコピーした画像のファイルは、メモリーから消去して、次の撮影のための容量を確保することができます。
ファイルの消去には、1つずつ消去する方法とすべてのファイルを1回の操作で消去する方法があります。
ここでは、併せてお気に入りフォルダ内のファイルの消去のしかたも説明します。

重要

- 消去したファイルは元に戻せません。消去する前に、本当に不要かどうかよく確認してください。
- メモリープロテクトのかかったファイルは消去できません。消去するときは、メモリープロテクトを解除してください（114ページ）。
- 音声付きの静止画を消去すると、静止画といっしょに音声ファイルも消去されます。

1ファイルずつ消去する

1. 再生モードにして【▼】（⚡ 🗑）を押す

2. 【◀】【▶】で消去したいファイルを表示させる

3. 【▲】【▼】で“消去”を選び、【SET】を押す

- 消去を中止したいときは、“キャンセル”を選んでください。

4. 続けて別のファイルを消去する場合は手順2、手順3を繰り返す

- 消去をやめるには、【MENU】を押してください。

すべてのファイルを消去する

1. 再生モードにして【▼】(⚡🗑)を押す

2. 【▲】【▼】で“全ファイル消去”を選び、【SET】を押す

3. 【▲】【▼】で“はい”を選ぶ

- 消去を中止するときは、“いいえ”を選んでください。

4. 【SET】を押す

- すべてのファイルが消去され、“ファイルがありません”と表示されます。

お気に入りフォルダのファイルを消去する

お気に入りフォルダ内のファイルも、1ファイルずつ、または一括して消去できます。

1. 再生モードにして【MENU】を押す

2. “再生機能”タブ→“お気に入り”と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で“表示”を選び、【SET】を押す

4. 【▼】(⚡🗑)を押す

5. 通常の消去方法と同様に操作して、ファイルを1ファイルずつ、または一括して消去します。

- 消去をやめるには、【MENU】を2回押してください。

その他の設定について

カメラの音を設定する

カメラの音について、次の設定ができます。

- シャッター音や操作したときの音の種類／音量
- 動画やボイスレコードの再生音の音量

■ 操作音の種類を選ぶ

1. 【MENU】を押す
2. "設定"タブ→"操作音"と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定したい音を選び、【▶】を押す
4. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す

サウンド1～5	:内蔵されたサンプル音が鳴ります。
切	:音は鳴りません。

■ 操作音量を設定する

1. 【MENU】を押す
2. "設定"タブ→"操作音"と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で"操作音"を選ぶ
4. 【◀】【▶】で再生したい音量を選び、【SET】を押す
   - 音量は"0"(最小)～"7"(最大)の8段階の間で設定できます。
   - 音量を"0"に設定すると、音は鳴りません。

参考

- 操作音の設定はビデオ出力時(92ページ)の音量にも反映されます。

■ 再生音量を設定する

操作音とは別に、動画や音声付き静止画の音量を設定することができます。

1. 【MENU】を押す
2. "設定"タブ→"操作音"と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で"再生音"を選ぶ
4. 【◀】【▶】で再生したい音量を選び、【SET】を押す
   - 音量は"0"(最小)～"7"(最大)の8段階の間で設定できます。
   - 音量を"0"に設定すると、音は鳴りません。

重要

- 再生音の設定はビデオ出力時(92ページ)音量に反映されません。

起動画面のオン／オフを切り替える

カメラが記録している画像を、起動画面として液晶モニターに表示させることができます。

- 再生モードで起動画面の設定を行っても、【▶】(再生)を押して電源を入れた場合は、起動画面は表示されません。

1. 【MENU】を押す

2. “設定”タブ→“起動画面”と選び、【▶】を押す

3. 【◀】【▶】で起動画面にしたい画像を表示させる

4. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す

入：選んだ画像を起動画面として表示します。
切：起動画面は表示しません。

参考

- 起動画面に設定できる画像は以下の通りです。
  - カメラに内蔵されている起動画面用の専用画像
  - 静止画
  - 音声付き静止画(音声は再生されません)
- 起動画面は、1つだけ登録できます。起動画面を変更すると、メモリー内の画像は上書きされます。
- 登録した起動画面は、内蔵メモリーをフォーマット(126ページ)すると消去されます。

画像の連番のカウント方法を切り替える

撮影時に画像に付く連番(113ページ)のカウント方法を切り替えることができます。

1. 【MENU】を押す

2. “設定”タブ→“ファイルNo.”と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す

メモリする　：今まで撮影したファイルの連番を記憶します。ファイルを消去したり、空のメモリーカードに交換しても、記憶した連番からファイル名を付けます。

- メモリーカードにファイルが残っている場合で、残っているファイルのファイル名がカメラの記憶した連番より大きい場合は、残っているファイルの最大の連番＋1からファイル名が付きます。

メモリしない：ファイルをすべて消去したり、空のメモリーカードに交換すると、ファイルの連番を継続せずに、0001番からファイル名を付けます。

- メモリーカードにファイルが残っている場合は、残っているファイルの最大の連番＋1からファイル名を付けます。

カメラの日時を設定し直す

日時を設定し直したいときは、ホームタイムの都市(カメラを使用する都市)を設定してから日時を設定します。日時だけを設定し直したいときは、「ホームタイムの日時を設定し直す」の操作だけで日時を設定することができます。

重要

- 日時を設定する前にホームタイムを自分の住んでいる地域に設定しないと、ワールドタイム(123ページ)の日時が正しく表示されません。

■ ホームタイムの都市を設定し直す

1. 【MENU】を押す

2. “設定”タブ→“ワールドタイム”と選び、【▶】を押す

現在設定されている内容が表示されます。

3. 【▲】【▼】で“自宅”を選び、【▶】を押す

4. 【▲】【▼】で“都市”を選び、【▶】を押す

5. 【▲】【▼】【◀】【▶】で自宅の地域を選び、【SET】を押す

6. 【▲】【▼】で自宅の都市を選び、【SET】を押す

- 日本で使う場合は“Tokyo”を選んでください。

7. 【SET】を押して、設定を終了する

■ ホームタイムの日時を設定し直す

1. 【MENU】を押す

2. “設定”タブ→“日時設定”と選び、【▶】を押す

3. 日付と時刻を合わせる

【▲】【▼】:カーソル(選択枠)の部分の数字を変えます。
【◀】【▶】:カーソル(選択枠)を移動します。
【BS】　:12時間表示と24時間表示の切り替えができます。

4. 【SET】を押して、設定を終了する

■ 日付の表示スタイルを切り替える

画面に表示される日付の表示スタイルを3つの中から選ぶことができます。

1. 【MENU】を押す

2. “設定”タブ→“表示スタイル”と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す

例) 2007年12月19日
年／月／日:07/12/19
日／月／年:19/12/07
月／日／年:12/19/07

参考

- 操作パネル上の日付の表示スタイルも、下記のように切り替えることができます(36ページ)。
  “年／月／日”、“月／日／年”を選んだ場合：月／日の順
  “日／月／年”を選んだ場合　　　　　　　：日／月の順

ワールドタイムを表示する

購入時に設定した自宅の日時とは別に、海外旅行などで訪問する都市の日時を1都市選んで表示することができます。世界162都市(32タイムゾーン)に対応しています。

ワールドタイムを設定する

1. 【MENU】を押す

2. “設定”タブ→“ワールドタイム”と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で“訪問先”を選び、【▶】を押す

4. 【▲】【▼】で“都市”を選び、【▶】を押す

- サマータイムを設定するときは、【▲】【▼】で“サマータイム”を選び、“入”に設定します。
- サマータイムとは、夏の一定期間、日照時間を有効に使うため、通常の時刻から1時間進める夏時間制度のことです。
- サマータイムの採用時期は国や地域によって異なります(日本では採用されていません)。

5. 【▲】【▼】【◀】【▶】で訪問先の地域を選び、【SET】を押す

6. 【▲】【▼】で訪問先の都市を選び、【SET】を押す

7. 【SET】を押して、設定を終了する

■ ワールドタイムとホームタイムの表示を切り替える

1. 【MENU】を押す

2. “設定”タブ→“ワールドタイム”と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で“訪問先”を選ぶ
   自宅　：ホームタイムの日時を表示します。
   訪問先：ワールドタイムの日時を表示します。

4. 【SET】を押して、設定を終了します。

表示言語を切り替える

画面のメッセージの言語を変更することができます。

1. 【MENU】を押す

2. “設定”タブ→“Language”と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】【◀】【▶】で設定内容を選び、【SET】を押す

液晶モニターの明るさを切り替える

液晶モニターの明るさを切り替えることができます。

1. 【MENU】を押す

2. “設定”タブ → “液晶設定”と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で設定値を選び、【SET】を押す
   オート2/オート1：周囲の環境を判断して、明るい環境下では自動的に液晶が明るくなります。「オート2」は「オート1」に比べて、より暗い環境から液晶が明るく切り替わります。
   +2：「+1」に比べてさらに液晶が明るくなり、見やすくなります。反面、消費電力が大きくなります。
   +1：屋外などの明るい場所で使用する場合の設定です。「0」に比べて液晶が明るくなり、見やすくなります。反面、消費電力が大きくなります。
   0：屋内などの明るすぎない場所で使用する場合の設定です。

USB通信の方法を切り替える

パソコンやプリンターなどの外部機器と接続するときの、USB通信の方法を切り替えることができます。接続する機器に合わせて切り替えてください。

1. 【MENU】を押す

2. "設定"タブ→"USB"と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で使用する機器に合わせて設定を選び、【SET】を押す

- Mass Storage(USB DIRECT-PRINT):
パソコンやUSB DIRECT-PRINT対応(128ページ)のプリンターを接続する場合、こちらを選びます。パソコンにカメラを外部記憶装置として認識させる方法です。通常、パソコンへの画像の保存の操作時(付属のソフト「Photo Loader with HOT ALBUM」使用時)はこちらを選んでください。
- PTP (PictBridge):
PictBridge対応(128ページ)のプリンターを接続する場合に選びます。画像データを外部接続機器に簡単に転送するための接続方法です。

【📷】(撮影)/【▶】(再生)の動作を設定する

【📷】(撮影)や【▶】(再生)を押しても電源が入らないようにしたり、【📷】(撮影)や【▶】(再生)を押して電源を切ることができるように設定することができます。

1. 【MENU】を押す

2. "設定"タブ→"REC/PLAY"と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す

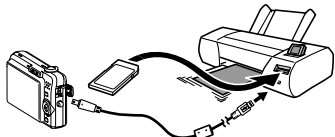
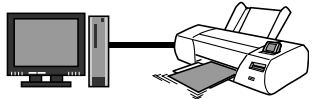
パワーオン	:【📷】(撮影)や【▶】(再生)を押すと、電源が入ります。
パワーオン/オフ	:【📷】(撮影)や【▶】(再生)を押して、電源を入れたり切ったりできます。
切	:【📷】(撮影)や【▶】(再生)を押しても、電源は入りません。

参考

- "パワーオン/オフ"に設定しているときは、撮影モードで【📷】(撮影) を押した場合と再生モードで【▶】(再生)を押した場合に電源が切れます。
- お買い上げいただいたときは、"パワーオン"に設定されています。
- テレビに画像を映し出す場合は、"切"以外に設定する必要があります。

内蔵メモリーをフォーマットする

内蔵メモリーをフォーマットすると、内蔵メモリーの内容がすべて消去されます。

重要

- 内蔵メモリーをフォーマットすると、データを元に戻すことはできません。フォーマット操作を行う際は、本当にフォーマットしてもよいかどうかをよく確かめてから行ってください。
- 次の画像も同時に消去されます。
  - メモリープロテクトされた画像
  - お気に入りフォルダの画像
  - ベストショットモードでカスタム登録した内容
  - 起動画面に設定した画像
- フォーマット操作を行うときは、充分に充電された電池を使用してください。フォーマット中に電源が切れると、正しくフォーマットされず、カメラが正常に動作しなくなる恐れがあります。
- フォーマット中は、絶対に電池カバーを開けないでください。カメラが正常に動作しなくなる恐れがあります。

1. 本機にメモリーカードが入っていないことを確認する

- メモリーカードが入っている場合は、取り出してください。

2. 【MENU】を押す

3. “設定”タブ→“フォーマット”と選び、【▶】を押す

4. 【▲】【▼】で“フォーマット”を選び、【SET】を押す

内蔵メモリーがフォーマットされます。

- フォーマットを実行しないときは、“キャンセル”を選んでください。
- フォーマットが完了すると、再生モードの場合は“ファイルがありません”と表示されます。

プリント(印刷)する

プリントのしかたあれこれ

撮影した画像は、3通りの方法でプリントできます。

<table>
<tr><td rowspan="1">お店で
プリントする
(128ページ)</td><td>
</td><td>撮影に使ったメモリーカードを、プリントサービスのお店に持参してプリントします。
● プリントしたい画像や枚数、日付の情報を設定しておくことができます。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">自宅で
プリントする</td><td>プリンターでプリントする(128ページ)
</td><td>PictBridgeまたはUSB DIRECT-PRINTに対応しているプリンターや、メモリーカードを差し込むスロットが付いているプリンターでプリントします。
● プリントしたい画像や枚数、日付の情報を設定しておくことができます。</td></tr>
<tr><td>パソコンを使ってプリントする
</td><td>■Windowsパソコンの場合
付属のソフト(Photo Loader with HOT ALBUM)をパソコンにインストールした後、プリントします。
→「Windowsパソコンを利用する」(135ページ)
■Macintoshの場合
画像をパソコンに取り込んだ後、市販のプリントソフトを使ってプリントします。
→「Macintoshを利用する」(147ページ)</td></tr>
</table>

■ プリントについてのご注意

- 印刷品位や用紙の設定についてはプリンターの取扱説明書をご覧ください。
- PictBridgeやUSB DIRECT-PRINT対応プリンターの機種名やプリンターのバージョンアップなどについては、プリンターメーカーにお問い合わせください。
- プリント中は、ケーブルを抜いたり、カメラの操作を行わないでください。プリンターがエラーを起すことがあります。

お店でプリントする

プリントしたい画像が記録されているメモリーカードを、プリントサービスを行っているカメラ店などに持参してプリントします。DPOF機能(130ページ)を使って、プリントしたい画像や枚数、日付プリントの設定をあらかじめしておくと、お店での手続きが簡単です。

お手持ちのプリンターでプリントする

お手持ちのプリンターが以下のどちらかのタイプの場合、パソコンを使わずにプリントできます。

- ご使用のメモリーカードに対応したメモリーカードスロット付のプリンター
- PictBridgeまたはUSB DIRECT-PRINTに対応しているプリンター

■ メモリーカードスロット付のプリンターでプリントする

メモリーカードをカメラから取り出し、プリンターのスロットに直接セットしてプリントできます。また、プリンターによってはカメラのDPOF機能(130ページ)で設定した内容(画像の指定、枚数、日付)が利用可能です。詳しくは、プリンターに付属の説明書にしたがって操作してください。

■ PictBridgeまたはUSB DIRECT-PRINT対応のプリンターでプリントする

カメラをプリンターに直接接続し、カメラの液晶モニター上でプリントする画像を選んでプリントできます。

- このカメラは付属のUSBケーブルでプリンターと接続しますが、すぐにカメラとプリンターを接続せずに、必ず以下の手順で進めてください。

1. 【MENU】を押す

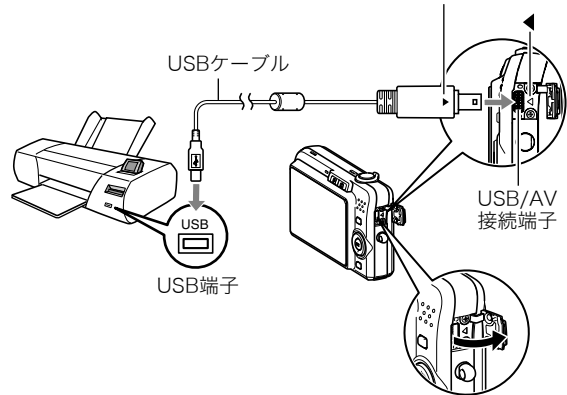
2. "設定"タブ→"USB"と選び、【▶】を押す

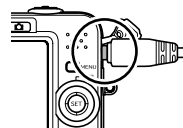
3. 【▲】【▼】で使用するプリンターに合わせて設定を選び、【SET】を押す

Mass Storage(USB DIRECT-PRINT):
ご使用のプリンターがUSB DIRECT-PRINT対応の場合、こちらを選びます。
PTP(PictBridge):
ご使用のプリンターがPictBridge対応の場合、こちらを選びます。

4. カメラの電源を切り、電池残量が十分な電池をセットする

- USBケーブルからは電源は供給されません。

5. 付属のUSBケーブルでカメラとプリンタを接続する

- 付属のUSBケーブルをカメラのUSB/AV接続端子に挿入する際は、ケーブルのコネクタをカチッとクリック感があるまでカメラへ押し込んでください。完全に挿入しないと、通信不良や製品の故障の原因となります。

- 完全に挿入しても、イラストのようにコネクタの金属部が見えます。
- USBケーブルをプリンタとカメラに接続するときは、それぞれの機器のUSB端子の形状とケーブルの接続端子の形状を合わせて接続してください。

6. プリンターの電源を入れる

7. プリンターに印刷用紙をセットする

8. カメラの電源を入れる

カメラにプリントメニュー画面が表示されます。

9. 【▲】【▼】で"用紙サイズ"を選び、【▶】を押す

10. 【▲】【▼】でプリントする用紙サイズを選び、【SET】を押す

- 用紙サイズは次の通りです。
  "L判"、"2L判"、"はがき"、"A4"、"Letter"、"プリンタで設定"
- "プリンタで設定"を選ぶと、プリンター側で設定した用紙サイズでプリントされます。
- 用紙について設定できる内容は、接続したプリンターによって異なります。詳しくはプリンターの取扱説明書をご覧ください。

11. 【▲】【▼】でプリントの方法を指定する

1枚プリント　：1枚ずつプリントする場合に選び、【SET】を押します。続けて【◀】【▶】でプリントしたい画像を選びます。

DPOFプリント：複数の画像やすべての画像をプリントする場合に選び、【SET】を押します。DPOF機能で設定した画像がプリントされます。設定方法については130ページをご覧ください。

- 日付設定の入／切を切り替えるには、【BS】を押します。"あり"を表示させると、日付がプリントされます。

12. 【▲】【▼】で"プリント"を選び、【SET】を押す

プリントが始まり、液晶モニターに"処理中です　しばらくお待ちください"と表示されます。しばらくすると表示が消えますが、プリントは終了していません。カメラのいずれかのボタンを押すと、プリントの状況が再び表示されます。
プリントが終了すると、プリントメニュー画面に戻ります。

- "1枚プリント"で別の画像をプリントする場合は、手順11から同様の操作を行ってください。

13. プリントが終了したらカメラの電源を切り、カメラをUSBケーブルから取りはずす

プリントする画像や枚数を指定しておく（DPOF）

DPOF（Digital Print Order Format）とは、撮影した画像の中からプリントしたい画像や枚数などを設定し、その情報をメモリーカードなどの記録媒体に記録するための規格です。DPOF対応の家庭用プリンターやプリントサービス店でプリントすることができます。本機のDPOF機能を使えば、画像のファイル名などを意識することなく、液晶モニターで確認しながら設定ができます。
設定可能な内容は、画像／枚数／日付です。

重要

- プリンターによっては、日付の設定が無効になったり、DPOFに対応していない場合があります。プリンターの取扱説明書にしたがって操作してください。
- お店でプリントをする場合、DPOF機能を利用できない場合や他の方法でプリントを受け付けている場合があります。その際は、店頭のサービスにしたがってプリントをご依頼ください。

■ 画像ごとにプリント枚数を指定する

1. 再生モードにして【MENU】を押す

2. “再生機能”タブ→“プリント設定(DPOF)”と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で“選択画像”を選び、【▶】を押す

4. 【◀】【▶】でプリントしたい画像を表示させる

5. 【▲】【▼】でプリントする枚数を決める

- プリント設定できる枚数は99枚までです。プリントしたくない場合は“00”にしてください。

6. 日付をプリントしたい場合は、【BS】を押して日付印刷を“あり”にする

- 日付が不要なときは、【BS】を押して日付印刷を“なし”にします。
- 他の画像をプリントする場合は、手順4〜6を繰り返してください。

7. 【SET】を押す

■ すべての画像に同じプリント指定をする

1. 再生モードにして【MENU】を押す

2. “再生機能”タブ→“プリント設定(DPOF)”と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で“全画像”を選び、【▶】を押す

4. 【▲】【▼】でプリントする枚数を決める

- プリント設定できる枚数は99枚までです。プリントしたくない場合は“00”にしてください。

5. 日付をプリントしたい場合は、【BS】を押して日付印刷を“あり”にする

- 日付が不要なときは、【BS】を押して日付印刷を“なし”にします。

6. 【SET】を押す

次回のプリント時に気をつけていただきたいこと

プリントが完了してもDPOFの設定は自動的に解除されません。次回プリント時にも前回設定した画像がある場合、同じ画像がプリントされてしまいます。以前プリントした画像をプリントしない場合は、一度「すべての画像に同じプリント指定をする」（131ページ）の操作で、全画像プリントの枚数設定を“00”にしてから、あらためてプリント枚数を設定してください。

お店でプリントするときに気をつけていただきたいこと

お店にプリントを注文する場合は、注文時に「DPOFでプリントする画像、枚数、日付を設定済みです」とお伝えください。お伝えいただかないと、設定された内容（画像、枚数、日付）が反映されず、すべての画像がプリントされたり、日付がプリントされないことがあります。

日付プリントについて

以下の方法で、画像に撮影時の日付を入れてプリントすることができます。

- **本機のDPOF機能で指定する（130ページ）**
  - 本機のタイムスタンプ機能により、日付や時刻を写し込んだ画像にDPOFで日付印刷を設定すると、日付が2重に印刷されてしまいますので、DPOFによる日付印刷は設定しないでください。
  - プリンターによっては、日付の設定が無効になったり、DPOF機能に対応していない場合があります。プリンターの取扱説明書にしたがって操作してください。
  - プリントをするお店によってはDPOF機能に対応していない場合がありますので、あらかじめご確認ください。
- **本機のタイムスタンプ機能により日付や時刻を画像に直接写し込む（82ページ）**
- **付属のソフト「Photo Loader with HOT ALBUM」（135ページ）で日付を入れてプリントする（Windowsパソコンの場合）**
- **お店にプリントを注文するときに、日付プリントするよう依頼する**
  - プリントするお店によっては、日付をプリントできない場合がありますので、あらかじめご確認ください。

対応規格について

本製品は下記の規格に対応しています。

■ PictBridge

カメラ映像機器工業会(CIPA)制定の規格です。

■ USB DIRECT-PRINT

セイコーエプソン株式会社提唱の規格です。

■ PRINT Image Matching III

PRINT Image Matching III 対応プリンターでの出力および対応ソフトウェアでの画像処理において、撮影時の状況や撮影者の意図を忠実に反映させることが可能です。

PRINT Image Matching及びPRINT Image Matching III に関する著作権はセイコーエプソン株式会社が所有しています。

■ Exif Print

Exif Print(Exif2.2)は、対応プリンターをお使いの場合に画像ファイルに記録された撮影情報を印刷出力に反映させることを可能にします。

Exif Print対応プリンターの機種名やプリンターのバージョンアップ等については、各プリンターメーカーにお問い合わせください。

パソコンを利用する

パソコンを使ってできること

カメラをパソコンに接続して、次のことができます。

画像を見る／保存する※	カメラの画像をパソコンで見たり、パソコンに保存することができます。 • Windowsパソコンの場合、OSのバージョンによっては、付属のUSBドライバをパソコンにインストールする必要があります。 • Macintoshの場合、USBドライバのインストールは不要です。
画像を管理／編集／印刷する	パソコンに保存した画像に対して、付属のソフトを使っていろいろな操作ができます。 • 以降の説明をお読みになり、必要なソフトをパソコンにインストールしてください。
画像を転送する	Windowsパソコンの場合のみ、パソコンに保存されている画像をカメラに転送できます。 • カメラで撮影した画像以外の画像も転送できます。また、パソコンに表示されている画面の一部（Webページの情報や地図など）をキャプチャー（切り抜き）して転送できます。

※ カメラとパソコンを接続せず、カメラから取り出したメモリーカードを直接パソコンにセットして、画像を見たり保存したりする方法もあります（152ページ）。

カメラとパソコン、付属のソフトを使ってできることや操作のしかたは、Windowsパソコンの場合とMacintoshパソコンの場合で異なります。

- Windowsパソコンの場合→「Windowsパソコンを利用する」（135ページ）
- Macintoshの場合→「Macintoshを利用する」（147ページ）

Windowsパソコンを利用する

OSのバージョンおよび使用目的に応じて、必要なソフトをインストールしてください。

使用目的	OSのバージョン	インストールするソフト	参照ページ
• パソコンで画像を見る • パソコンに画像を保存	Vista／XP／2000／Me	ー （USBドライバは不要です。）	ー
	98SE／98	**USB driver Type B** （USBドライバです。必ずインストールしてください。）	137
パソコンに自動で画像を保存／画像の管理	Vista／XP／2000	**Photo Loader with HOT ALBUM 3.1** DirectX 9.0c（パソコンにDirectX 9.0以上がないとき）	142
動画の再生	Vista／XP／2000／Me／98SE／98	**DirectX 9.0c** Windows 2000／98SE／98の場合 パソコンにDirectX 9.0以上がない場合はDirectX 9.0cもインストールする（142ページ） • 付属のCD-ROMにWindows Media Playerは収録されていませんが、パソコンにすでにインストールされているWindows Media Playerで再生することができます。	143
動画の編集	Vista／XP／2000／Me／98SE／98	ー • 必要に応じて、市販のソフトをご利用ください。	ー
画像の転送	Vista／XP／2000／Me／98SE／98	**Photo Transport 1.0**	144

■ 同梱ソフト使用時の動作環境について

使用するソフトによってパソコンに必要な動作環境が異なりますので、必ず確認してください。また、各ソフトの動作環境はアプリケーションを動作させるために必要な最低限の性能です。取り扱う画像サイズや枚数によって、これ以上の性能を必要とします。

USB driver Type B

- Windows Vista／XP／2000／Meの場合は、インストールする必要はありません。
- Windows 95／3.1からバージョンアップしたパソコンでは動作保証いたしません。

Photo Loader with HOT ALBUM 3.1

HD　　：2GB以上
その他：DirectX 9.0以上

DirectX 9.0c

HD　　：インストールに65MB（HDは18MB）

Photo Transport 1.0

メモリ：64MB以上
HD　　：約2MB以上

重要

- 各ソフトの詳しい動作環境については、付属のCD-ROM（カシオデジタルカメラアプリケーションソフトウェア）内の「お読みください」ファイルを参照して、ご確認ください。

■ 英語版のソフトを利用するときは

英語版のソフトを利用したいときは、CD-ROMから英語のソフトをインストールしてください。ただし、日本語版と英語版を2重インストールしないでください。

- 英語版のソフトをインストールするときは、CD-ROMをパソコンにセットして、日本語のMENU画面が表示されたら、“Language”の“English”をクリックします。

画像をパソコンで見る／パソコンに保存する

カメラをパソコンに接続して、画像（静止画や動画などのファイル）をパソコンで見たり、パソコンに保存することができます。

- Windowsのバージョンによっては、付属のCD-ROMからUSBドライバをインストールする必要があります。

操作の流れ

1.Windows 98SE／98の場合、USBドライバをインストールする（137ページ） Windows Vista／XP／2000／Meの場合は、手順2に進む

2.カメラとパソコンを接続する（138ページ）

3.画像ファイルを見る／保存する（139ページ）

■ USBドライバをインストールする（98SE／98の場合のみ）

USBドライバをインストールする前にカメラとパソコンを接続しない！
パソコンがカメラを認識しなくなります。
Windows 98SE／98をお使いの場合、必ず最初にUSBドライバをインストールしてください。
インストールが終わるまで、カメラとパソコンを接続しないでください。

以下の操作手順は、Windows 98の場合です。Windows 98SEの場合、表示画面などが若干異なりますが、操作の流れは同じです。

1. 付属のCD-ROM（カシオデジタルカメラアプリケーションソフトウェア）をパソコンのCD-ROMドライブにセットする

メニュー画面が表示されます。

2. “USB driver B”をクリックして選び、“インストール”をクリックする

インストールが始まります。

3. ダイアログの指示にしたがって“次へ”をクリックする

4. 完了の画面が表示されたら、"完了"をクリックする

- セットアップ完了の画面が表示されると、ご使用のOSによってはパソコンの再起動を要求されることがあります。その場合は、再起動させます。

5. インストールが終わったら、"終了"をクリックしてメニューを終了してからCD-ROMを取り出す

- 機種によってはパソコンが自動的に再起動する場合があります。そのときに、CD-ROMのメニューが表示される場合があります。"終了"をクリックしてメニューを終了してからCD-ROMを取り出してください。

■ カメラとパソコンを接続する

1. 電池残量が十分な電池をセットする

2. カメラの電源を入れる

- USB接続は、撮影モードでも再生モードでも可能です。

3. 【MENU】を押す

4. "設定"タブ→"USB"と選び、【▶】を押す

5. 【▲】【▼】で"Mass Storage"を選び、【SET】を押す

6. カメラの電源を切り、付属のUSBケーブルでカメラのUSB/AV接続端子とパソコンのUSB端子を接続する

- 付属のUSBケーブルをカメラのUSB/AV接続端子に挿入する際は、ケーブルのコネクタをカチッとクリック感があるまでカメラへ押し込んでください。完全に挿入しないと、通信不良や製品の故障の原因となります。
- 完全に挿入しても、イラストのようにコネクタの金属部が見えます。

- USBケーブルをパソコンとカメラに接続するときは、それぞれの機器のUSB端子の形状とケーブルの接続端子の形状を合わせて接続してください。

7. カメラの電源を入れる

カメラとパソコンを接続すると

USBモードになり、カメラの動作確認用ランプが緑色に点灯します。パソコンは、カメラ内のメモリーカードまたは内蔵メモリーを「リムーバブルディスク」として認識します。

カメラのUSB設定を変更しない限り、次回からは手順3から5の操作は不要です。

- パソコンのOSの環境によっては、「リムーバブルディスク」ガイダンスが表示されることがあります。この場合は、ガイダンスを閉じてください。

重要

- 「カメラをパソコンから取りはずす」(141ページ)の操作を行わずにケーブルを抜かないでください。画像データが破壊される恐れがあります。

■ 2回目以降のパソコンとの接続

次にカメラとパソコンを接続するときは、以下のようにします(USBドライバのインストールおよびメニューからの設定が不要になります)。

1. カメラの電源を切り、USBケーブルでカメラとパソコンを接続する

2. カメラの電源を入れる

- USBモードになり、カメラの動作確認用ランプが緑色に点灯します。

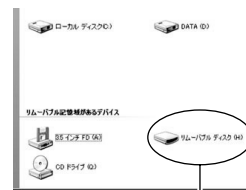
■ カメラの画像をパソコンで見る

カメラとパソコンを接続した状態で、パソコンでカメラの画像を見ることができます。

1. Windows XPの場合:
“スタート”→“マイコンピュータ”の順でクリックする
Windows Vistaの場合:
“スタート”→“コンピュータ”の順でクリックする
Windows 2000／Me／98SE／98の場合:
“マイコンピュータ”をダブルクリックする

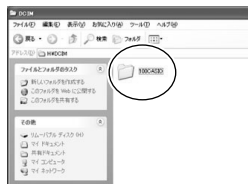
Windows XPの場合

2. “リムーバブルディスク”をダブルクリックする

- メモリーカードまたは内蔵メモリーは、「リムーバブルディスク」として認識されています。

リムーバブルディスク

3. “DCIM”フォルダをダブルクリックする

DCIM

4. 見たい画像が入ったフォルダをダブルクリックする

5. 見たい画像ファイルをダブルクリックする

画像が表示されます。

- ファイル名については「メモリー内のフォルダ構造」(153ページ)を参照ください。

参考

- カメラ内で回転表示させた画像をパソコンで見た場合は、回転させる前の画像が表示されます。

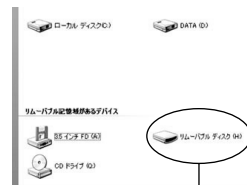
■ 画像をパソコンに保存する

パソコンで画像を加工したりアルバムを作るには、画像をパソコン内に保存する必要があります。保存は、カメラをパソコンに接続した状態で行います。

1. Windows XPの場合:
“スタート”→“マイコンピュータ”の順でクリックする
Windows Vistaの場合:
“スタート”→“コンピュータ”の順でクリックする
Windows 2000／Me／98SE／98の場合:
“マイコンピュータ”をダブルクリックする

Windows XPの場合

2. “リムーバブルディスク”をダブルクリックする

- メモリーカードまたは内蔵メモリーは、「リムーバブルディスク」として認識されています。

リムーバブルディスク

3. “DCIM”フォルダを右ボタンでクリックする

4. メニューの“コピー”をクリックする

5. Windows XPの場合:
“スタート”→“マイドキュメント”の順でクリックする
Windows Vistaの場合:
“スタート”→“ドキュメント”の順でクリックする
Windows 2000／Me／98SE／98の場合:
“マイドキュメント”をダブルクリックして開く

- すでに“DCIM”フォルダが保存されている場合は、上書きされてしまいます。すでに保存されている“DCIM”フォルダの名前を変えるなどしてからコピーしてください。

6. “マイドキュメント”メニューで、“編集”→“貼り付け”の順でクリックする

“DCIM”フォルダ(画像ファイルが保存されているフォルダ)が“マイドキュメント”フォルダにコピーされ、画像も一緒にパソコンに保存されます。

重要

- 内蔵メモリーやメモリーカード内の画像に対して、パソコンで修正・削除・移動・名前の変更などを行わないでください。画像管理データと整合性がとれず、カメラで再生できなくなったり、撮影枚数が極端に変わったりします。修正・削除・移動・名前の変更などはパソコンに保存した画像で行ってください。
- 画像を見たり保存している途中でケーブルを抜いたり、カメラの操作を行わないでください。データが破壊される恐れがあります。

■ カメラをパソコンから取りはずす

- Windows Vista/XP/98SE/98の場合:
カメラの【ON/OFF】を押して、動作確認用ランプが消灯したのを確認してから、カメラを取りはずします。
- Windows 2000/Meの場合:
パソコン画面上のタスクトレイのカードサービスを左クリックし、カメラに割り当てられているドライブ番号の停止を選択します。その後、カメラを取りはずし、カメラの電源を切ります。

パソコンに自動で画像を保存する／画像を管理する

パソコンに保存した画像を管理するには、付属のCD-ROMに収録されているPhoto Loader with HOT ALBUMをパソコンにインストールします。Photo Loader with HOT ALBUMを使用すれば、パソコンに画像を自動で取り込んで、撮影年月日で整理ができ、カレンダー形式で表示することができます。

■ Photo Loader with HOT ALBUMをインストールする

1. パソコンを起動し、付属のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブに入れる

- パソコンの設定によっては、自動的にメニュー画面が表示されない場合があります。その場合は、CD-ROMが割り当てられているドライブを開き、MENU.exeをダブルクリックしてください。

2. "Photo Loader with HOT ALBUM 3.1"をクリックして選び、"お読みください"をクリックして読む

- インストールするために必要な条件や動作環境が書かれています。

3. Photo Loader with HOT ALBUMの"インストール"をクリックする

4. 画面の指示にしたがって操作する

Photo Loader with HOT ALBUMがインストールされます。

DirectXの確認

Photo Loader with HOT ALBUMで取り込んだ画像を管理するには、パソコンにDirectX 9.0以上がインストールされている必要があります。パソコンの「DirectX 診断ツール」を見てDirectXのバージョンを確認してください。

1. パソコンのメニューで"スタート"→"すべてのプログラム"→"アクセサリ"→"システムツール"の順でたどり、"システム情報"を開く

2. メニューバーから"ツール"→"DirectX 診断ツール"の順で開く

3. "システム"タブをクリックし、"DirectX バージョン"が9.0以上であることを確認する

4. “終了”をクリックして「DirectX 診断ツール」を終了する

- DirectX 9.0以上がインストールされている場合は、付属のCD-ROMに収録されている「DirectX 9.0c」をインストールする必要はありません。
- DirectX 9.0以上がインストールされていない場合は、付属のCD-ROMに収録されている「DirectX 9.0c」をインストールしてください。

動画を再生する

動画はパソコンにすでにインストールされているWindows Media Playerで再生することができます。パソコンに動画をコピーしてから、画像ファイルをダブルクリックして再生してください。

■ 動画再生のご注意

- 必ず動画データはパソコンに保存してから再生してください。ネットワーク上やメモリーカードなどにある動画データを再生しても、正しく再生できない場合があります。
- お使いのパソコンの性能によっては、正しく動作しない場合があります。その場合は以下をお試しください。
  - 動画の画質を“標準-Normal”または“長時間-LP”に設定して撮影する。
  - 最新のWindows Media Playerにバージョンアップする。
  - 開いている他のソフトウェアを閉じたり、常駐ソフトを止める。

なお、パソコンで正しく動作しない場合でも、付属のAVケーブルを使って映像入力端子を持ったテレビやパソコンで再生することができます。

カメラに画像を転送する

パソコンに取り込んだ画像を、もう一度カメラへ戻すには、付属のCD-ROMに収録されているPhoto Transportをパソコンにインストールします。

■ Photo Transportをインストールする

1. パソコンを起動し、付属のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブに入れる

- パソコンの設定によっては、自動的にメニュー画面が表示されない場合があります。その場合は、CD-ROMが割り当てられているドライブを開き、MENU.exeをダブルクリックしてください。

2. "Photo Transport"をクリックして選び、"お読みください"をクリックして読む

- インストールするために必要な条件や動作環境が書かれています。

3. Photo Transportの"インストール"をクリックする

4. 画面の指示にしたがって操作する

Photo Transportがインストールされます。

■ 画像ファイルをカメラに転送する

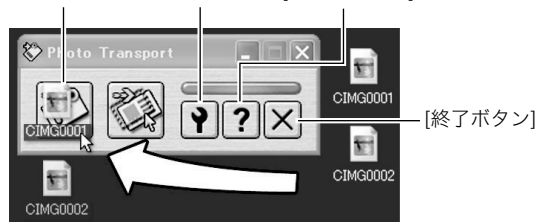
1. あらかじめカメラをパソコンに接続しておく

- パソコンとの接続方法は、138ページをご覧ください。

2. パソコンのメニューで"スタート"→"すべてのプログラム"→"Casio"→"Photo Transport"の順でクリックして、Photo Transportを開く

Photo Transportが起動します。

3. Photo Transportの[転送ボタン]に転送したい画像ファイルをドラッグアンドドロップする

ドラッグアンドドロップは次のようにします。転送したい画像ファイルに" ↖ "(矢印)を合わせ、マウスの左ボタンを押したままにします。そのままPhoto Transportの[転送ボタン]に画像データを引きずり、マウスの左ボタンを離します。

4. 画面の指示にしたがって操作する

画像ファイルがカメラに転送されます。

- 画面の指示や転送される画像の詳細はPhoto Transportの設定によって異なります。詳しくは[設定ボタン]や[ヘルプボタン]を押して設定内容を確認してください。

重要

- 動画は転送できません。
- 転送できる画像は下記の拡張子の画像データです。
  .jpg、.jpeg、.jpe、.bmp(.bmpはJPEG画像に変換されて転送されます。)

■ パソコンの画面をカメラに転送する

パソコンに表示されている画面を取り込んで、画像ファイルとしてカメラへ送ることができます。

1. あらかじめカメラをパソコンに接続しておく

- パソコンとの接続方法は、138ページをご覧ください。

2. パソコンのメニューで"スタート"→"すべてのプログラム"→"Casio"→"Photo Transport"の順でクリックして、Photo Transportを開く

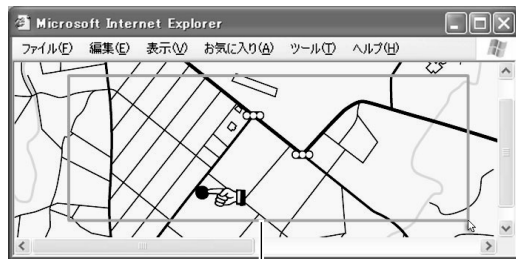
Photo Transportが起動します。

3. 転送したい画面を表示する

4. Photo Transportの[キャプチャーボタン]をクリックする

[キャプチャーボタン]

5. 転送したい範囲を囲む

転送したい部分の左上に"(矢印)を移動してマウスの左ボタンを押したままにし、そのままマウスを右下へずらすことで転送したい範囲を囲みます。

転送される範囲

6. 画面の指示にしたがって操作する

囲んだ範囲の画像がカメラに転送されます。

- 画面の指示や転送される画像の詳細はPhoto Transportの設定によって異なります。詳しくは[設定ボタン]や[ヘルプボタン]を押して設定内容を確認してください。

重要

- キャプチャーした画像はJPEG画像に変換されて転送されます。

■ 設定／ヘルプについて

設定内容の変更は[設定ボタン]をクリックして変更します。設定内容、操作方法やトラブルシューティングについては、Photo Transportの[ヘルプボタン]をクリックしてヘルプをご覧ください。

ユーザー登録をする

パソコンからインターネットを通してのみ、ユーザー登録をすることができます。ユーザー登録をするには、パソコンがインターネットに接続されていることが必要です。

「カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイト」へのユーザー登録となります。ユーザー登録で登録いただいた個人情報のお取り扱いに関しては、Webサイト上の「ご利用になる前に」に記載されていますので、ご確認ください。ユーザー登録はデジタルカメラ本体や付属ソフトのバージョンアップのご連絡その他情報発信を目的としています。付属ソフトウェアについては、ユーザー登録をしなくてもインストールや使用は可能です。

1. パソコンを起動し、付属のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブに入れる

- パソコンの設定によっては、自動的にメニュー画面が表示されない場合があります。その場合は、CD-ROMが割り当てられているドライブを開き、MENU.exeをダブルクリックしてください。

2. “オンラインユーザ登録”をクリックする

Webブラウザソフトが起動し、ユーザー登録が可能になります。

3. 画面の指示にしたがってユーザー登録を行う

4. ユーザー登録が終了したら、インターネットの接続を終了する

- 下記のアドレスからもユーザー登録ができます。
  http://www.casio.jp/reg/dc/

CD-ROMのメニューを終了する

CD-ROMのメニューを終了するには、“終了”をクリックします。

Macintoshを利用する

Macintosh OSのバージョンおよび使用目的に応じて、必要なソフトをインストールしてください。

<table>
<tr><th>使用目的</th><th>OSのバージョン</th><th>インストールするソフト</th><th>参照ページ</th></tr>
<tr><td>• パソコンで画像を見る
• パソコンに画像を保存</td><td>OS 9／OS X</td><td>• USBドライバは不要です。</td><td>148</td></tr>
<tr><td rowspan="2">パソコンに自動で画像を保存／画像の管理</td><td>OS 9</td><td>• 市販のソフトをご利用ください。</td><td>150</td></tr>
<tr><td>OS X</td><td>• OSにバンドルされているiPhotoが利用できます。</td><td>－</td></tr>
<tr><td rowspan="2">動画の再生</td><td>OS 9</td><td>• 市販のソフトをご利用ください。</td><td rowspan="2">151</td></tr>
<tr><td>OS X</td><td>• OSにバンドルされているQuickTimeで再生できます。</td></tr>
</table>

画像をパソコンで見る／パソコンに保存する

カメラをパソコンに接続し、画像（静止画や動画などのファイル）をパソコンで見たり、パソコンに保存することができます。

重要

- Mac OS 8.6以前、またはMac OS Xの10.0ではご使用できません。Mac OS 9、X（10.1、10.2、10.3、10.4）のみで使用できます（OS標準のUSBドライバを使用）。

■ カメラとMacintoshを接続する

1. 電池残量が十分な電池をセットする

2. カメラの電源を入れる

- USB接続は、撮影モードでも再生モードでも可能です。

3. 【MENU】を押す

4. "設定"タブ→"USB"と選び、【▶】を押す

5. 【▲】【▼】で"Mass Storage"を選び、【SET】を押す

6. カメラの電源を切り、付属のUSBケーブルでカメラのUSB/AV接続端子とパソコンのUSB端子を接続する

- 付属のUSBケーブルをカメラのUSB/AV接続端子に挿入する際は、ケーブルのコネクタをカチッとクリック感があるまでカメラへ押し込んでください。完全に挿入しないと、通信不良や製品の故障の原因となります。
- 完全に挿入しても、イラストのようにコネクタの金属部が見えます。
- USBケーブルをパソコンとカメラに接続するときは、それぞれの機器のUSB端子の形状とケーブルの接続端子の形状を合わせて接続してください。

7. カメラの電源を入れる

カメラとパソコンを接続すると

USBモードになり、カメラの動作確認用ランプが緑色に点灯します。パソコンは、カメラ内のメモリーカードまたは内蔵メモリーを「ドライブ」として認識します。

Mac OSのバージョンにより、表示されるアイコンが異なる場合があります。

カメラのUSB設定を変更しない限り、次回からは手順3から5の操作は不要です。

重要

- 「カメラをパソコンから取りはずす」(150ページ)の操作を行わずにケーブルを抜いたりしないでください。画像のデータが破壊される恐れがあります。

■ 2回目以降のパソコンとの接続

次にカメラとパソコンを接続するときは、以下のようにします(メニューからの設定が不要になります)。

1. カメラの電源を切り、USBケーブルでカメラとパソコンを接続する

2. カメラの電源を入れる

- USBモードになり、カメラの動作確認用ランプが緑色に点灯します。

■ カメラの画像をパソコンで見る

カメラとパソコンを接続した状態で、パソコンでカメラの画像を見ることができます。

1. 表示されたドライブをダブルクリックする

2. 「DCIM」フォルダをダブルクリックする

3. 見たい画像の入ったフォルダをダブルクリックする

4. 見たい画像ファイルをダブルクリックする

画像が表示されます。

重要

- パソコンのモニターに同一の画像を表示したまま放置しないでください。残像現象(画面焼け)の原因になります。

参考

- カメラ内で回転表示させた画像をパソコンで見た場合は、回転させる前の画像が表示されます。

■ 画像をパソコンに保存する

パソコンで画像を加工したりアルバムを作るには、画像をパソコン内に保存する必要があります。保存は、カメラをパソコンに接続した状態で行います。

1. 表示されたドライブをダブルクリックする

2. 「DCIM」フォルダを保存したいフォルダにドラッグアンドドロップする

「DCIM」フォルダがMacintosh内のフォルダにコピーされます。

- ドラッグアンドドロップとは、マウスのポインタ（矢印）が画像ファイルのアイコン上に重なった状態でマウスのボタンを押し、そのままマウスを移動（ドラッグ）させて、別の場所でマウスのボタンを離す（ドロップ）操作のことをいいます。

重要

- 内蔵メモリーやメモリーカード内の画像に対して、パソコンで修正・削除・移動・名前の変更などを行わないでください。画像管理データと整合性がとれず、カメラで再生できなくなったり、撮影枚数が極端に変わったりします。修正・削除・移動・名前の変更などはパソコンにコピーした画像で行ってください。
- 画面を見たり保存している途中でケーブルを抜いたり、カメラの操作を行わないでください。データが破壊される恐れがあります。

■ カメラをパソコンから取りはずす

1. 画面上のカメラのドライブをゴミ箱へドラッグアンドドロップする

2. カメラの【ON/OFF】を押し、動作確認用ランプが消灯しているのを確認してから、カメラをUSBケーブルから取りはずす

パソコンに自動で画像を保存する／画像を管理する

Mac OS Xをお使いの場合は、OSにバンドルされているiPhotoを使って静止画像の管理ができます。
Mac OS 9をお使いの場合は、市販のソフトをご利用ください。

動画を再生する

動画はMacintoshにすでにインストールされているQuickTimeで再生することができます。Macintoshに動画をコピーしてから、画像ファイルをダブルクリックして再生してください。

■ 動画再生時のご注意

お使いのMacintoshの性能によっては、正しく動作しない場合があります。その場合は、以下をお試しください。

- 動画の画質を“標準−Normal”または“長時間−LP”にして撮影する
- 最新のQuickTimeにバージョンアップする
- 実行中の他のソフトウェアを終了する

なお、Macintoshで正しく動作しない場合でも、付属のAVケーブルを使って映像入力端子を持ったテレビやMacintoshで再生することができます。

重要

- 必ず動画データはパソコンに保存してから再生してください。ネットワーク上やメモリーカードなどにある動画データを再生しても、正しく再生できない場合があります。

ユーザー登録をする

パソコンからインターネットを通してのみ、ユーザー登録をすることができます。「カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイト」で登録を行ってください。

ユーザー登録アドレス　http://www.casio.jp/reg/dc/

ユーザー登録で登録いただいた個人情報のお取り扱いに関しては、Webサイト上の「ご利用になる前に」に記載されていますので、ご確認ください。ユーザー登録はデジタルカメラ本体のご連絡その他情報発信を目的としています。

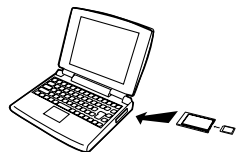
メモリーカードを直接パソコンに接続して画像を保存する

パソコンの機種によって接続方法が異なります。代表的な接続方法は次の通りです。接続後はカメラ接続時と同様の操作で画像の保存ができます。

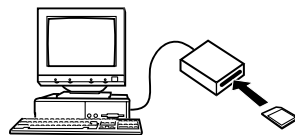
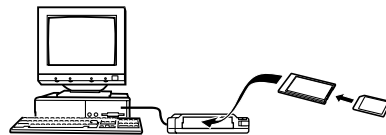
■ メモリーカードスロットのある機種

ご使用のメモリーカードに対応しているかご確認のうえ、メモリーカードを直接差し込みます。

■ PCカードスロットのある機種

ご使用のメモリーカードに対応した市販のPCカードアダプターを使用します。具体的な使用方法は、PCカードアダプターとパソコンに付属の取扱説明書を参照ください。

■ 前記以外の機種

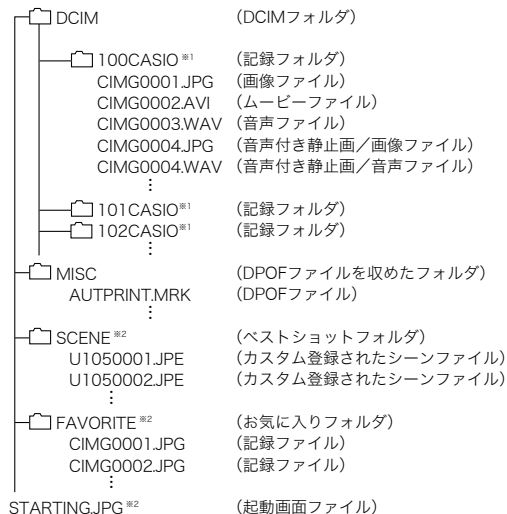
以下のどちらかの方法で接続します。

– ご使用のメモリーカードに対応した市販のメモリーカード用リーダー／ライターを使用します。具体的な使用方法は、メモリーカード用リーダー／ライターに付属の取扱説明書を参照ください。

– 市販のPCカード用リーダー／ライターとご使用のメモリーカードに対応した市販のPCカードアダプターを使用します。具体的な使用方法は、PCカード用リーダー／ライターとPCカードアダプターに付属の取扱説明書を参照ください。

メモリー内のデータについて

本機で撮影された画像やその他のデータは、DCF(Design rule for Camera File system)規格に準拠した方法でメモリーへ保存されます。

■ DCF規格について

DCF規格対応の機器(デジタルカメラやプリンターなど)の間で画像の互換性があります。画像ファイルのデータ形式やメモリー内のフォルダ構造に規定がありますので、本機で撮影した画像をDCF規格対応の他社のカメラで見たり、この規格対応の他社のプリンターで印刷したりすることができます。逆にDCF規格対応の他社のデジタルカメラの画像も本機で見ることができます。

■ メモリー内のフォルダ構造

※1 本機のベストショットモードにはオークションサイトへの出展品を撮影する“オークション”のシーンを収録しています。このシーンで撮影した場合、記録フォルダ名は「100_AUCT」となります。
※2 内蔵メモリー内にのみ作成されるフォルダです。

フォルダ／ファイルの内容

- DCIMフォルダ:
  カメラで扱うファイルすべてを収めたフォルダです。
- 記録フォルダ:
  カメラで記録したファイルを収めたフォルダです。
- 画像ファイル:
  カメラで撮影した画像ファイルです。拡張子は「JPG」です。
- ムービーファイル:
  カメラで撮影したムービーファイルです。拡張子は「AVI」です。
- 音声ファイル:
  カメラで記録した音声ファイルです。拡張子は「WAV」です。
- 音声付き静止画／画像ファイル:
  音声付き静止画の画像を記録したファイルです。拡張子は「JPG」です。
- 音声付き静止画／音声ファイル:
  音声付き静止画の音声を記録したファイルです。拡張子は「WAV」です。
- DPOFファイルを収めたフォルダ:
  DPOFファイルなどを収めたフォルダです。
- ベストショットフォルダ:
  カスタム登録されたシーンファイルを収めたフォルダです。
- カスタム登録されたシーンファイル:
  ベストショットモードで使用されるファイルです。
- お気に入りフォルダ:
  お気に入りの画像ファイルを収めたフォルダです。320×240 pixelsの画像として収められています。
- 起動画面ファイル:
  起動画面を記録したファイルです。起動画面を設定した場合に作成されます。

■ このカメラで扱える画像ファイル

- 本機で撮影した画像ファイル
- DCF規格に対応している画像ファイル

DCF規格の画像ファイルでも、使用できない機能がある場合があります。また、本機以外で撮影された画像の場合、再生にかかる時間が長くなる場合があります。

■ パソコン上で内蔵メモリー／メモリーカードを扱うときのご注意

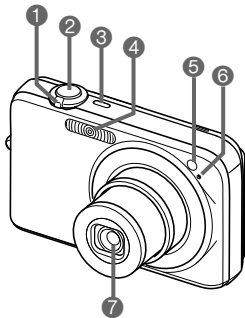
- メモリーの内容をパソコンのハードディスクやCD-R、MOディスクなどに保存する際は“DCIM”フォルダごと保存してください。その際“DCIM”フォルダの名前を年月日などに変えておくと、あとで整理するときに便利です。ただし、パソコンのハードディスクなどに保存したファイルを再度メモリーに戻して本機で再生する場合は、フォルダ名をパソコン上で“DCIM”に戻してからご使用ください。本機では“DCIM”以外の名前のフォルダは認識されません。“DCIM”フォルダ内の他のフォルダ名を変えた場合も同様です。元の名前に戻してから使用してください。
- フォルダやファイルをカメラで正しく認識させるためには、メモリー内のフォルダ構造が153ページのフォルダ構造の通りである必要があります。

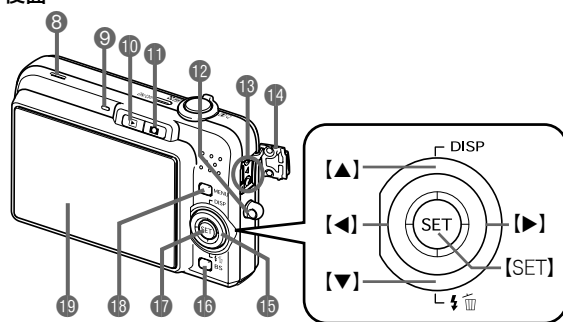
付録

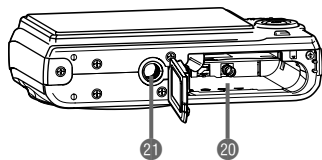
各部の名称

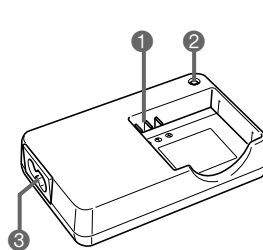
各部の説明が記載されている主なページを(　　)内に示します。

■ カメラ本体

前面

❶ ズームレバー
(45, 94, 95ページ)
❷ シャッター(40ページ)
❸【ON/OFF】(電源)
(27ページ)
❹ フラッシュ(47ページ)
❺ AF補助光／
セルフタイマーランプ
(39, 52, 162ページ)
❻ マイク(55, 57ページ)
❼ レンズ

後面

❽ スピーカー(89ページ)
❾ 動作確認用ランプ
(27, 40, 162ページ)
❿【▶】(再生)ボタン
(27, 125ページ)
⓫【📷】(撮影)ボタン
(27, 125ページ)
⓬ ストラップ取り付け部
(2ページ)
⓭ USB/AV接続端子
(92ページ)
⓮ 端子カバー
⓯ コントロールボタン
(【▲】【▼】【◀】【▶】)
⓰【BS】ボタン(58ページ)
⓱【SET】ボタン
⓲【MENU】ボタン
(34ページ)
⓳ 液晶モニター
(35ページ)

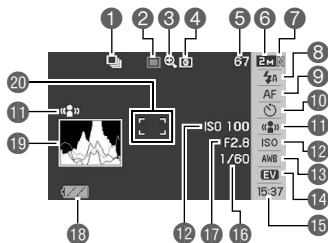
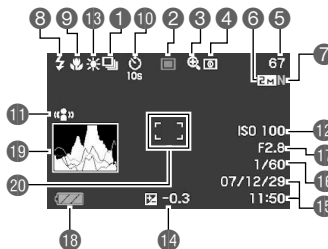
底面

⑳ 電池／メモリーカード挿入部(24, 31ページ)
㉑ 三脚穴
三脚に取り付けるときに使用します。

■ 充電器

❶ ⊕ 、⊖ 接点
❷【CHARGE】ランプ
❸ ACジャック

液晶モニターの表示内容

液晶モニターには、さまざまな情報が、アイコンや数字などで表示されます
- 下の画面は、情報が表示される位置を示すためのものです。液晶モニターが実際にこの画面のようになることはありません。

■ 静止画撮影モード時

操作パネル：入

操作パネル：切

❶ 連写モード（52ページ）
❷ 撮影の種類
❸ デジタルズーム表示（46ページ）
❹ 測光方式（79ページ）
❺ 静止画撮影可能枚数（173ページ）
❻ 静止画の画像サイズ（42ページ）
❼ 静止画の画質（43ページ）
❽ フラッシュモード（47ページ）
❾ フォーカス方式（69ページ）
❿ セルフタイマーモード（51ページ）
⓫ ブレ軽減（61ページ）
⓬ ISO感度（78ページ）
⓭ ホワイトバランス設定（77ページ）
⓮ 露出補正（75ページ）
⓯ 日付／時刻（122ページ）
⓰ シャッター速度（40ページ）
⓱ 絞り値（40ページ）
⓲ 電池残量（25ページ）
⓳ ヒストグラム（83ページ）
⓴ フォーカスフレーム（40, 72ページ）

重要

- 絞り値、シャッター速度、ISO感度は、AE（自動露出）が適正でない場合、シャッターを半押ししたとき、オレンジ色で表示されます。

■ 動画撮影モード時

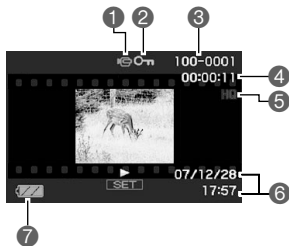
操作パネル：入

操作パネル：切

❶ 撮影の種類
❷ 動画の残り撮影時間（57ページ）
❸ 動画の画質（56ページ）
❹ フォーカス方式（69ページ）
❺ ホワイトバランス設定（77ページ）
❻ 露出補正（75ページ）
❼ 電池残量（25ページ）
❽ ヒストグラム（83ページ）

■ 静止画再生モード時

❶ ファイル形態（88ページ）
❷ プロテクト表示（114ページ）
❸ フォルダ名／ファイル名（113ページ）
❹ 静止画の画質（43ページ）
❺ 静止画の画像サイズ（42ページ）
❻ ISO感度（78ページ）
❼ 絞り値（40ページ）
❽ シャッター速度（40ページ）
❾ 日付／時刻（122ページ）
❿ 測光方式（79ページ）
⓫ ホワイトバランス設定（77ページ）
⓬ フラッシュモード（47ページ）
⓭ 撮影の種類
⓮ 電池残量表示（25ページ）
⓯ ヒストグラム（83ページ）
⓰ 露出補正（75ページ）

■ 動画再生モード時

❶ ファイル形態(89ページ)
❷ プロテクト表示(114ページ)
❸ フォルダ名／ファイル名(113ページ)
❹ 動画の撮影時間(89ページ)
❺ 動画の画質(56ページ)
❻ 日付／時刻(122ページ)
❼ 電池残量表示(25ページ)

メニュー一覧表

【MENU】を押したときに表示されるメニューの一覧表です。撮影モード、再生モードでそれぞれ項目が異なります。

- 「*」この印のある項目は初期値です。

撮影モード

■ "撮影設定"タブ

フォーカス方式	AF(オートフォーカス)*／ マクロ／ PF(パンフォーカス)／ ∞(無限遠)／ MF(マニュアルフォーカス)
連写	通常連写／高速連写／フラッシュ連写／ズーム連写／切*
セルフタイマー	10秒／2秒／×3／切*
ブレ軽減	オート／切*
AFエリア	スポット*／ マルチ／ 追尾
AF補助光	入*／切
左右キー設定	測光方式／EVシフト／ホワイトバランス／ISO感度／セルフタイマー／切*
クイックシャッター	入*／切
音声付静止画	入／切*
グリッド表示	入／切*

デジタルズーム	入*／切
撮影レビュー	入*／切
アイコンガイド	入*／切
モードメモリ	BS ベストショット：入／切* フラッシュ：入*／切 フォーカス方式：入／切* ホワイトバランス：入／切* ISO感度：入／切* AFエリア：入*／切 測光方式：入／切* セルフタイマー：入／切* フラッシュ光量：入／切* デジタルズーム：入*／切 MF位置：入／切* ズーム位置：入／切*

■ "画質設定"タブ

サイズ	10M(3648×2736)*／ 3:2(3648×2432)／ 16:9(3648×2048)／ 5M(2560×1920)／3M(2048×1536)／ 2M(1600×1200)／VGA(640×480)
画質(静止画)	高精細-F／標準-N*／エコノミー-E
画質(動画)	HQ*／Normal／LP
EV シフト	−2.0／−1.7／−1.3／−1.0／−0.7／ −0.3／0.0*／+0.3／+0.7／+1.0／ +1.3／+1.7／+2.0
ホワイトバランス	オート*／太陽光／曇天／ 日陰／N昼白色／D昼光色／ 電球／マニュアル
ISO感度	オート*／ISO 80／ISO 100／ISO 200／ ISO 400／ISO 800
測光方式	マルチ*／中央重点／スポット
ダイナミックレンジ	拡大+2／拡大+1／切*
美肌処理	ノイズ消去+2／ノイズ消去+1／切*
カラーフィルター	切*／白黒／セピア／赤／緑／青／黄／ ピンク／紫
シャープネス	+2／+1／0*／−1／−2
彩度	+2／+1／0*／−1／−2
コントラスト	+2／+1／0*／−1／−2
フラッシュ光量	+2／+1／0*／−1／−2
フラッシュアシスト	オート*／切

■ "設定"タブ

操作パネル	入*／切
表示	ワイド*／4:3

液晶設定	オート2*／オート1／+2／+1／切
操作音	起動音*／ハーフシャッター／シャッター／操作音／操作音／再生音
起動画面	入(画像選択)／切*
ファイルNo.	メモリする*／メモリしない
ワールドタイム	自宅*／訪問先
	ホームタイムの詳細設定 (都市名、サマータイムなど)
	ワールドタイムの詳細設定 (都市名、サマータイムなど)
タイムスタンプ	日付／日付+時刻／切*
日時設定	日付と時刻の設定
表示スタイル	年/月/日／日/月/年／月/日/年
Language	画面のメッセージ言語の変更
スリープ	30秒／1分*／2分／切
オートパワーオフ	1分*／2分／5分
REC／PLAY	パワーオン*／パワーオン/オフ／切
USB	Mass Storage(USB DIRECT-PRINT)*／PTP(PictBridge)
ビデオ出力	NTSC 4:3*／NTSC 16:9／PAL 4:3／PAL 16:9
フォーマット	フォーマット／キャンセル*
リセット	リセット／キャンセル*

再生モード

■ “再生機能”タブ

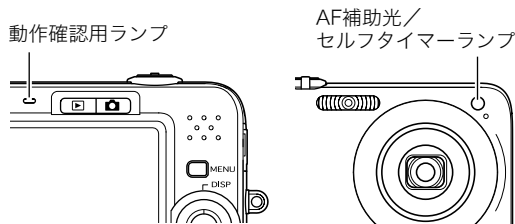
スライドショー	開始*／表示画像／時間／間隔／エフェクト／キャンセル
カレンダー表示	—
レイアウトプリント	—
モーションプリント	9コマで作成*／1コマで作成／キャンセル
ムービーカット	(前)カット／ (中)カット／ (後)カット／キャンセル*
ダイナミックレンジ	拡大+2／拡大+1／切*
ホワイトバランス	太陽光／曇天／日陰／N昼白色／D昼光色／電球／キャンセル
明るさ編集	+2／+1／0*／−1／−2
アングル補正	—
退色補正	—
お気に入り	表示*／登録／キャンセル

プリント設定(DPOF)	選択画像*／全画像／キャンセル
プロテクト	オン*／全ファイル オン／キャンセル
日時編集	ー
回転表示	回転*／キャンセル
リサイズ	5M(2560×1920)*／3M(2048×1536)／VGA(640×480)／キャンセル
トリミング	ー
アフレコ	ー
コピー	内蔵→カード*／カード→内蔵／キャンセル

■ “設定”タブ

- 再生モードの“設定”タブの内容は、撮影モードの“設定”タブと同じです。

ランプの状態と表示内容

カメラ本体には動作確認用ランプとAF補助光／セルフタイマーランプの2つのランプがあります。これらのランプは、カメラの動作内容によって、点灯したり点滅したりします。

撮影モード時

動作確認用ランプ		内容
色	状態	
緑	点灯	起動中（電源オン時、撮影可）／オートフォーカス合焦／LCDオフ／スリープ中
	点滅	ムービー取り込み中／画像処理中／撮影記録中／オートフォーカス合焦不可／フォーマット中／終了中（電源オフ時）
赤	点灯	メモリーカードロック／フォルダ作成不可／メモリーフル／書き込みエラー
	点滅	メモリーカード異常／メモリーカード未フォーマット／カスタム登録不可／電池交換警告
オレンジ	点滅	フラッシュ充電中

AF補助光／セルフタイマーランプ		内容
色	状態	
赤	点滅	セルフタイマーカウントダウン

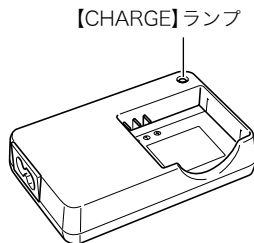
重要

- 動作確認用ランプが緑色に点滅中にメモリーカードを取り出すことは絶対におやめください。撮影された画像がメモリーカードに記録されずに消えてしまいます。

再生モード時

動作確認用ランプ		内容
色	状態	
緑	点灯	起動中（電源オン時、撮影可）
	点滅	消去実行中／DPOF実行中／プロテクト実行中／コピー実行中／フォーマット中／リサイズ処理中／トリミング処理中／アフレコ処理中／アングル補正中／退色補正中／モーションプリント処理中／レイアウトプリント処理中／ムービーカット処理中／終了中（電源オフ時）
赤	点灯	メモリーカードロック／フォルダ作成不可／メモリーフル／書き込みエラー
	点滅	メモリーカード異常／メモリーカード未フォーマット／電池交換警告

充電器のランプ

充電器には【CHARGE】ランプがあり、充電器の動作内容によって、点灯したり、点滅したりします。

【CHARGE】ランプ	内容
赤点灯	充電中
赤点滅	充電器または電池の異常
消灯	充電完了または充電待機中(周辺温度が高い、または低いため)

故障かな？と思ったら

現象と対処方法

現象	考えられる原因と対処
電源について	
電源が入らない。	1) 電池が正しい向きに入っていない(24ページ)。 2) 電池が消耗している可能性があります。電池を充電してください(23ページ)。それでもすぐに電池が消耗するときは電池の寿命です。別売の当社のリチウムイオン充電池(NP-40)をお買い求めください。
電源が勝手に切れた。	1) オートパワーオフが働いた可能性があります(29ページ)。再度電源を入れ直してください。 2) 電池が消耗している可能性があります。電池を充電してください(23ページ)。
電源が切れない。ボタンを押しても、カメラが作動しない。	カメラから電池をいったん取り出し、再度入れ直してください。
撮影について	
シャッターを押しても撮影できない。	1) 再生モードになっている場合は、【】(撮影)を押して撮影モードにしてください。 2) フラッシュの充電中は、フラッシュの充電が終わるまで待ってください。 3) “メモリがいっぱいです”と表示されている場合は、パソコンに画像を転送後、不要な画像を消去するか、別のメモリーカードをセットしてください。
オートフォーカスなのにピントが合わない。	1) レンズが汚れている場合は、レンズの汚れを取ってください。 2) 被写体がフォーカスフレームの中央にありません。 3) ピントの合いにくい被写体の可能性があります(44ページ)。マニュアルフォーカスモードに切り替えて手動でピントを合わせてください(74ページ)。 4) 手ぶれしている可能性がありますので、ブレ軽減の撮影状態に設定してください(61ページ)。または、三脚を使用してください。 5) シャッターを半押しせず、クイックシャッターで撮影した場合にピントが合わない場合があります。シャッターの半押しを確実に行ってピントを合わせてください。
撮影した画像の被写体がボケている。	ピントが合っていない可能性があります。ピントを合わせたい被写体にフォーカスフレームを合わせて撮影してください。

現象	考えられる原因と対処
フラッシュが発光しない。	1) フラッシュの発光方法が“ ”(発光禁止)になっている場合は、発光方法を他の方法に切り替えてください(47ページ)。 2) 電池が消耗している場合は、電池を充電してください(23ページ)。 3) ベストショットモードでフラッシュが“ ”(発光禁止)のシーンを選んでいる場合は、必要に応じてフラッシュの発光方法を切り替えるか(47ページ)、撮影したいシーンを選び直して(58ページ)ください。
セルフタイマーでの撮影の途中で電源が切れた。	電池が消耗している可能性があります。電池を充電してください(23ページ)。
液晶モニターに表示される画像のピントがあまい。	1) マニュアルフォーカスモードでピント合わせがずれています。ピントを正しく合わせてください(74ページ)。 2) 被写体が風景や人物なのに“ ”(マクロモード)になっています。風景や人物を撮影する場合は、オートフォーカスモードにしてください (70ページ)。 3) 接写しているのに、オートフォーカスモードや“ ”(無限遠モード)になっています。接写撮影をする場合は“ ”(マクロモード)にしてください(71ページ)。
液晶モニターに表示される画面に縦線が入る。	極端に明るい被写体を撮影すると、液晶モニター上の画像に、縦に尾を引いたような光の帯が表示される場合があります(スミア現象)。これはCCD特有の現象で、故障ではありません。なお、この帯は静止画には記録されませんが、動画にはそのまま記録されますので、ご注意ください。
画像にノイズが入る。	1) 被写体が暗いとカメラの感度が自動的に上がるため、ノイズが発生する場合があります。ライトなどを使用して明るくして撮影してください。 2) 暗い場所でフラッシュを“ ”(発光禁止)にして撮影すると、ノイズが発生し、多少ざらついた感じになることがあります。その場合は、フラッシュの発光方法を切り替えるか(47ページ)、ライトなどを使用して明るくして撮影してください。 3) 静止画撮影でフラッシュアシスト機能、またはダイナミックレンジ機能を使うと、ノイズが増えることがあります。ライトなどを使用して明るくして撮影してください。
撮影したのに画像が保存されていない。	1) 記録が終了する前に電池切れになった場合、画像は保存されません。電池残量表示が になったら、速やかに電池を充電してください(23ページ)。 2) 記録が終了する前にメモリーカードを抜いた場合、画像は保存されません。記録が終了する前にメモリーカードを抜かないでください。
風景が明るいのに人物の顔が暗くなってしまった。	人物が光量不足です。フラッシュを“ ”(強制発光)にしてください(日中シンクロ撮影)(47ページ)。または、EVシフトを＋側に調整してください(75ページ)。

現象	考えられる原因と対処
海岸やスキー場で撮影すると被写体が暗くなる。	海岸や雪面からの強い光の反射に露出が合っているため、露出不足になっています。フラッシュを“ ”（強制発光）にしてください（日中シンクロ撮影）（47ページ）。または、EVシフトを＋側に調整してください（75ページ）。
デジタルズーム（HDズーム含む）が効かない。ズームバーが3.0倍までしか表示されない。	1) デジタルズームの設定が“切”になっている可能性があります。設定を“入”にしてください（47ページ）。 2) タイムスタンプを使用していると、デジタルズームが使用できません。タイムスタンプの設定を“切”にしてください（82ページ）。
動画撮影中に画像がぼける。	1) 撮影範囲外のためピントが合っていません。撮影範囲内で撮影してください。 2) ピントの合いにくい被写体を撮影している可能性があります（44ページ）。 3) レンズが汚れている可能性があります。清掃してください（21ページ）。
再生について	
再生した画像の色が撮影時に液晶モニターで見た色と違う。	太陽光など光源からの直接光がレンズに当たっている可能性があります。直接光がレンズに当たらないようにしてください。
画像が表示されない。	DCF規格に準拠していない他のデジタルカメラで撮影したメモリーカードを使用した場合は、ファイル管理形式が異なるため再生できません。
画像編集（レイアウトプリント、リサイズ、トリミング、アングル補正、退色補正、日時編集、回転）ができない。	次の画像は編集できません。 • モーションプリント機能で作成した画像 • 動画 • 他のカメラで撮影した画像

現象	考えられる原因と対処
その他	
画面に表示される日時が合っていない。	日時の設定が間違っているので、日時を設定し直してください(122ページ)。
画面に表示される言葉が外国語になっている。	表示言語の設定が間違っているので、表示言語を設定し直してください(124ページ)。
パソコンにUSB接続しても画像が取り込めない。	1) USBケーブルが確実に接続されていない可能性があります。コネクター端子部を確認して、確実に接続してください。 2) USBドライバがインストールされていない可能性があります。USBドライバをインストールしてください(137ページ)。 3) USBドライバが間違ってインストールされてしまった可能性があります。USBドライバを正しくインストールし直してください(137ページ)。 4) USB通信の方法が正しく設定されていない可能性があります。USB通信の方法を接続する機器に合わせて正しく設定してください(125ページ)。 5) カメラの電源が入っていない場合は、電源を入れてください。
カメラの電源を入れると、言語設定画面が表示される。	1) ご購入直後の初期設定をしていないか、電池が消耗した状態でカメラを放置しています。各設定を確実に行ってください(10、123ページ)。 2) カメラ内部のメモリー管理エリアが壊れている恐れがあります。この場合は、リセット操作によりカメラの設定内容を初期値に戻してください(87ページ)。その後、各設定を確実に行ってください。再度カメラの電源を入れたときに言語設定画面が表示されなければ、カメラ内部のメモリー管理エリアが修復されました。 再度電源を入れても言語設定画面が表示される場合は、カシオテクノ修理相談窓口またはお買い上げの販売店にお問い合わせください(186ページ)。

USBドライバを正しくインストールできない場合は

Windows 98SE／98でUSBドライバをインストールしようとしたが、正しくインストールできない場合は、次のような原因が考えられます。

■ 考えられる原因

1) Windows 98SE／98を使用しているパソコンで、付属のCD-ROM（カシオデジタルカメラアプリケーションソフトウェア）からUSBドライバをインストールする前にカメラを接続したことなどにより、別のドライバをインストールしてしまった。
2) 他の原因で正しくUSBドライバがインストールできなかった。

■ 対処方法

パソコンとデジタルカメラをUSB接続して、「マイコンピュータ」を開いても「リムーバブルディスク」が表示されない場合は、以下の手順で「不明なデバイス」を削除してから再インストールしてください。

① パソコンとカメラを接続する
② カメラの電源を入れる
③ スタートメニューから「設定」→「コントロールパネル」→「システム」→「デバイスマネージャ」タブを選択し、「種類別に表示」を選択して一覧から「不明なデバイス」を探し削除する
④ 「不明なデバイス」を削除したらカメラの電源を切り、USBケーブルを抜く
⑤ パソコンを再起動し、137ページの操作にしたがって付属のCD-ROM（カシオデジタルカメラアプリケーションソフトウェア）からUSBドライバを再インストールする

重要

- 詳しい情報につきましては、付属のCD-ROM（カシオデジタルカメラアプリケーションソフトウェア）に収録されている「USB driver Type B」の「お読みください」をお読みいただくか、カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイト（http://dc.casio.jp/）をご覧ください。

画面に表示されるメッセージ

圧縮に失敗しました	画像データ記録中に圧縮不可能状態のときに表示されます。撮影し直してください。
インクを補充してください	プリント時に、プリンターのインクが減っている、またはインクが切れている場合に表示されます。
お気に入りのファイルがありません	お気に入りフォルダにファイルが登録されていないときに表示されます。
カードが異常です	メモリーカードに異常が発生したときに表示されます。電源を切って、メモリーカードを差し直してください。再度電源を入れても同じメッセージが表示されるときは、フォーマットしてください(32ページ)。 **重要** • フォーマットを行うとメモリーカード内のすべての内容(ファイル)が消えてしまいます。フォーマットを行う前にパソコン等を利用して、メモリーカード内の正常なファイルを保存してください。
カードがフォーマットされていません	メモリーカードがフォーマットされていないときに表示されます。メモリーカードをフォーマットしてください(32ページ)。
カードがロックされています	SDメモリーカードまたはSDHCメモリーカードに付いているLOCKスイッチがロックされている状態です。この状態では、記録、消去などファイルを操作することができません。
この機能は使用できません	カメラにメモリーカードを入れない状態で、内蔵メモリーからメモリーカードへファイルをコピーしようとしたときに表示されます(116ページ)。
この画面は補正できませんでした	補正が実行できなかった場合に表示されます。補正せずに画像が保存されます(63ページ)。
このファイルではこの機能は使用できません	各種機能が実行できなかった場合に表示されます。
このファイルは再生できません	ファイルが壊れているか、本機で表示できないファイルを表示しようとしています。
これ以上登録できません	ベストショットモードで「SCENE」フォルダの中にファイルが999シーンある状態でカスタム登録しようとした場合に表示されます。または、9999のお気に入りのファイルがすでにある状態で、さらにお気に入りのファイルを登録しようとした場合に表示されます(60、115ページ)。

設定したファイルが見つかりません	スライドショーの“表示画面”で設定した画像が見つからないときに表示されます。もう一度設定し直してください(90ページ)。
接続エラー	• プリンター接続時に、カメラのUSB設定がプリンターのUSB接続方式と合っていない場合に表示されます(128ページ)。 • パソコン接続時に、USBドライバがインストールされていない場合に表示されます(137ページ)。
電池容量が無くなりました	電池がなくなったときに表示されます。
電池容量が無くなりました ファイルが保存されませんでした	電池がなくなったため、撮影した画像ファイルが保存されませんでした。
登録可能な画像がありません	ベストショットモードで登録できる画像がないときに表示されます。
ファイルがありません	まだ何も記録していない状態、または記録内容をすべて消去して本機にファイルが一つもない状態です。
フォルダが作成できません	999番のフォルダの中に9999番のファイルが登録されている状態で、撮影しようとしたときに表示されます。撮影を続けるには、不要なファイルを消去する必要があります(118ページ)。
プリントする画像がありません DPOF設定してください	プリントする画像が指定されていないときに表示されます。DPOFの設定を行ってください(130ページ)。
プリントエラー	プリント中のエラー時に表示されます。 • プリンター電源オフ、 • プリンター本体のエラー、など
メモリがいっぱいです	撮影可能枚数を使い切った場合、または編集後のファイルを保存できるメモリーの空きがない場合に表示されます。不要なファイルを消去してください(118ページ)。
もう一度、電源を入れ直してください	レンズに障害物が当たると、このメッセージが表示され、電源が切れます。障害物がないことを確認して、再度電源を入れてください。
用紙を補充してください	プリント時に、プリンターの用紙が切れている場合に表示されます。

レンズエラー	レンズが予期せぬ動作をしたとき、このメッセージが表示され、電源が切れます。再度電源を入れても同じメッセージが表示される場合は、カシオテクノ修理相談窓口またはお買い上げの販売店にお問い合わせください(186ページ)。
SYSTEM ERROR	カメラのシステムが壊れていますので、カシオテクノ修理相談窓口またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

主な仕様／別売品

主な仕様

品　名 . . . . .デジタルカメラ
機種名 EX-Z1050

■ カメラ機能

記録画像ファイル
フォーマット . . . . .静止画：JPEG(Exif Ver.2.2)、DCF(Design rule for Camera File system)1.0準拠、DPOF対応
動画　：AVI形式、Motion JPEG準拠
音声　：WAV

記録媒体 内蔵メモリー15.4MB
SDHCメモリーカード(SDHC Memory Card)
SDメモリーカード(SD Memory Card)
マルチメディアカード(MMC)
マルチメディアカードプラス(MMC*plus*)

記憶容量

- 静止画

画像サイズ (pixels)	画質	画像ファイルサイズ	内蔵メモリー 15.4MB	SDメモリーカード ※256MB
10M (3648×2736)	高精細-F	約 6.4MB	約 2枚	約 38枚
	標　準-N	約 3.38MB	約 4枚	約 72枚
	エコノミー-E	約 2.27MB	約 6枚	約 107枚
3:2 (3648×2432)	高精細-F	約 5.6MB	約 2枚	約 43枚
	標　準-N	約 2.97MB	約 5枚	約 82枚
	エコノミー-E	約 2.0MB	約 7枚	約 121枚
16:9 (3648×2048)	高精細-F	約 4.59MB	約 3枚	約 53枚
	標　準-N	約 2.46MB	約 6枚	約 99枚
	エコノミー-E	約 1.67MB	約 9枚	約 145枚
5M (2560×1920)	高精細-F	約 2.99MB	約 5枚	約 81枚
	標　準-N	約 1.62MB	約 9枚	約 150枚
	エコノミー-E	約 1.12MB	約 13枚	約 217枚
3M (2048×1536)	高精細-F	約 2.0MB	約 7枚	約 121枚
	標　準-N	約 1.15MB	約 13枚	約 211枚
	エコノミー-E	約 720KB	約 21枚	約 338枚
2M (1600×1200)	高精細-F	約 1.26MB	約 12枚	約 193枚
	標　準-N	約 790KB	約 19枚	約 308枚
	エコノミー-E	約 470KB	約 33枚	約 518枚
VGA (640×480)	高精細-F	約 330KB	約 47枚	約 738枚
	標　準-N	約 190KB	約 82枚	約 1282枚
	エコノミー-E	約 140KB	約 111枚	約 1740枚

- 動画

画質 (pixels)	1ファイル最長記録時間	転送レート (フレームレート)	内蔵メモリー 15.4MB	SDメモリーカード※ 256MB
高品位－HQ 640×480	メモリーの許す限り	約10.2 メガビット/秒 (25フレーム/秒)	約12秒	約3分15秒
標準－Normal 512×384	メモリーの許す限り	約6.1 メガビット/秒 (25フレーム/秒)	約20秒	約5分27秒
長時間－LP 320×240	メモリーの許す限り	約2.45 メガビット/秒 (12.5フレーム/秒)	約52秒	約13分34秒

※撮影できる枚数は目安であり、表示されている枚数よりも少なくなる可能性があります。

※画像ファイルサイズは目安であり、撮影対象により、画像ファイルサイズが変わります。

※松下電器産業(株)製の場合です。使用するメモリーカードによって撮影枚数は異なる場合があります。

※容量の異なるメモリーカードをご使用になる場合は、おおむねその容量に比例した枚数が撮影できます。

※撮影可能な動画のファイルサイズは、1ファイル最大4GBまでです。

消去.................1ファイル単位、全ファイル一括消去可能
（メモリープロテクト機能付き）
有効画素数 1010万画素
撮像素子.............1/1.75型正方画素原色CCD
（総画素数：1030万画素）
レンズ／焦点距離 ....F2.8-5.1/f＝7.9〜23.7mm
（35mmフィルム換算38〜114mm相当）
非球面レンズを含む5群7枚
ズーム...............光学ズーム3倍／
デジタルズーム4倍
（画像サイズ：10M（3648×2736 pixels）時）
（光学ズーム併用12倍）
焦点調節.............コントラスト検出方式オートフォーカス
フォーカスモード：
オートフォーカス（静止画のみ）／マクロモード／パンフォーカス（動画のみ）／無限遠モード／マニュアルフォーカス選択可能
AFエリア：
スポット／マルチ／追尾選択可能、
AF補助光付き
撮影可能距離
（レンズ表面より）....オートフォーカスモード：約40cm〜∞
マクロモード：約10cm〜約50cm
無限遠モード：∞
マニュアルフォーカスモード：約10cm〜∞
※ 光学ズームにより、範囲は変化します。
露出制御.............測光方式：撮像素子によるマルチパターン測光／中央重点測光／スポット測光
制御方式：プログラムAE
露出補正：－2EV〜+2EV（1/3EV単位）

シャッター ....CCD電子シャッター／メカシャッター併用
静止画（オート）：1/2〜1/1000秒
※ベストショットモードの一部では異なります。
夜景を写します：4〜1/1000秒
絞り値 ....F2.8〜F8.0※　自動切替式
※ F8.0はNDフィルター併用による値です。
※ 光学ズームにより、絞り値は変化します。
ホワイトバランス ....オート／固定（6モード）／マニュアル
感度設定 ....静止画：オート／ISO 80／ISO 100／ISO 200／ISO 400／ISO 800
※メニュー画面で“ブレ軽減”を“オート”に、またはベストショットの“ブレ軽減”に設定した場合は最大ISO800、ベストショットの“高感度”においては最大ISO1600
動画：オート
セルフタイマー ......作動時間約10秒、2秒、トリプルセルフタイマー
内蔵フラッシュ ......発光モード：フラッシュオート、発光禁止、強制発光、赤目軽減機能、ソフト発光機能切替可能
フラッシュ撮影範囲：
広角時　約0.1m〜約3.3m
望遠時　約0.5m〜約1.8m
フラッシュ連写：
広角時　約0.4m〜約2.0m
望遠時　約0.5m〜約1.1m
※ ISO感度オート時
※ 光学ズームにより、撮影範囲は変化します。
撮影／録音関連機能 ..静止画撮影（音声付き）、マクロ撮影、セルフタイマー撮影、連写、ベストショット撮影、動画撮影（音声付き）、音声録音（ボイスレコード）
※ 音声はモノラルです。

音声記録時間……………音声付き静止画撮影：1画像につき最長約30秒間
ボイスレコード：約48分（内蔵メモリーの場合）
アフターレコーディング：1画像につき最長約30秒間
モニター…………………2.6型ワイドTFTカラー液晶
114,960（479×240）画素
ファインダー……………液晶モニター
時計機能…………………クォーツデジタル時計内蔵
日付・時刻：画像データと同時に記録
タイムスタンプ機能あり
自動カレンダー：2049年まで
ワールドタイム…………世界162都市（32タイムゾーン）に対応
都市名、日付、時刻、サマータイム
入出力端子………………USB/AV接続端子
USB………………………USB2.0（Full-Speed）対応
マイク……………………モノラル
スピーカー………………モノラル

■ 電源部、その他

電源………………………リチウムイオン充電池（NP-40）×1個
電池寿命
電池寿命は、温度23℃で使用した場合の電源が切れるまでの目安であり、保証時間、または保証枚数ではありません。低温下で使うと、電池寿命は短くなります。

撮影枚数（CIPA）※1	約370枚
連続再生時間（静止画）※2	約9時間50分
動画連続撮影時間	約2時間50分
ボイスレコード録音時間※3	約12時間

- 使用電池：NP-40（定格容量：1300mAh）
- 記録メディア：SDメモリーカード
- 測定条件

※1 撮影枚数（CIPA）
CIPA規準に準ずる
温度（23℃）、液晶モニターオン、30秒毎にズームのワイド端とテレ端で交互に撮影、フラッシュ発光（2枚に1回）、10回撮影に1度電源を切／入操作

※2 連続再生時間
温度（23℃）、約10秒に1枚ページ送り

※3 ボイスレコード録音時間は、連続で録音したときの時間です。

- 前記は、新品の電池のフル充電状態での数値です。繰り返し使用すると、電池寿命は徐々に短くなります。
- フラッシュ、ズーム、オートフォーカスの使用頻度や電源が入った状態の時間により、撮影時間または枚数は大幅に異なる場合があります。

消費電力…………………DC3.7V　約3.8W
外形寸法…………………幅91.1mm×高さ57.2mm×奥行き24.2mm
（突起部除く、最薄部20.7mm）
質量………………………約125g（電池、付属品除く）
付属品……………………リチウムイオン充電池（NP-40）、充電器（BC-31L）、電源コード、USBケーブル、AVケーブル、ストラップ、CD-ROM、取扱説明書（保証書付き）

■ リチウムイオン充電池（NP-40）

定格電圧. 3.7V
定格容量. 1300mAh
使用周囲温度 . . . . .0〜40℃
外形寸法. . . . . .幅38.5mm×高さ38.0mm×奥行き9.3mm
質量. 約34g

■ 充電器（BC-31L）

入力電源. . . . . .AC100−240V　80mA　50/60Hz
出力電源. . . . . .DC4.2V　600mA
使用周囲温度 . . . . .5〜35℃
適合電池. . . . . .リチウムイオン充電池（NP-40）
充電時間. 約2時間30分
サイズ. . . . . .幅55mm×高さ20mm×奥行き86mm
（突起部含まず）
質量. 約58g

別売品

- 充電器　BC-30L
- リチウムイオン充電池　NP-40
- ソフトケース　ESC-90
- ソフトケース　ESC-91
- ネックストラップ　ENS-1
- ネックストラップ　ENS-2
- ウォータープルーフケース（防水ケース）　EWC-90

別売品は、お買い求めの販売店、またはカシオ・オンライン
ショッピングサイト（e-カシオ）にご用命ください。
e-カシオ：http://www.e-casio.co.jp/

カシオデジタルカメラに関する情報は、カシオデジタルカメ
ラオフィシャルWebサイトでもご覧になることができます。
http://dc.casio.jp/

索引

英数字

あ

か

さ

た

B

な

は

ま

や

ら

わ